

令和6年度葛飾区一般廃棄物処理基本計画見直しに係る
基礎調査報告書
(概要版)

令和7年3月

葛 飾 区

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1.1 調査の目的	1
1.2 調査内容	1
1.3 報告書の共通事項	1
1.4 調査結果の要約	2
第 2 章 家庭ごみの排出原単位調査	5
2.1 調査方法	5
2.2 調査結果	6
第 3 章 集積所ごみの排出実態調査	8
3.1 調査方法	8
3.2 組成分析結果	9
3.3 プラスチック製容器包装の汚れ調査	12
3.4 製品プラスチックの品目	13
3.5 排出容器の見かけ比重	16
3.6 過去の調査との比較	17
3.7 適正排出率と資源等混入率	18
第 4 章 区民アンケート調査	20
4.1 調査方法	20
4.2 フェイス項目	20
4.3 ごみの減量について	23
4.4 情報提供・PR 活動について	26
4.5 ごみ・資源の分別・リサイクルについて	29
4.6 今後の区の取り組みについて	38
第 5 章 事業系ごみ実態調査（アンケート調査）	40
5.1 調査方法	40
5.2 フェイス項目	40
5.3 ごみや資源の処理方法について	42
5.4 ごみ減量・リサイクルの取り組みについて	45
5.5 ごみ減量・リサイクルに関する情報について	49
5.6 事業系ごみフローの推計	51
第 6 章 ごみ・資源排出構造分析と将来推計	55
6.1 ごみ・資源排出構造分析	56
6.2 現状のまま推移した場合のごみ・資源の将来推計	62

第 1 章 調査の概要

1.1 調査の目的

葛飾区一般廃棄物処理基本計画（第 4 次）の見直しを行うにあたり、ごみ減量に関する区民の意識を把握するとともに、区内で発生するごみ量及び排出状況などの基礎データを収集する。

1.2 調査の内容

本調査では以下の調査を行った。

(1) 家庭ごみの排出原単位調査

集積所にて、サンプルのラベルに記載された家族人数と前回排出日を調査票に転記し、重量を計量することで、一人一日あたりの排出量（以下、排出原単位という）を把握した。

(2) 集積所ごみの排出実態調査

集積所に排出された燃やすごみ、燃やさないごみ及びプラスチック製容器包装を回収して組成分析を行い、分別度合や資源の混入割合などを把握した。

(3) 区民アンケート調査

区民のごみ排出及びリサイクルに関する意識を把握するためにアンケート調査を行った。区内に居住する区民のうち、無作為に抽出した 3,000 世帯を対象とし、調査票を郵送した。調査票は無記名式で、郵送またはオンラインで回収した。

(4) 事業系ごみ実態調査（アンケート調査）

事業系ごみの業種別・従業員規模別の排出原単位、事業所のごみ処理・リサイクルの実態や意識・意向を把握するためにアンケート調査を行った。区内事業所のうち、無作為に抽出した 3,000 事業所を対象とし、調査票を郵送した。調査票は無記名式で、郵送またはオンラインで回収した。

1.3 報告書の共通事項

表やグラフ中の合計値が、丸め誤差により一致しない場合がある。

表やグラフ中で「0（ゼロ）」と表示されているところは、表示されている小数点よりも小さい値がある場合を表しており、空欄は値がない場合を表している。

1.4 調査結果の要約

主な調査結果を以下に要約する。

(1) 家庭ごみの排出実態

① 家庭ごみの排出原単位調査

単身世帯の排出原単位が高い。

※「第2章 家庭ごみ排出原単位調査」(P.5～) 参照

家庭ごみ排出原単位は、「燃やすごみ」が277g/人日、「燃やさないごみ」が24g/人日「プラスチック製容器包装」が31g/人日である。家族人数別では、全ての分別区分で1人世帯の排出量が最も高い。

本区は令和2年国勢調査では、世帯総数215,709世帯のうち、1人世帯が93,974世帯、2人世帯が55,555世帯、あわせて149,529世帯と69.3%を占めており、今後も少人数世帯の増加が見込まれることから、本区のごみ量・ごみ質に与える影響に留意する必要がある。

② 集積所ごみの排出実態調査

ごみの適正処理の基本は、排出源での分別であり、適正な分別をすることで容易にごみを減量できることから、今後も、区民・事業者に対して適正な排出を促していく必要がある。

※「第3章 集積所ごみの排出実態調査 3.7 適正排出率と資源等混入率」(P.18～) 参照

「燃やすごみ」の適正排出率は79.5%で、燃やさないごみが1.0%、プラスチック製容器包装が8.1%、資源が11.5%混入している。資源は容器包装紙類が3.1%、雑紙が2.7%、OA用紙が2.5%などほとんどが紙類である。

「燃やさないごみ」の適正排出率は79.3%で、燃やすごみが10.0%、プラスチック製容器包装が0.6%、資源が10.1%混入している。燃やすごみは容器包装以外のプラスチック類が6.5%、資源は飲食用びんが7.2%、飲食用缶が1.8%を占めている。

「プラスチック製容器包装」の適正排出率は80.5%で、燃やすごみが14.0%、燃やさないごみが1.1%、資源が4.4%混入している。燃やすごみは容器包装以外のプラスチック類が10.2%と大半を占めている。

(2) 区民のごみ減量行動や意識など

① 家庭におけるごみ減量意識・行動

区民に対して、資源物の分別の徹底などリサイクルへの取り組みを促すとともに、特に食品ロスの削減やプラスチックの有効利用については、国内外を問わず重要な問題であることから、発生抑制などの取り組みを推進する必要がある。

※「第4章 区民アンケート調査 4.3 ごみの減量について」(P.23～) 参照

日常のごみ減量行動については、「資源物の分別徹底」が最も多く89.5%となっており、リサイクルに取り組んでいる状況がうかがえる。次いで、「マイバッグ持参」が87.3%、「食べ残しを出さない」が77.4%、「賞味期限切れを出さない」が73.1%といった項目が7割以上の実施率となっており、発生抑制に関する取り組みについても実施している区民が多い。一方で、「ばら売り・量り売り商品の購入」が9.2%、「リユースびんの利用」が6.3%と、商品の選択に関する取り組みは1割以下と実施率が低くなっている。「ばら売り・量り売り商品の購入」「リユースびんの利用」などを区民が選択できるように、販売店などに対して仕組みづくりを促していく必要がある。

②区民への情報提供・PR 活動について

区民に広く周知するような基本的な情報については、紙ベースの情報の充実が必要である。一方で、区民の利便性を向上させるために SNS を利用した発信など情報源の拡充が必要である。

※「第4章 区民アンケート調査 4.4 情報提供・PR 活動について」(P. 26～) 参照

ごみに関する情報源については、「資源とごみの収集カレンダー」が 86.3%と最も多く、次いで、「資源とごみの正しい分け方・出し方（保存版）」が 47.8%と、紙ベースを情報源にしている人が多い。一方で、「区のホームページ」が 12.1%、「区の公式 LINE」が 1.0%と低くなっているが、区民の利便性を向上させるためにこれらの情報源の拡充が必要である。

③家庭における資源分別行動

雑紙の分別に対する認知度が低く、特にごみとして捨てられている量が多いことから、情報提供や排出方法の工夫など、雑紙の分別が進むような取り組みが必要である。

※「第4章 区民アンケート調査 4.5 ごみ・資源の分別・リサイクルについて」(P. 29～) 参照

現在の分別区分については「今のままの回収品目でよい」が 89.1%と多数を占めた。今後も、リサイクルをめぐる環境の変化や区民のニーズを把握しながら、リサイクル品目などの拡充について検討する必要がある。

(3) 事業所のごみ減量行動や意識など

①事業系ごみの排出実態

事業系ごみについては、有料ごみ処理券の貼付を徹底するとともに、基準を超えて排出している事業者を中心に、自己処理原則の徹底を図るため、許可業者への委託を促すような指導や許可業者の情報提供などについて検討する必要がある。

※「第5章 事業系ごみ実態調査 5.3 ごみや資源の処理方法について」(P. 42～)、「5.6 事業系ごみフローの推計」(P. 51～) 参照

今回の調査対象である従業者数 30 人未満の小規模事業所において、ごみの処理方法については「区ごみ収集」が 74.5%と、約 4 分の 3 の事業所が区のごみ収集を利用している。また、資源の処理方法についても「区資源回収」が 55.5%と、6 割弱の事業所が区の資源回収を利用している。

住居併用事業者の排出状況については、「まとめて処理」が 22.4%、「一部を別々に処理」が 12.3%と、あわせて約 3 分の 1 の事業所が家庭ごみと事業系ごみを一緒に排出していると回答している。また、有料ごみ処理券の貼付については、「時々貼っている」が 7.0%、「貼付していない」が 14.4%と事業系ごみを無料で排出している事業者がある。

②事業所におけるごみ減量行動や情報源について

事業系ごみについては、事業者が自らの責任で適正に処理する必要があることなどの情報を提供することで、自己処理原則の徹底を図る必要がある。

※「第5章 事業系ごみ実態調査 5.4 ごみ減量・リサイクルの取り組みについて」(P. 45～)、「5.5 ごみ減量・リサイクルに関する情報について」(P. 49～) 参照

ごみ減量・リサイクルについて実施している取り組みとしては、「資源分別の徹底」が 80.0%と最も高く、次いで、「裏面利用など紙の使用方法を工夫」が 62.8%、「生ごみの水きり」が 40.2%などとなっている。

ごみ減量・リサイクルに関する情報源については、「区配布の収集カレンダー・チラシ」が 77.1% を占めており、区民向けと同様に、基本的な情報については、紙ベースの情報の充実が必要である。

区の情報提供・PR 活動に対する要望については、「事業系ごみの正しい分け方や適正処理の方法、法制度に関する情報」が 35.2%と最も高い。

(4) 区全体のごみ・資源の排出構造と将来推計

①ごみ・資源の排出構造

家庭ごみ・事業系ごみともに、分別の徹底によりさらなるごみ減量の余地がある。

※「第 6 章 ごみ・資源排出構造分析と将来推計 6.1 ごみ・資源排出構造分析」(P. 56～) 参照

区収集の燃やすごみ・燃やさないごみ中の事業系ごみ比率は 7.7%と推定される。区回収の事業系の比率は 11.0%、集団回収の事業系の比率は 13.6%と推計される。

品目別の排出量を分析したところ、家庭系ごみの古紙は年間約 7,000t (内、雑紙が 4,713t) が燃やすごみに排出され、小規模事業所からの古紙類も約 6,800t がごみとして処分されていることなどが分かる (図 1-1-1)。家庭ごみ・事業系ごみともに、分別の徹底によりさらなるごみ減量の余地がある。

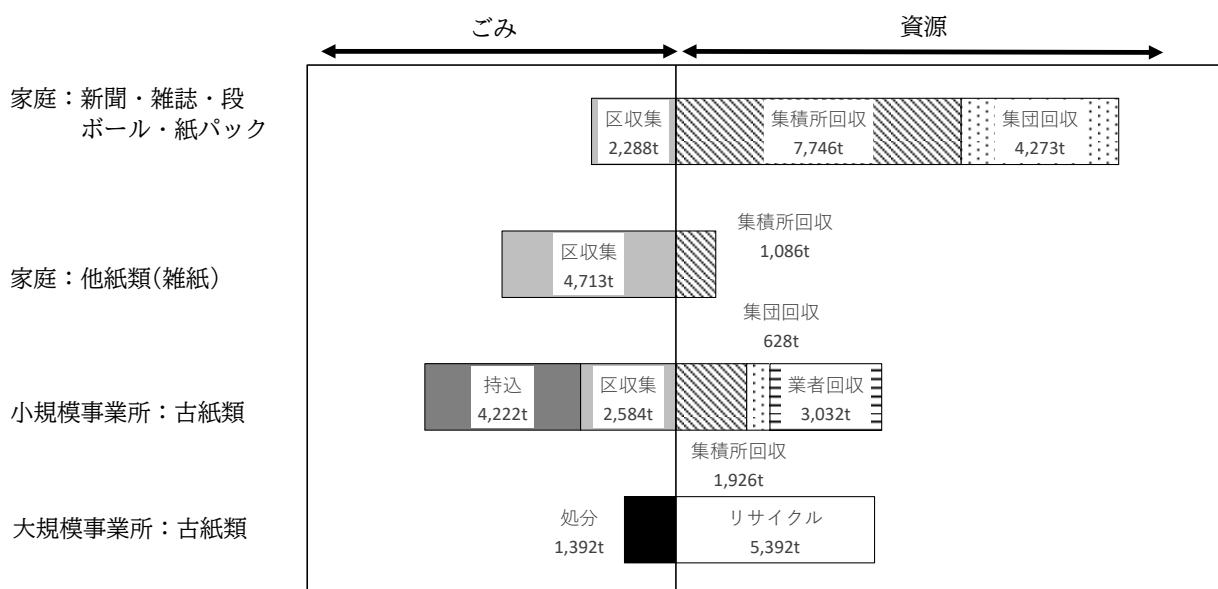


図 1-1-1 家庭・事業所から排出されるごみ・資源の排出先 (古紙類の例※)

※「第 6 章 ごみ・資源排出構造分析と将来推計」表 6-1-4～表 6-1-8 (P. 59～61) から抜粋して作成

②ごみ・資源排出量の将来推計

現状のまま推移した場合、区収集ごみ・資源の総排出量は今後も減少傾向が続き、持込ごみは横ばいで推移するものと推定される。

※「第 6 章 ごみ・資源排出構造分析と将来推計 6.2 現状のまま推移した場合のごみ・資源の将来推計」(P. 62～) 参照

現状のまま推移した場合、区収集ごみ量は今後も減少傾向が続き、持込ごみは横ばいで推移するものと推定される。令和 12 年度には、区収集ごみ量は現行の一般廃棄物処理基本計画 (第 4 次) が掲げる目標を上回る水準で推移し、持込ごみは目標とほぼ同じ水準で推移するものと推定される。

第2章 家庭ごみの排出原単位調査

2.1 調査方法

(1) 調査対象

① 調査地区・集積所

令和4年度に集積所ごみの排出実態調査を行った調査対象地区(表3-1-1)の各クラスターから1地区ずつ合計6地区を選定し、地区内の集積所を抽出した。調査対象地区を表2-1-1に示す。

表2-1-1 排出原単位調査の調査対象地区

クラスター番号	地区の特徴		調査対象地区
1	大型駅周辺の商業地域		亀有3丁目
2	駅周辺の準商業地域		青戸3丁目
3	大規模団地などが多い地域		東新小岩3丁目
4	一戸建て・低中層集合住宅地域	人口密度：高 商業活動：高	東立石3丁目
5		人口密度：中 商業活動：中	鎌倉2丁目
6		人口密度：低 商業活動：低	南水元2丁目

② 調査対象分別区分

調査対象の分別区分は以下の3分別である。

- 燃やすごみ（可燃）
- 燃やさないごみ（不燃）
- プラスチック製容器包装（プラ）

(2) 調査期間

調査は令和6年10月22日（火）～11月6日（水）の期間（表2-1-2）実施した。

表2-1-2 排出原単位調査の調査日程

地区	10月										11月					
	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
亀有							プラ	可燃								不燃
青戸									プラ					可燃	不燃	
東新小岩									可燃		プラ			不燃		
東立石	不燃	プラ					可燃									
鎌倉		可燃	不燃	プラ												
南水元	可燃				不燃					プラ						

(3) 調査項目

① サンプル重量の計量

② 家族人数及び前回排出日の聞き取り

(4) 調査の手順

① 調査実施の告知

事前に、集積所を利用している世帯に調査説明のチラシと家族人数と前回排出日を記載するためのラベルを配布した。

② サンプルの計量・ヒアリング

調査員が調査対象集積所を巡回し、サンプルのラベルに記載された家族人数と前回排出日を調査票に転記し、重量を計量した。

2.2 調査結果

地域別調査世帯数を表 2-2-1 に、家族人数別調査世帯数を表 2-2-2 に示す。調査世帯数は延べ 998 世帯で、燃やすごみが 560 世帯、燃やさないごみが 172 世帯、プラスチック製容器包装が 266 世帯であった。

回収重量を家族人数と前回排出日からの経過日数で除して排出原単位を算定した。算定した地域別排出原単位を表 2-2-3 に、家族人数別排出原単位を表 2-2-4 及び図 2-2-1 に示す。

表 2-2-1 地域別調査世帯数

単位（世帯）

	燃やすごみ	燃やさないごみ	プラスチック製容器包装	合計
亀有	107	31	39	177
青戸	125	22	33	180
東新小岩	18	3	14	35
東立石	77	32	48	157
鎌倉	90	37	62	189
南水元	143	47	70	260
合計	560	172	266	998

表 2-2-2 家族人数別調査世帯数

単位（世帯）

	燃やすごみ	燃やさないごみ	プラスチック製容器包装	合計
1人世帯	112	34	44	190
2人世帯	229	60	113	402
3人世帯	116	38	56	210
4人世帯	74	28	42	144
5人世帯	23	9	9	41
6人世帯	6	2	2	10
7人世帯		1		1
合計	560	172	266	998

表 2-2-3 地域別排出原単位

単位 (g/人日)

	燃やすごみ	燃やさないごみ	プラスチック製容器包装
亀有	249	20	43
青戸	300	13	36
東新小岩	320	24	43
東立石	260	27	33
鎌倉	282	17	28
南水元	279	34	23
全体	277	24	31

表 2-2-4 家族人数別排出原単位

単位 (g/人日)

	燃やすごみ	燃やさないごみ	プラスチック製容器包装
1人世帯	315	39	53
2人世帯	291	25	31
3人世帯	266	19	27
4人以上世帯	217	13	19
全体	277	24	31

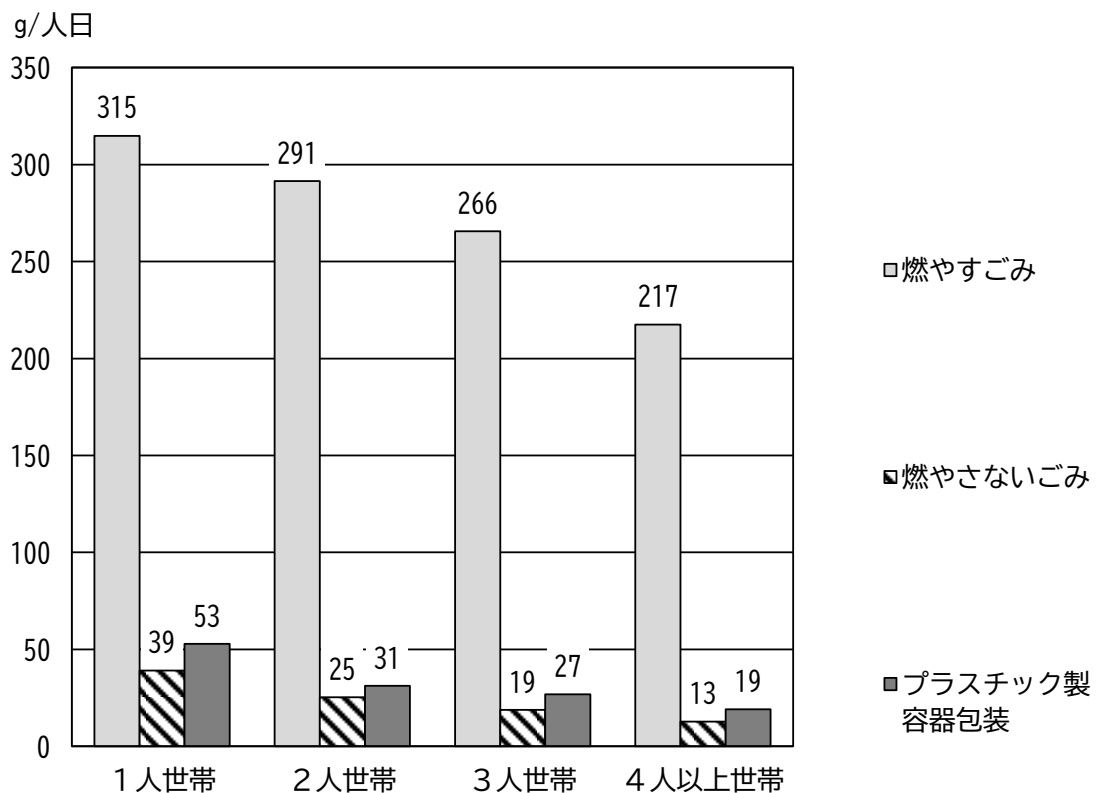


図 2-2-1 家族人数別排出原単位

第3章 集積所ごみの排出実態調査

3.1 調査方法

(1) 調査対象

① 調査地区・集積所

調査対象地区を表 3-1-1 に示す。

表 3-1-1 調査対象地区

クラスター番号	地域の特徴	対象地域	対象地域の人口（人）	対象地域の人口割合	集積所番号	対象集積所
1	大型駅周辺の商業地区	亀有3丁目 金町6丁目 東金町1丁目	16,401	3.5%	1	亀有3丁目
2	駅周辺の準商業地区	立石1・4・5・7丁目 四つ木2・5丁目 堀切3丁目 小菅4丁目 お花茶屋1丁目 亀有5丁目 青戸3丁目 新小岩1・2丁目 金町1丁目	44,787	9.5%	2	立石1丁目
					3	立石4丁目
					4	立石7丁目
					5	四つ木2丁目
					6	新小岩1丁目
3	大規模団地などが多い地区	東四つ木2丁目 白鳥4丁目 青戸7丁目 東新小岩1～3丁目 西新小岩1丁目 高砂4丁目 柴又2丁目 新宿6丁目 南水元3丁目	42,578	9.1%	7	東新小岩1丁目
					8	柴又2丁目
4	人口密度が比較的高く事業活動が活発な地区	立石2・3・6丁目 東立石2・3丁目 四つ木4丁目 東四つ木4丁目 宝町1・2丁目 堀切8丁目 東堀切2丁目 お花茶屋3丁目 白鳥1～3丁目 亀有1・2・4丁目 西亀有2・4丁目 青戸4～6丁目 東新小岩5～8丁目 西新小岩4丁目 奥戸3・4丁目 高砂3・5丁目 鎌倉1・3丁目 柴又3丁目 新宿4丁目 金町2・4・5丁目 東金町2丁目 西水元5丁目	139,248	29.6%	9	宝町1丁目
					10	白鳥1丁目
					11	白鳥2丁目
					12	亀有1丁目
					13	西亀有2丁目
					14	青戸4丁目
					15	東新小岩7丁目
					16	高砂3丁目
					17	金町4丁目
5	一戸建て・低中層集合住宅地区	堀切5～7丁目 東堀切1丁目 小菅2丁目 お花茶屋2丁目 西亀有3丁目 新小岩3・4丁目 東新小岩4丁目 西新小岩5丁目 高砂7・8丁目 鎌倉2・4丁目 細田1・4・5丁目 柴又1・4丁目 東金町3～5丁目 水元2～4丁目 東水元1丁目 南水元4丁目	85,526	18.2%	18	鎌倉2丁目
					19	東金町3丁目
					20	東金町5丁目
6	人口密度が低く事業活動があまり活発ではない地区	立石8丁目 東立石1・4丁目 四つ木1・3丁目 東四つ木1・3丁目 堀切1・2・4丁目 東堀切3丁目 小菅1・3丁目 西亀有1丁目 青戸1・2・8丁目 西新小岩2・3丁目 奥戸1・2・5～9丁目 高砂1・2・6丁目 細田2・3丁目 柴又5～7丁目 新宿1～3・5丁目 金町3丁目 東金町6～8丁目 水元1・5丁目 東水元2～6丁目 南水元1・2丁目 西水元1～4・6丁目	141,214	30.1%	21	堀切1丁目
					22	青戸1丁目
					23	奥戸2丁目
					24	奥戸9丁目
					25	高砂1丁目
					26	細田2丁目
					27	柴又5丁目
					28	新宿3丁目
					29	東水元5丁目
					30	西水元2丁目
合計			469,754	100.0%		

②分析対象分別区分

分析対象の分別区分は以下の3分別である。

燃やすごみ、燃やさないごみ、プラスチック製容器包装

(2) 調査期間

サンプルの収集は、令和6年10月15日(火)～10月17日(木)、10月22日(火)～11月4日(月)(日曜日は除く)に実施し、サンプルの分析は令和6年10月22日(火)～11月4日(月)(日曜日は除く)に実施した。

(3) 調査分析作業場所

分析作業は、東京二十三区清掃一部事務組合葛飾清掃工場で実施した。

(4) 調査項目

- ①調査サンプルの回収・分析
- ②家庭ごみと事業系ごみの分類
- ③組成別に分別と計量
- ④プラスチック製容器包装の汚れ調査
- ⑤製品プラスチックの品目調査
- ⑥写真撮影

3.2 組成分析結果

調査結果をクラスター別と、クラスターを対象地域人口割合で加重平均した値で集計した。なお、加重平均で用いる対象地域人口は、直近の国勢調査(令和2年10月1日現在)の値を使用した。

(1) 燃やすごみ

①家庭ごみ

家庭ごみの燃やすごみは、厨芥が32.0%と最も高く、次いで、紙類が29.3%、プラスチック類が12.5%と続いている。

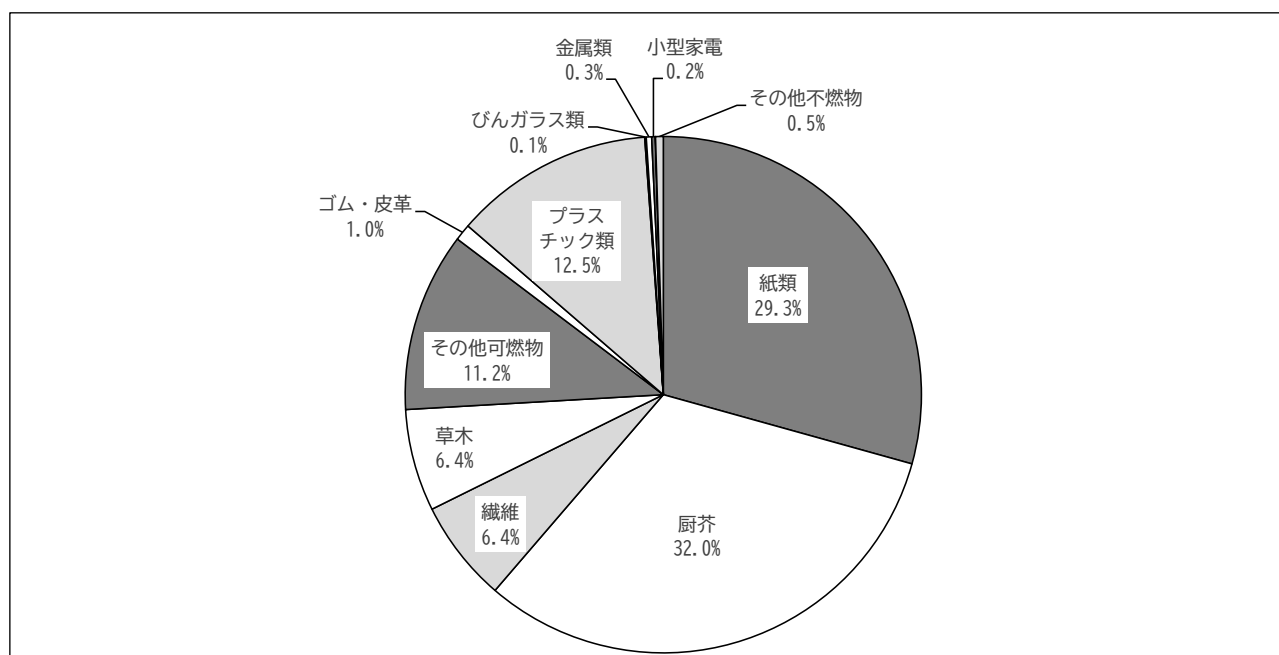


図 3-2-1 燃やすごみの組成

②事業系ごみ

事業系ごみの燃やすごみは、厨芥が 51.1%と最も高く、次いで、紙類が 23.7%、ゴム・皮革が 15.1%と続いている。

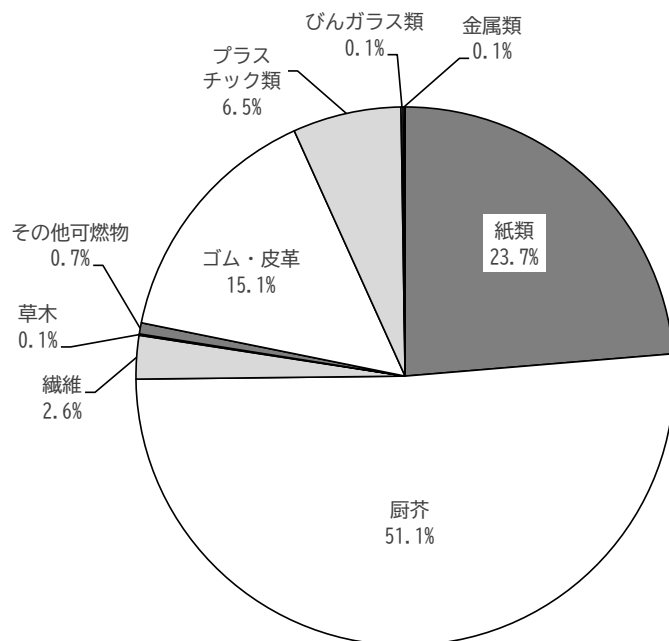


図 3-2-2 燃やすごみの組成

③家庭ごみと事業系ごみの合計

家庭ごみと事業系ごみを合計した燃やすごみは、厨芥が 33.3%と最も高く、次いで、紙類が 29.0%、プラスチック類が 11.9%と続いている。

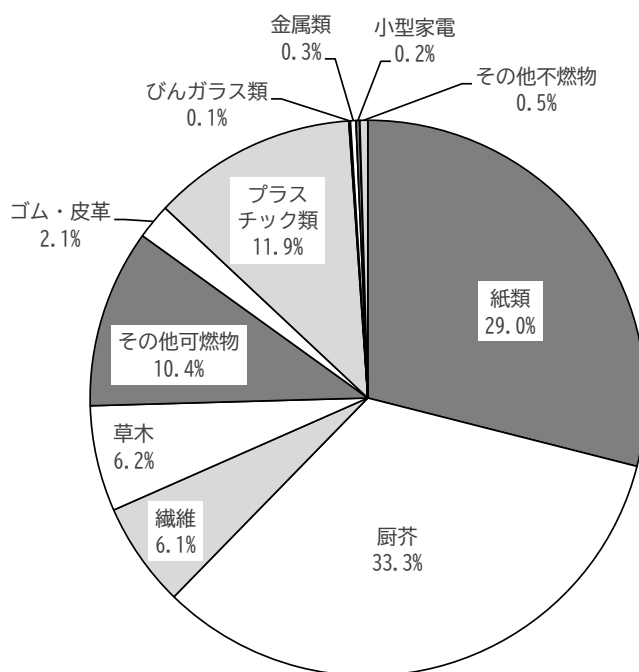


図 3-2-3 燃やすごみの組成

(2) 燃やさないごみ

家庭ごみの燃やさないごみは、金属類が 28.2%と最も高く、次いで、びんガラス類が 17.7%、小型家電が 16.1%と続いている。

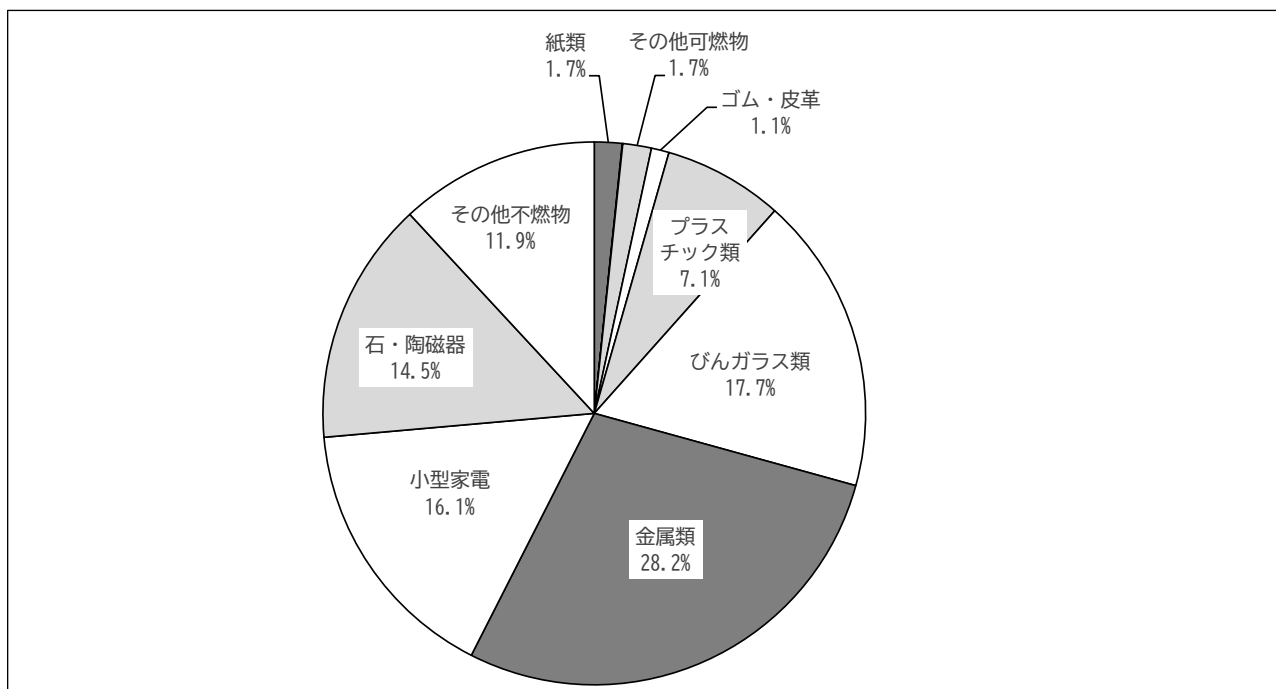


図 3-2-4 燃やさないごみの組成

(3) プラスチック製容器包装

家庭ごみのプラスチック製容器包装は、プラスチック製容器包装は、プラスチック類が 94.8%、プラスチック類以外のものとして、その他可燃物が 2.7%、紙類 0.8%など合計 5.2%含まれている。

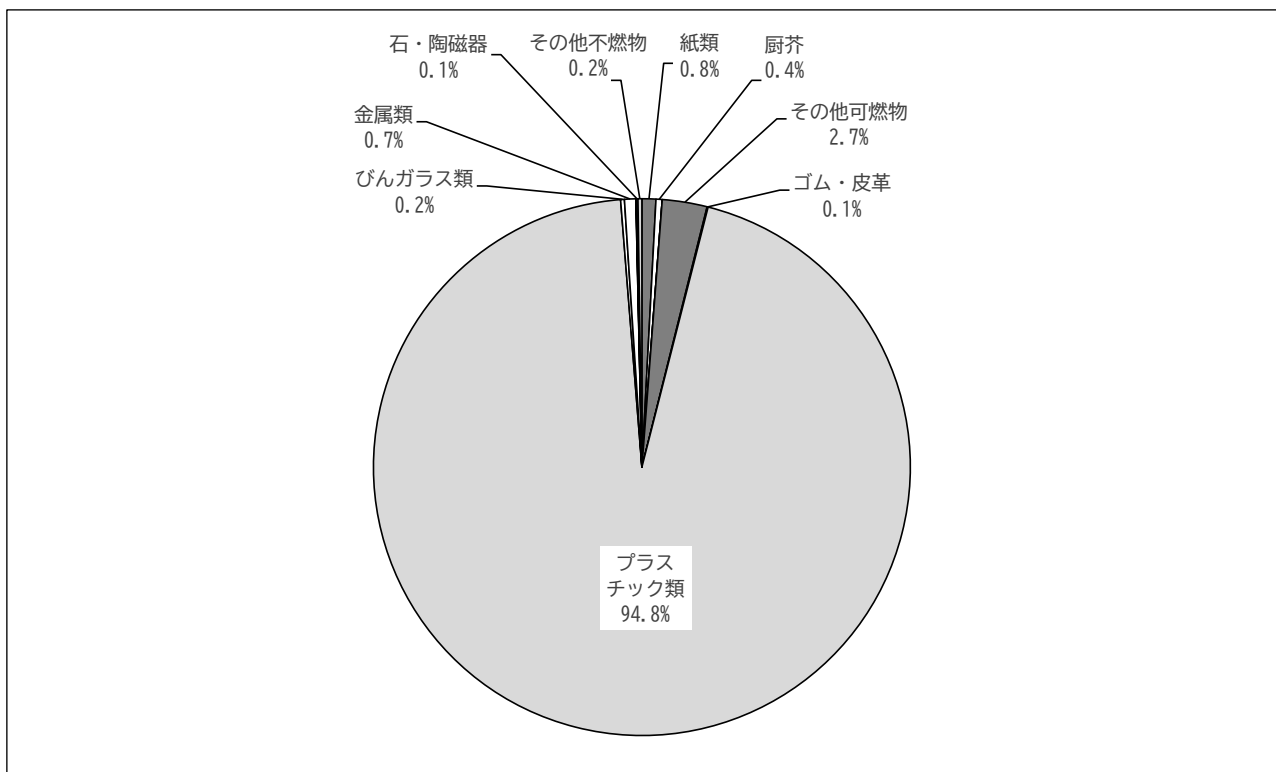


図 3-2-5 プラスチック製容器包装の組成

3.3 プラスチック製容器包装の汚れ調査

プラスチック製容器包装中のプラスチック製容器包装の内訳は、パック・カップ類が最も多く 39.6%、次いで、包装フィルム類が 35.7%、その他ボトルが 12.8%と続いている。プラスチック製容器包装中には、外側汚れ 2.3%と残留物あり 1.9%が含まれている。

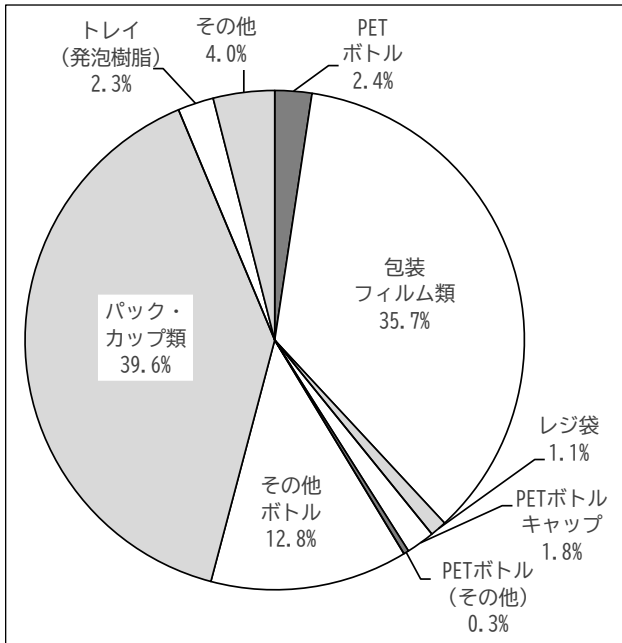


図 3-3-1 プラスチック製容器包装組成

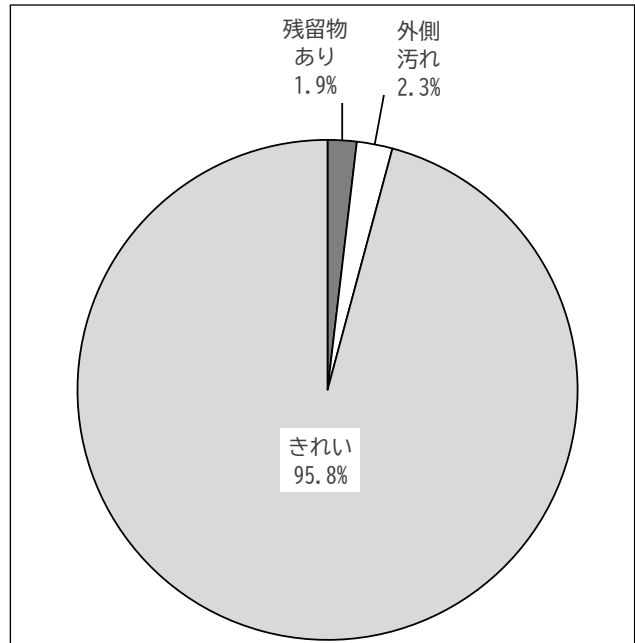


図 3-3-2 プラスチック製容器包装の汚れ状況

3.4 製品プラスチックの品目

(1) 燃やすごみ

① 家庭ごみ

家庭ごみの燃やすごみの製品プラスチックの組成は、プラスチックのみが 86.0%、複合品が 14.0%である。

表 3-4-1 家庭ごみの燃やすごみの製品プラスチックの品目別の重量と割合

製品名		個数	重量(kg)	重量割合
プラスチックのみ	CD	48	0.81	1.9%
	ハンガー	41	1.38	3.3%
	エコポリポット	32	0.32	0.8%
	ケース(ふたなし)	25	2.03	4.8%
	看板	23	0.46	1.1%
	歯ブラシ	22	0.23	0.5%
	マット	14	0.90	2.1%
	バッグ	11	0.59	1.4%
	クリアファイル	11	0.27	0.6%
	トートバッグ	5	0.16	0.4%
	スポンジ	4	0.08	0.2%
	トレイ	3	0.48	1.1%
	DVD	3	0.31	0.7%
	皿	3	0.20	0.5%
	スマホカバー	3	0.08	0.2%
	ヘルメット	2	0.79	1.9%
	フォトフレーム	2	0.36	0.8%
	板	2	0.34	0.8%
	ボウル	2	0.34	0.8%
	ブラシ	2	0.14	0.3%
	コップ	2	0.11	0.3%
	衣装袋	2	0.10	0.2%
	ブルーシート	1	2.57	6.1%
	テープカッター	1	1.18	2.8%
	DVDケース	1	0.48	1.1%
	服	1	0.45	1.1%
	ボンチョ	1	0.33	0.8%
	制作マット	1	0.32	0.8%
	卵ケース	1	0.31	0.7%
	カップ	1	0.24	0.6%
	ビデオケース	1	0.19	0.4%
	縄跳び	1	0.15	0.4%
	衣装カバー	1	0.14	0.3%
	洗濯ハンガー	1	0.13	0.3%
	ラック	1	0.12	0.3%
	おぼん	1	0.11	0.3%
	製氷器	1	0.11	0.3%
	貯金箱	1	0.11	0.3%
	ノズル	1	0.11	0.3%
	かざり	1	0.10	0.2%
	ガラスふき	1	0.10	0.2%
	ソロバン	1	0.10	0.2%
	台所三角ケース	1	0.10	0.2%
	リコーダー	1	0.09	0.2%
	フォトケース	1	0.08	0.2%
	フトンたたき	1	0.08	0.2%
	ボディスポンジ	1	0.08	0.2%
	カレンダー立て	1	0.07	0.2%
	台所排水溝ふた	1	0.07	0.2%
	車カバー	1	0.06	0.1%
プラスチックのみ	衣装ケース	1	0.05	0.1%
	自転車カゴカバー	1	0.05	0.1%
	タッパ	1	0.05	0.1%
	筒	1	0.05	0.1%
	ブグカバー	1	0.04	0.1%
	ロール袋		3.98	9.4%
	市販袋		3.03	7.2%
	ラップ		2.88	6.8%
	おもちゃ		1.18	2.8%
	ジブロック		0.89	2.1%
	緩衝材		0.84	2.0%
	台所用品		0.75	1.8%
	文房具		0.47	1.1%
	カトラリー		0.41	1.0%
	ひも類		0.29	0.7%
	容器(ふたあり)		0.29	0.7%
	ビーズ		0.28	0.7%
	プラモデル		0.22	0.5%
	ケース(ふたなし)		0.15	0.4%
	歯ブラシ		0.14	0.3%
複合品	クリーニング衣装袋		0.11	0.3%
	スポンジ		0.09	0.2%
	ハケ		0.05	0.1%
	メガネ		0.04	0.1%
	スプーン		0.03	0.1%
	ビニール手袋		0.03	0.1%
	50g未満		1.56	3.7%
	プラのみ合計		36.41	86.0%
	バッグ	9	1.69	4.0%
	クリスマスツリー	2	0.59	1.4%
	ジャンパー	1	0.50	1.2%
	ラック	1	0.38	0.9%
	リュックサック	1	0.30	0.7%
	フトン入れバッグ	1	0.28	0.7%
	うちわ	7	0.18	0.4%
	洗濯ネット	5	0.16	0.4%
	シャワーヘッド	1	0.15	0.4%
	箱	1	0.13	0.3%
	ケース(ふたなし)	1	0.12	0.3%
	スマホケース	2	0.12	0.3%
	カチューシャ	4	0.11	0.3%
	ペン類	2	0.12	0.3%
	衣装カバー	1	0.07	0.2%
	イヤークーラー	1	0.07	0.2%
	カー用品	1	0.07	0.2%
	ひも	3	0.05	0.1%
	リコーダー入れ	1	0.05	0.1%
	キーホルダー	5	0.04	0.1%
	洗濯バサミ		0.06	0.1%
	文房具		0.04	0.1%
	カミソリ		0.03	0.1%
	バッグ		0.02	0.0%
	50g未満		0.62	1.5%
	複合品合計		5.95	14.0%
製品プラスチック合計			42.36	100.0%

②事業系ごみ

事業系ごみの燃やすごみの製品プラスチックの組成は、プラスチックのみが 100.0%である。

表 3-4-2 事業系ごみの燃やすごみの製品プラスチックの品目別の重量と割合

製品名		個数	重量(kg)	重量割合
プラスチックのみ	ボード板	2	0.23	18.4%
	ケース(ふたなし)	2	0.13	10.4%
	市販袋		0.23	18.4%
	ロール袋		0.12	9.6%
	ラップ		0.09	7.2%
	ジップロック		0.06	4.8%
	ケース(ふたなし)		0.02	1.6%
	緩衝材		0.02	1.6%
	50g未満		0.35	28.0%
	プラのみ合計		1.25	100.0%
製品プラスチック合計			1.25	100.0%

(2) 燃やさないごみ

燃やさないごみの製品プラスチックの組成は、プラスチックのみが 65.3%、複合品が 34.7%である。

表 3-4-3 燃やさないごみの製品プラスチックの品目別の重量と割合

製品名		個数	重量(kg)	重量割合
プラスチックのみ	マット	1	1.30	16.8%
	すのこ	1	0.83	10.7%
	イス	1	0.79	10.2%
	ケース(ふたなし)	1	0.20	2.6%
	ファイルスタンド	1	0.20	2.6%
	水筒	1	0.08	1.0%
	水筒のふた	2	0.08	1.0%
	ハンガー	1	0.06	0.8%
	照明カバー		0.31	4.0%
	容器(ふたあり)		0.24	3.1%
	容器		0.22	2.8%
	おもちゃ		0.09	1.2%
	ロール袋		0.08	1.0%
	ジップロック		0.06	0.8%
	文房具		0.06	0.8%
	市販袋		0.03	0.4%
	カトラリー		0.01	0.1%
	緩衝材		0.01	0.1%
	ラップ		0.01	0.1%
	50g未満		0.39	5.0%
	プラのみ合計		5.05	65.3%
複合品	洗濯ハンガー	4	0.87	11.3%
	キャスター	5	0.28	3.6%
	バッグ	1	0.28	3.6%
	スタンド	1	0.12	1.6%
	ペン類		0.25	3.2%
	文房具		0.19	2.5%
	台所用品		0.12	1.6%
	カミソリ		0.10	1.3%
	洗濯バサミ		0.06	0.8%
	インクカートリッジ		0.05	0.6%
	カミソリ		0.01	0.1%
	50g未満		0.35	4.5%
	複合品合計		2.68	34.7%
製品プラスチック合計			7.73	100.0%

(3) プラスチック製容器包装（家庭ごみ）

プラスチック製容器包装の製品プラスチックの組成は、プラスチックのみが 98.2%、複合品が 1.8%である。

表 3-4-4 プラスチック製容器包装の製品プラスチックの品目別の重量と割合

製品名		個数	重量(kg)	重量割合
プラスチックのみ	買物カゴ	2	1.26	10.4%
	バスマット	1	0.86	7.1%
	ケース	3	0.54	4.4%
	ボウルざる	4	0.5	4.1%
	タナ	1	0.32	2.6%
	ハンガー	4	0.23	1.9%
	ヒートカーラー	15	0.15	1.2%
	タオルかけ	2	0.11	0.9%
	ナップザック	2	0.1	0.8%
	DVDケース	1	0.09	0.7%
	ボウル	1	0.08	0.7%
	ブラシ	1	0.07	0.6%
	計量コップ	1	0.06	0.5%
	カップ	1	0.05	0.4%
	石けん入れ	1	0.05	0.4%
	容器	1	0.05	0.4%
	市販袋		1.84	15.1%
	ロール袋		1.01	8.3%
	ラップ		0.83	6.8%
	緩衝材		0.68	5.6%
	おもちゃ		0.4	3.3%
	ジップロック		0.31	2.5%
	歯ブラシ		0.3	2.5%
	カトラリー		0.18	1.5%
	台所用品		0.17	1.4%
	文房具		0.15	1.2%
	ひも類		0.1	0.8%
	容器(ふたあり)		0.07	0.6%
	くし		0.02	0.2%
	ペン類		0.02	0.2%
	ストロー		0.01	0.1%
	50g未満		1.33	10.9%
	ブラのみ合計		11.94	98.2%
複合品	シャワーヘッド	1	0.15	1.2%
	50g未満		0.07	0.6%
	複合品合計		0.22	1.8%
製品プラスチック合計			12.16	100.0%

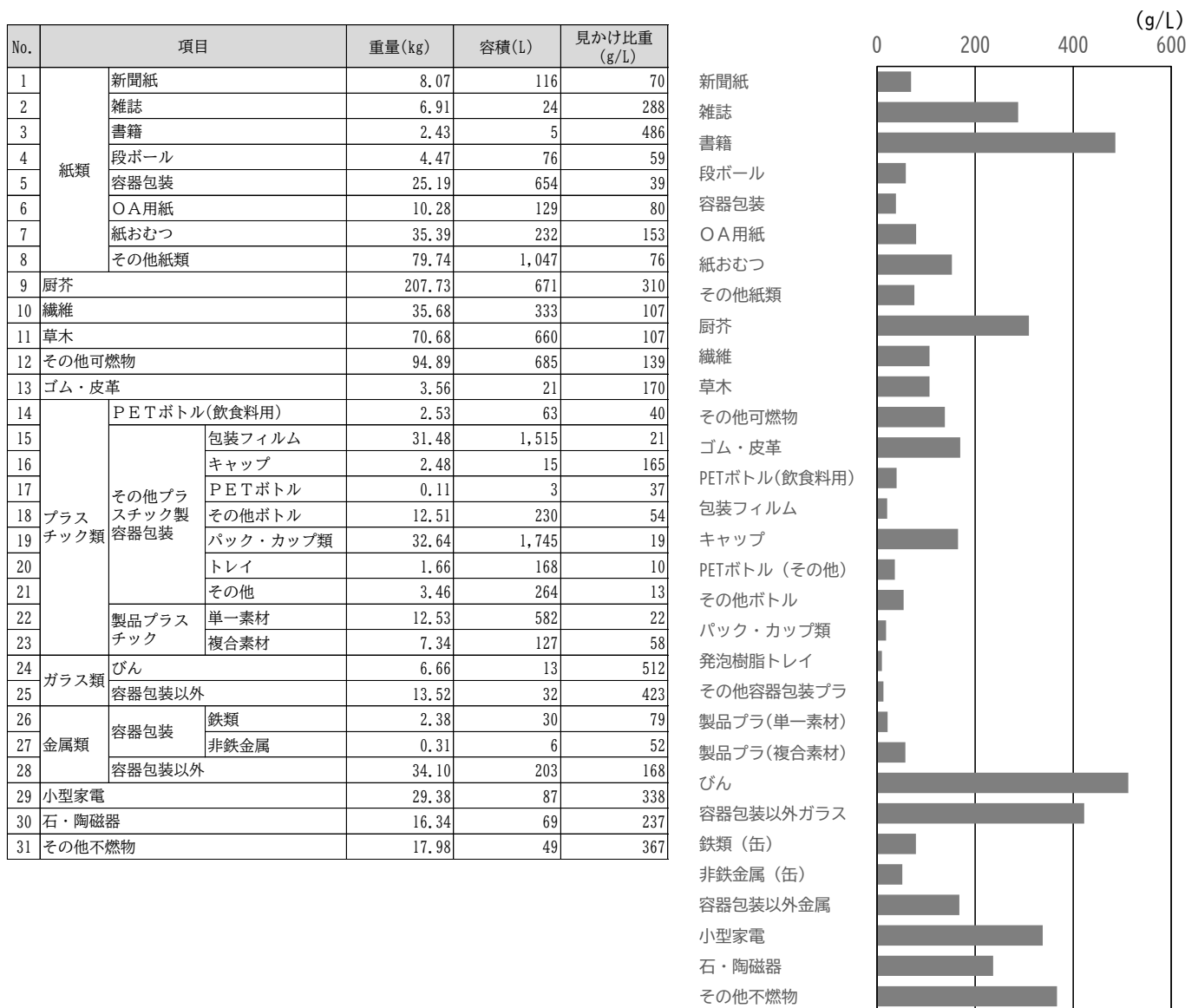
3.5 排出容器の見かけ比重

ごみ種別の排出容器の見かけ比重は、家庭ごみについては、燃やすごみが 0.129kg/L、燃やさないごみが 0.168kg/L、プラスチック製容器包装が 0.029kg/L である。事業系ごみについては、燃やすごみが 0.292kg/L である。

表 3-5-1 見かけ比重の調査結果

		重量(kg)	容積(L)	比重(kg/L)
家庭ごみ	燃やすごみ	1,150.45	8,940	0.129
	燃やさないごみ	143.84	854	0.168
	プラスチック製容器包装	112.90	3,856	0.029
事業系ごみ	燃やすごみ	107.91	370	0.292

図表 3-5-1 見かけ比重の調査結果（詳細）



3.6 過去の調査との比較

本区では、過去に組成調査を行っている。これらの過去の組成調査結果との比較を行った。

①燃やすごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)

令和４年度と比べて、本調査では繊維が３.６％増加し、草木が２.５％減少している。

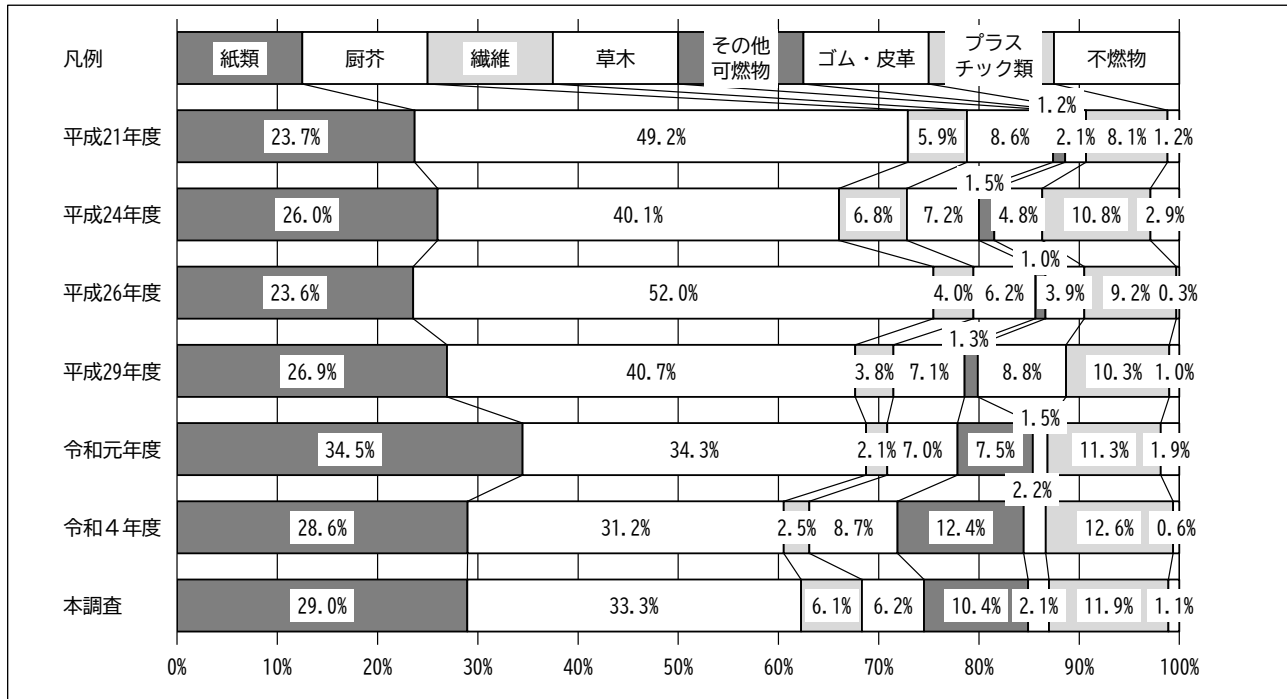


図 3-6-1 過去の調査結果との比較（燃やすごみ）

②燃やさないごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)

令和４年度と比べて、本調査ではびんガラス類が７.８％増加し、金属類が１４.２％減少している。

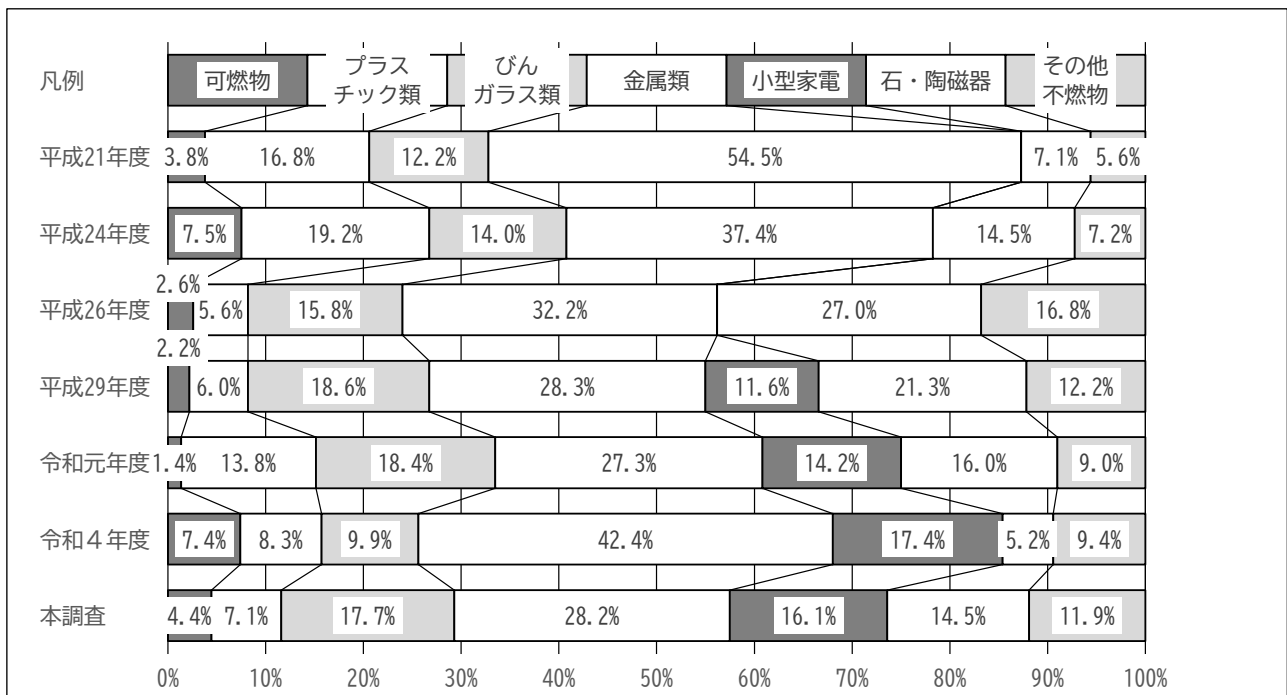


図 3-6-2 過去の調査結果との比較（燃やさないごみ）

③プラスチック製容器包装

令和４年度と比べて、本調査では容器包装以外のプラスチック類が２．９％増加し、ＰＥＴボトルが１．９％減少している。

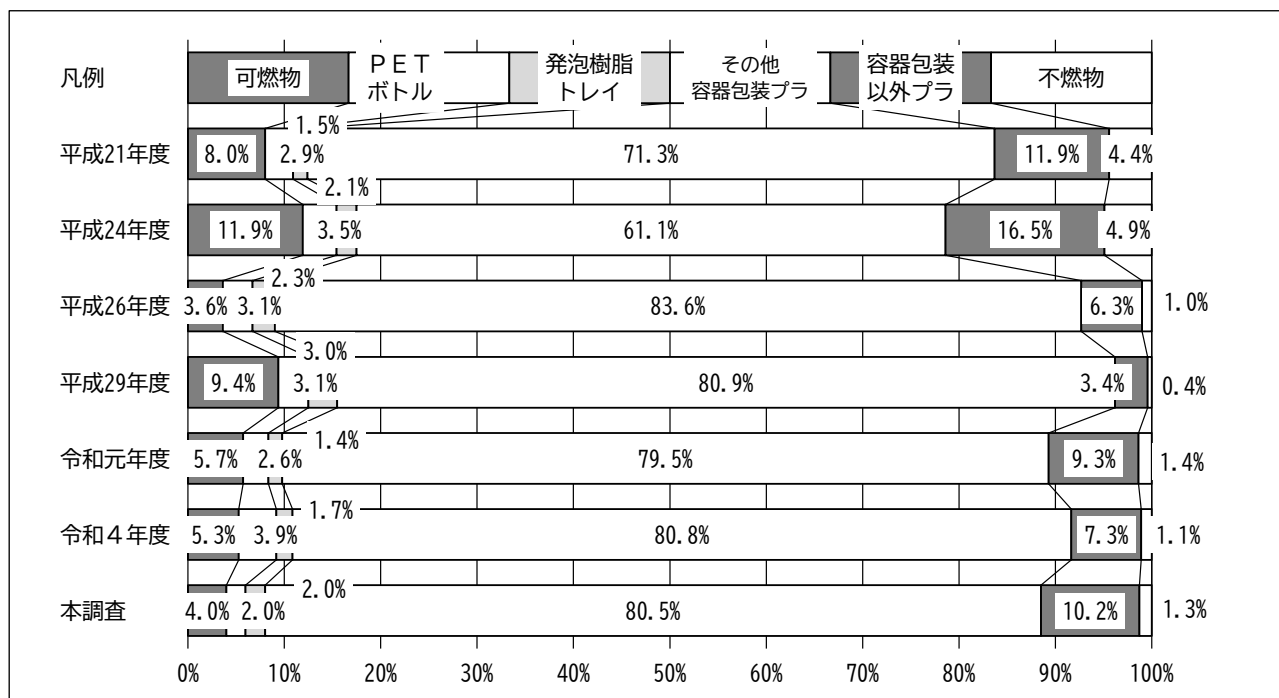


図 3-6-3 過去の調査結果との比較（プラスチック製容器包装）

3.7 適正排出率と資源等混入率

調査結果から、分別区分ごとに適正に排出されている割合（適正排出率）及び資源などの混入率を算出した。

①燃やすごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)

燃やすごみの適正排出率は 79.5%、混入率は 20.5%で、その内訳は、燃やさないごみが 1.0%、プラスチック製容器包装が 8.1%、資源が 11.5%である。

資源の内訳は、紙類が 10.9%と大半を占めており、紙類の内訳は容器包装が 3.1%で最も多く、次いで、雑紙が 2.7%、ＯＡ用紙が 2.5%と続いている。

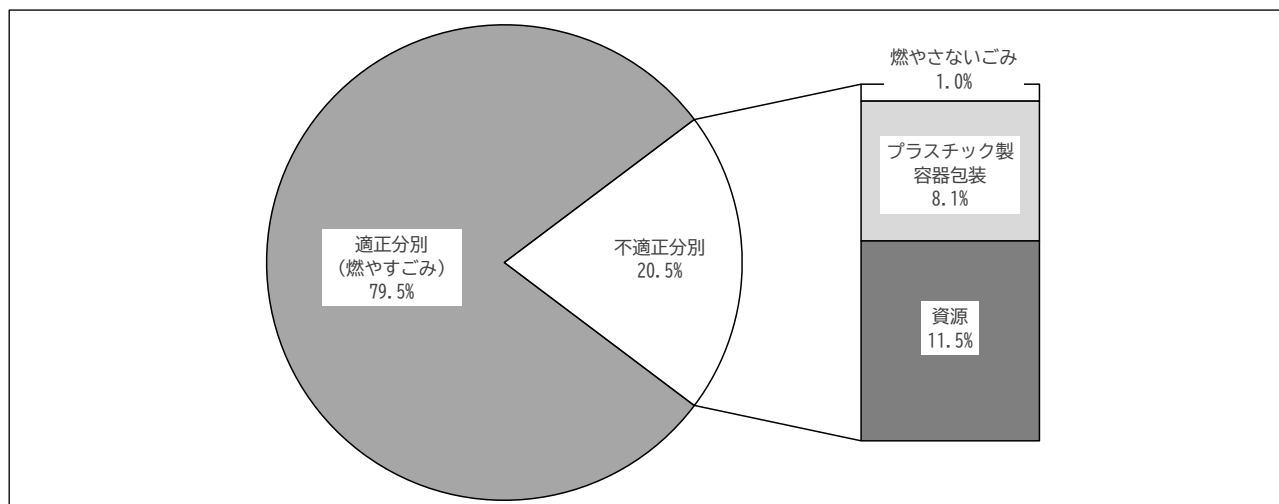


図 3-7-1 適正排出率と資源等混入率（燃やすごみ）

②燃やさないごみ

燃やさないごみの適正排出率は 79.3%、混入率は 20.7%で、その内訳は、燃やすごみが 10.0%、プラスチック製容器包装が 0.6%、資源が 10.1%である。

燃やすごみの内訳は、容器包装以外のプラスチック類が 6.5%を占めている。資源の内訳は、飲食用びんが 7.2%で最も多く、次いで、飲食用缶が 1.8%と続いている。

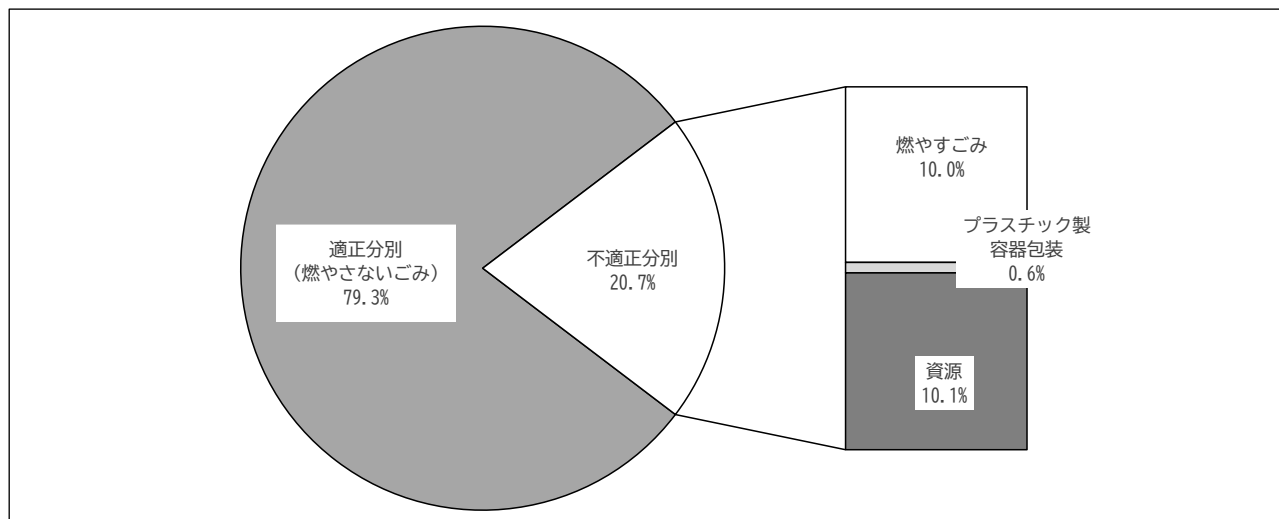


図 3-7-2 適正排出率と資源等混入率（燃やさないごみ）

③プラスチック製容器包装

プラスチック製容器包装の適正排出率は 80.5%、混入率は 19.5%で、その内訳は、燃やすごみが 14.0%、燃やさないごみが 1.1%、資源が 4.4%である。

燃やすごみの内訳は、容器包装以外のプラスチック類が 10.2%と大半を占めている。

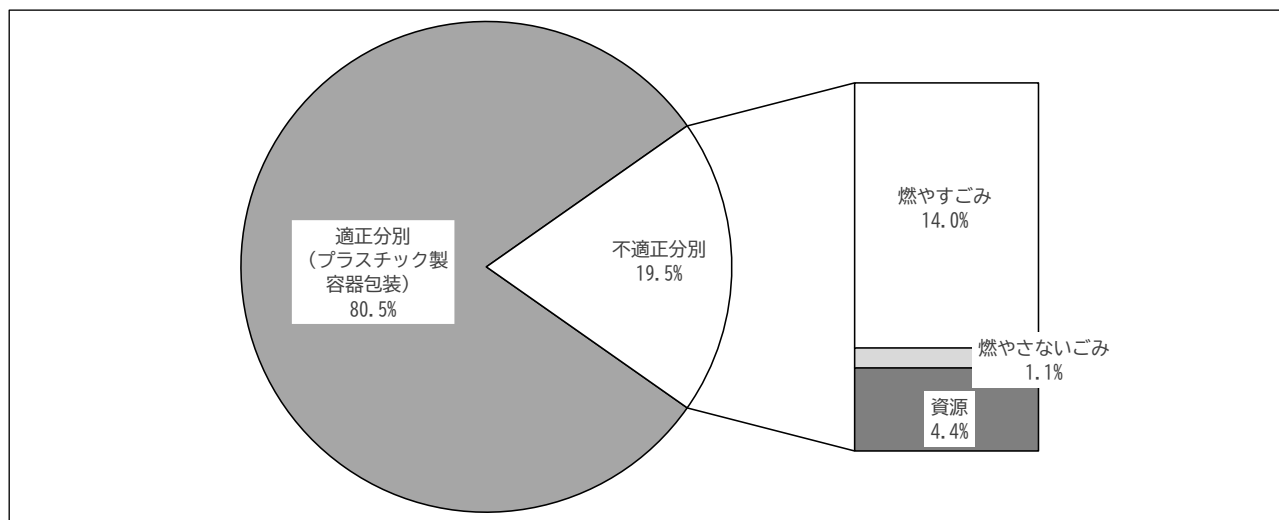


図 3-7-3 適正排出率と資源等混入率（プラスチック製容器包装）

第4章 区民アンケート調査

4.1 調査方法

(1) 調査方法

区内に居住する区民のうち、無作為に抽出した3,000世帯を対象とし、調査票を郵送した。調査票は無記名式で、郵送またはオンラインで回収した。

(2) 調査期間

令和6年11月25日～12月13日

(3) 回収状況

表4-1-1にアンケートの回収状況を示す。本報告書では有効回答912件を集計の対象とした。

表4-1-1 区民アンケート調査の回収状況

発送数	3,000通
宛先不明による返還数	30通
有効回答数	912通（郵送：709、Web：203）
回答率	$912 \div (3,000 - 30) = 30.7\%$

4.2 フェイス項目

グラフ中のNは各質問の有効回答数を表す。

(1) 回答者の性別・年齢

回答者の性別・年齢を図4-2-1に示す。令和6年10月1日現在の住民基本台帳に基づく年齢別人口と比較すると、50代以上が多く、40代以下の回答は少なくなっている。

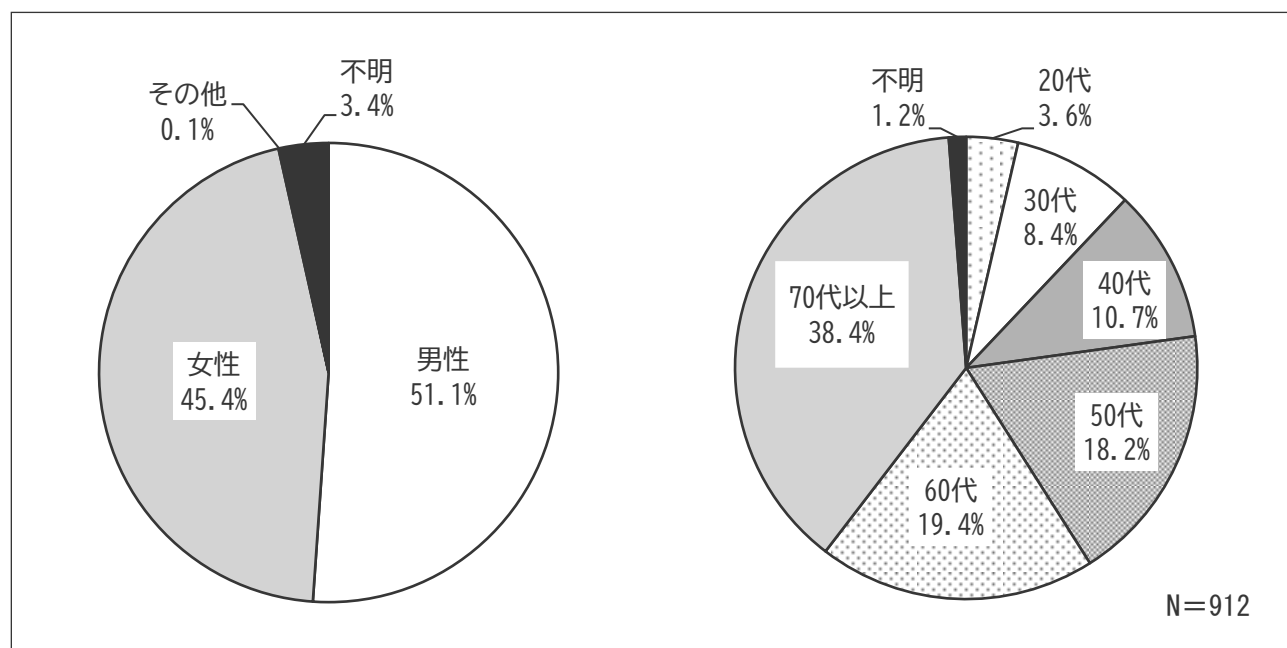


図4-2-1 回答者の性別（左）・年齢（右）

(2) 回答者の世帯構成

回答者の世帯構成を図 4-2-2 に示す。令和 2 年国勢調査結果と比較すると、単身世帯の回答割合が低いことがわかる。

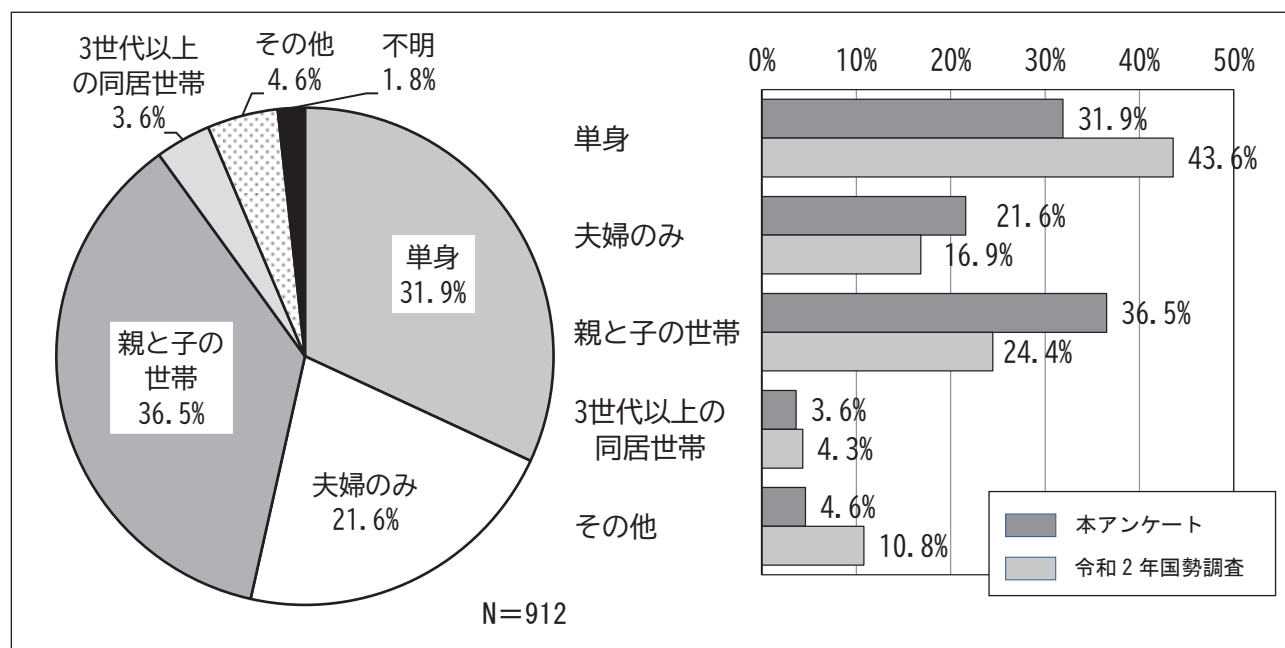


図 4-2-2 世帯構成（左：アンケート集計、右：国勢調査結果との比較）

(3) 世帯の中のごみ出し担当、普段買い物する店

① 世帯の中のごみ出し担当

世帯の中のごみ出し担当は、「回答者自身」が 79.5%、「自分以外」が 18.6%である。（図 4-2-3）。

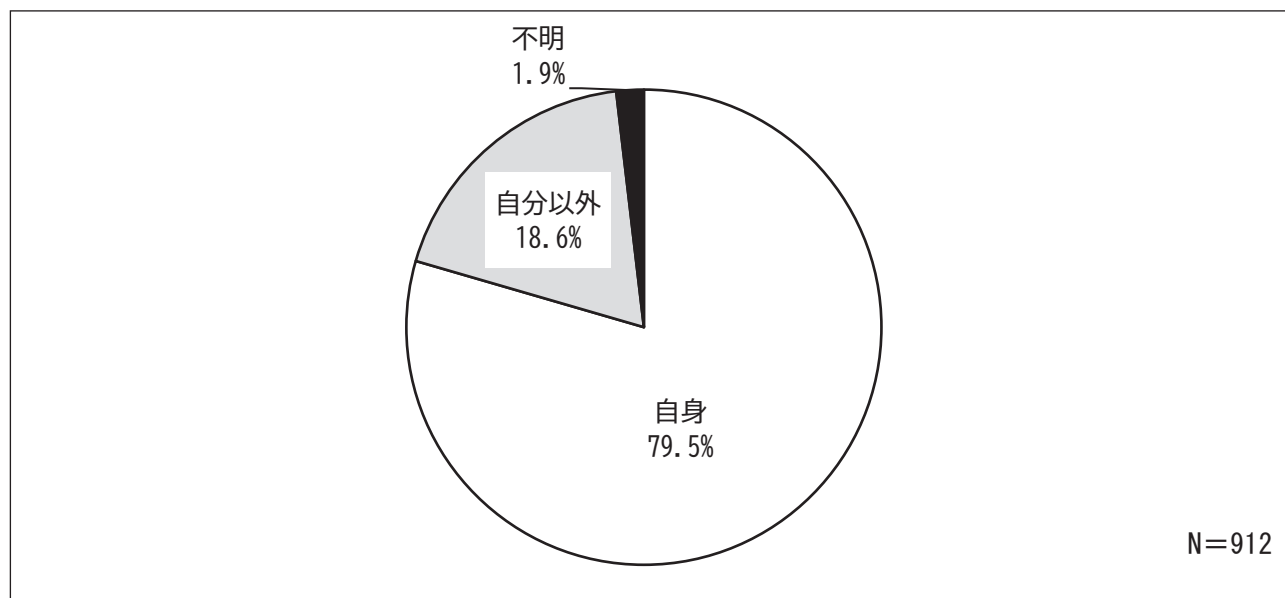


図 4-2-3 世帯におけるごみ出し担当

②普段食料品・飲料を購入する店舗

本調査では、普段食料品・飲料を購入する店舗種別を2つまで答えていただき、フェイス項目の1つに加えた。9割の回答者が区内のスーパーマーケットを挙げており、次いで、区内のコンビニエンスストア、区内の商店・商店街が続いている。

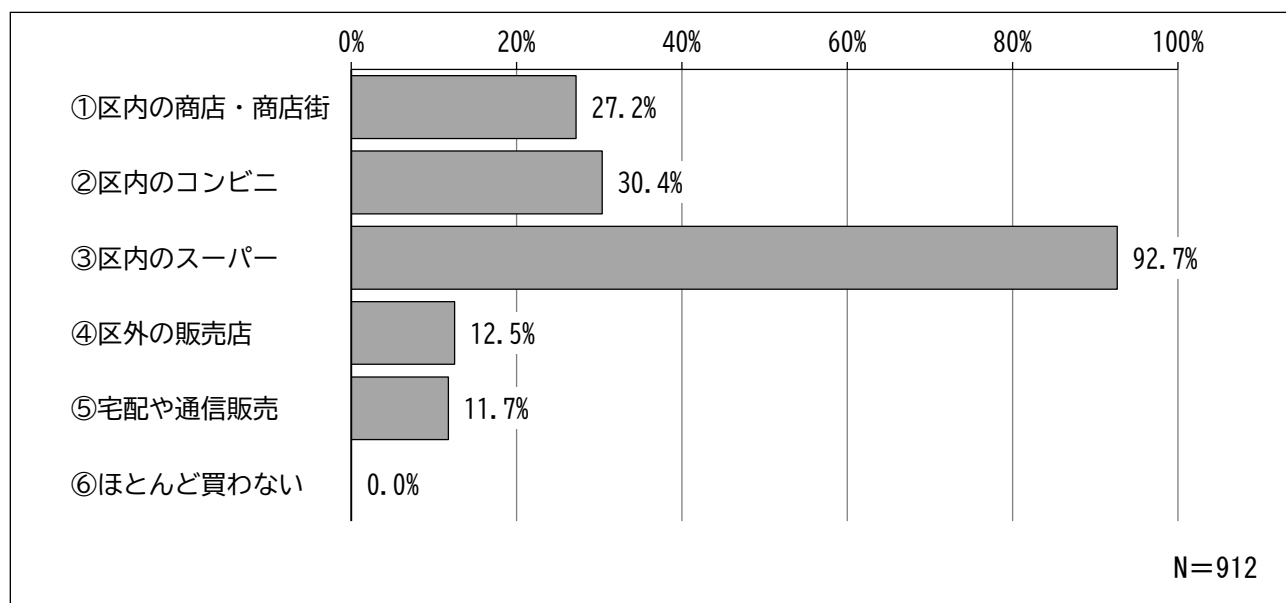


図 4-2-4 普段食料品・飲料を購入する店舗

4.3 ごみの減量について

(1) 日常のごみ減量行動について

問1 あなたが、日頃ごみの減量のためにに行っていることに○を付けてください。
(○はいくつでも)

「⑫資源物の分別徹底」が89.5%と最も多く、次いで、「②マイバッグ持参」が87.3%となっている。その他、「①詰め替え商品の選択」「⑦賞味期限切れを出さない」「⑧食べ残しを出さない」といった項目が6割以上の実施率となっている。

一方、「④ばら売り・量り売り商品の購入」「⑤リユースびんの利用」といった商品の選択に関する取り組みは1割以下と実施率が低くなっている。これは販売店の品揃えに属する問題であり、回答者のほとんどがスーパーを主な食料品などの購入先としている現状では、消費者としての選択の余地は大きくないと言える。

「⑬その他」欄には37件の具体的記入があり、「カトラリーを断る」「不要なストックは買わない」「資源回収をしているスーパー等に持って行く」などの回答があった。

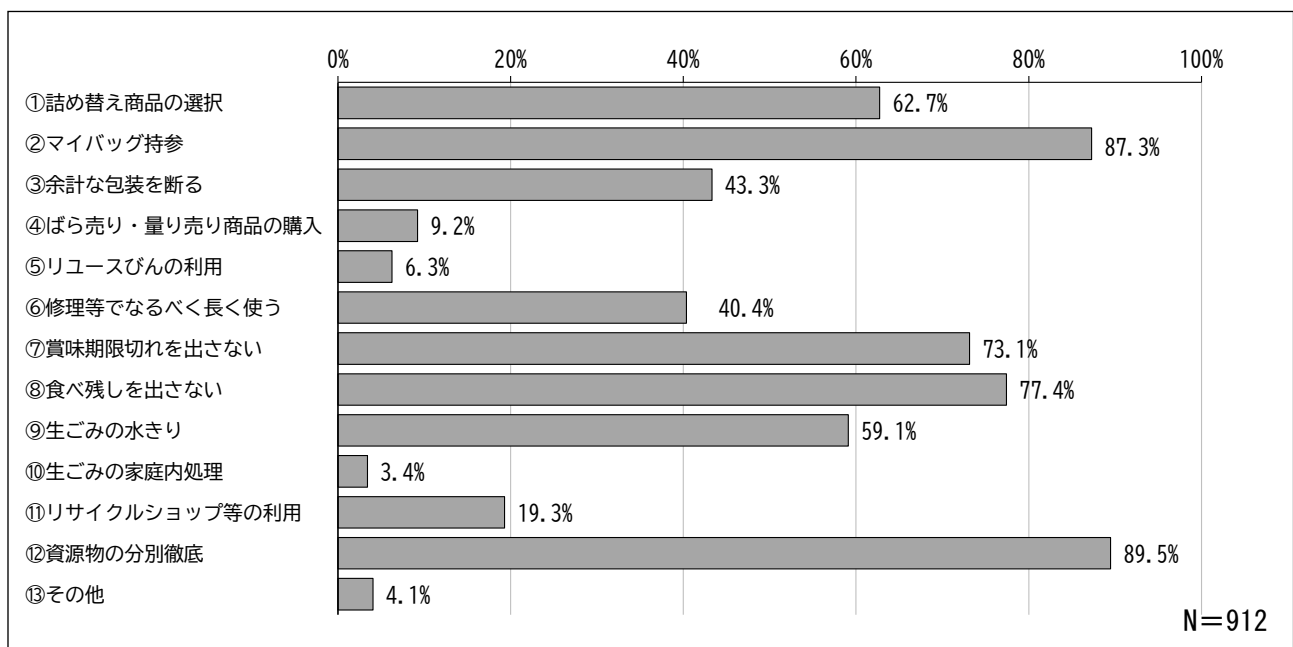


図 4-3-1 日頃ごみ減量のためにに行っていること

(2) 生ごみの減量について

問2 生ごみについてお聞きします。
あなたのご家庭では、生ごみをもっと減らせると思いますか。(○は1つ)

生ごみの家庭内減量については、約4割が「減らせると思う」と回答している。

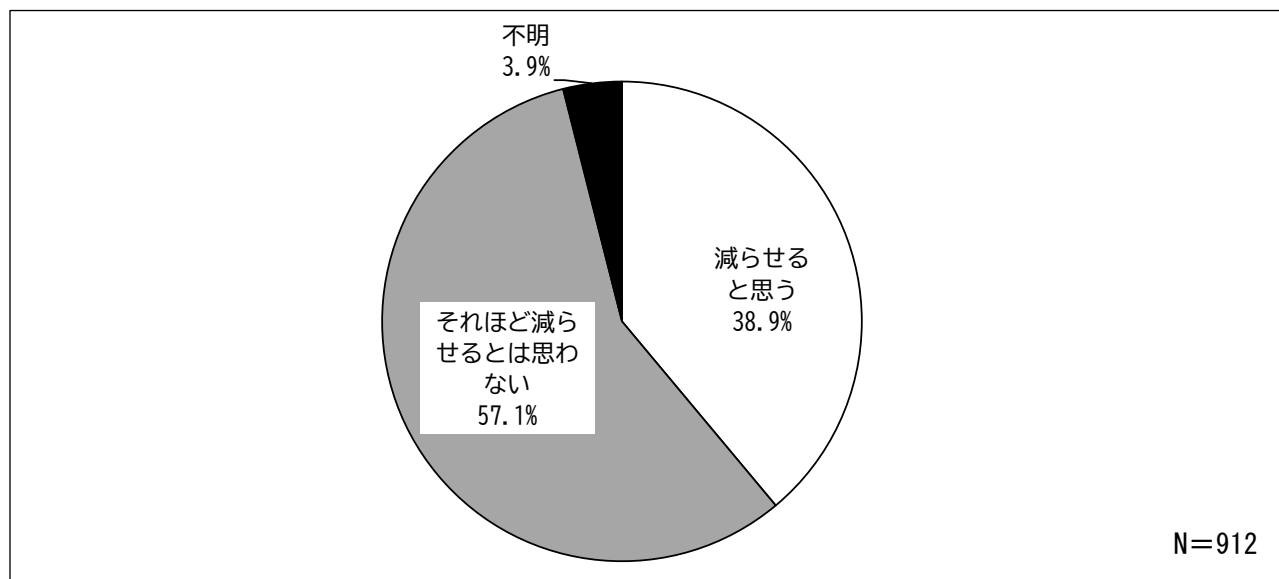


図 4-3-2 生ごみ減量の可能性について

問2-1 減らせると思うことは何ですか。(○はいくつでも)
【限定質問】問2で「1 減らせると思う」と回答した人のみ

減らせると思うことの内容では「③食べ残しを少なく」が71.0%と最も多くなっている。「⑤その他」欄には25件の具体的記入があり、「コンポストを利用する」「生ごみの水きりを十分に行う」「余計なものは買わない」などの回答があった。

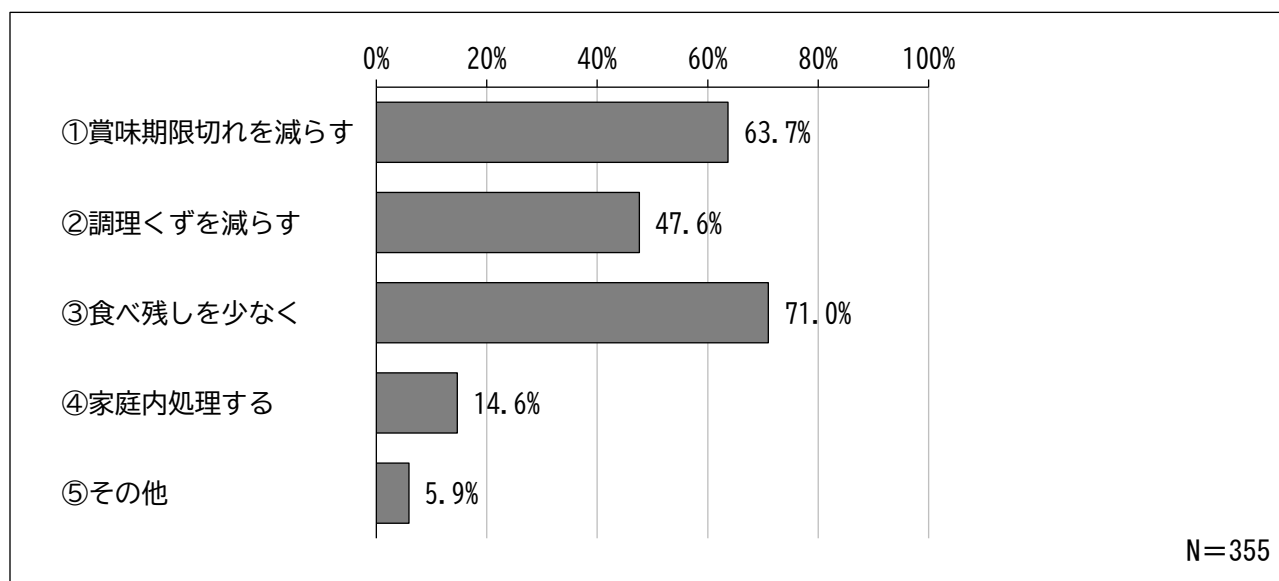


図 4-3-3 取り組み可能な生ごみ減量方法

問 2-2 減らせないと思う理由は何ですか。(○は1つ)

【限定質問】問2で「2 それほど減らせるとは思わない」と回答した人のみ

「既に取り組んでいる」が52.6%、「生ごみがほとんど出ない」が24.6%と、計77.2%がこれ以上の減量余地はない趣旨の回答をしているが、「やり方がよく分からない」という回答も12.3%あった。「その他」欄には19件の具体的記入があり、「調理する関係上、皮などの生ごみは発生するから」「人数が多い」「ディスポーザーを使っているから」などの回答があった。

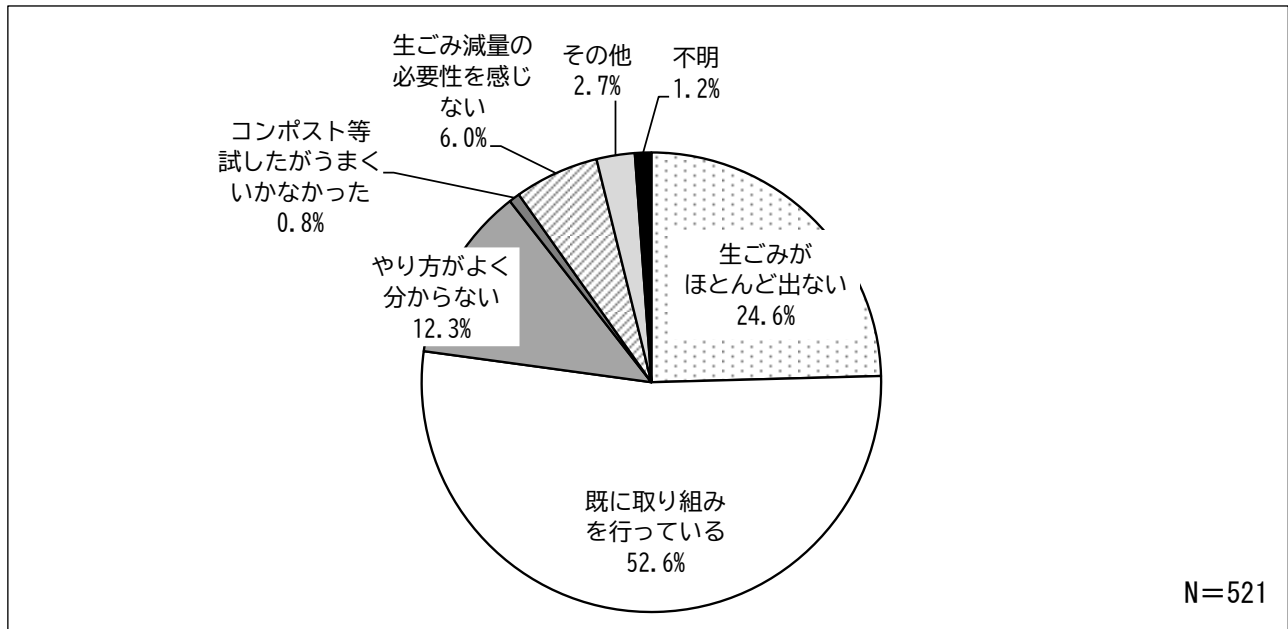


図 4-3-4 生ごみの減量ができないと思う理由

(3) ごみ減量のために大切なこと

問 3 あなたは、ごみの減量のために一番大切なことはどのようなことだと考えますか。

(○は1つ)

ごみ減量のために最も大切なことは、「資源を分別しごみとしない」とする考えが51.0%と最も高い。

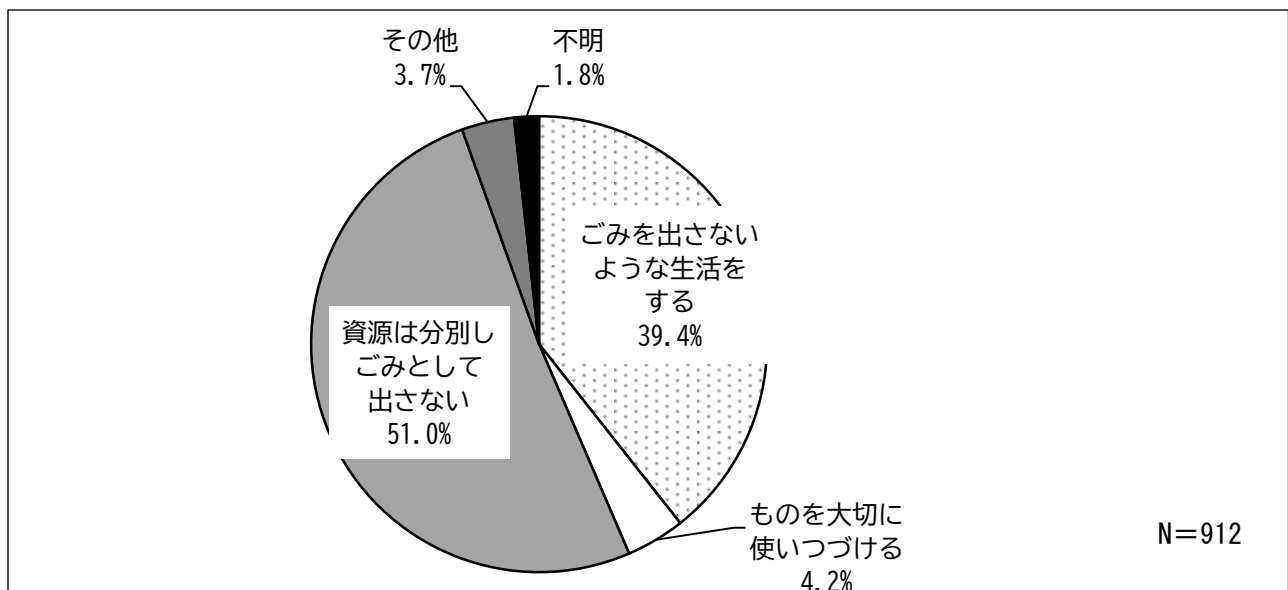


図 4-3-5 ごみ減量のため一番大切なこと

4.4 情報提供・PR 活動について

(1) ごみに関する情報源

問4 あなたは、ごみの分け方・出し方や減量に関する情報を主にどこから得ていますか。
(○はいくつでも)

「①資源とごみの収集カレンダー」が86.3%と最も多く、「②資源とごみの正しい分け方・出し方（保存版）」が47.8%と回答している。「⑩その他」欄には36件の具体的記入があり、「マンションの掲示板」「不動産業者からの連絡」「直接電話をして聞いている」などの回答があった。

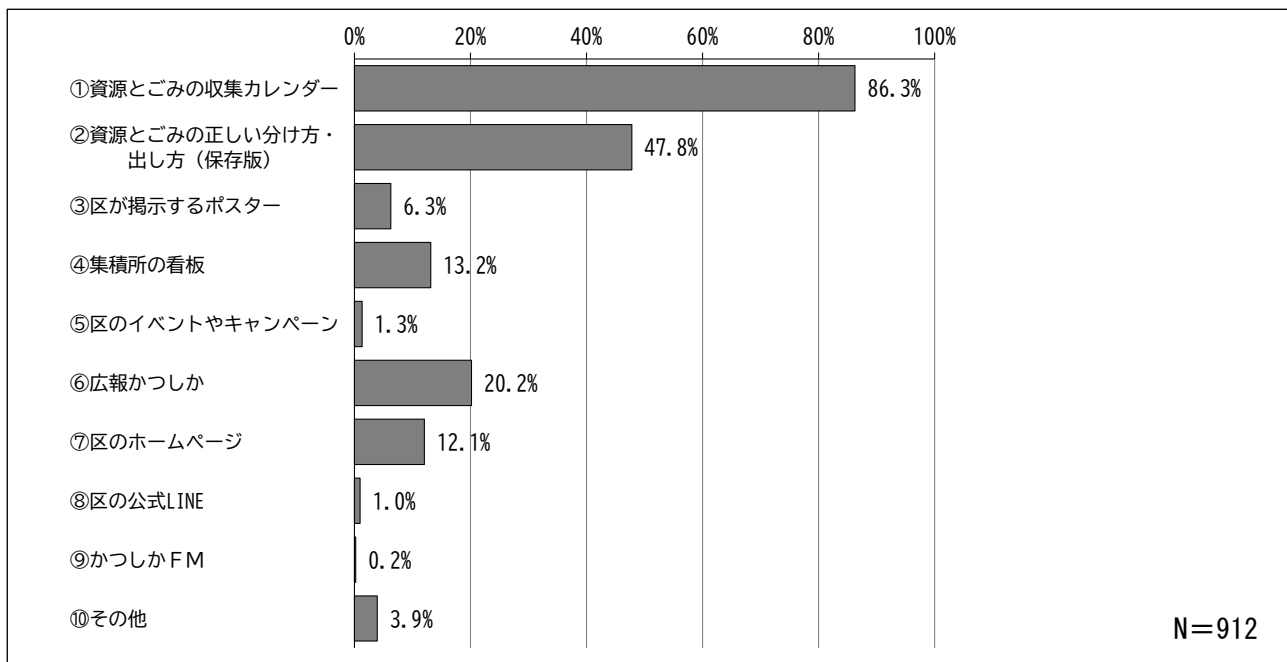


図 4-4-1 ごみの分別や減量に関する情報源

(2) 区の情報提供・PR 活動に対する評価

問5 あなたは、区によるごみ減量に関する情報提供・PR 活動についてどう思われますか。
(○はそれぞれ1つ)

情報量については「十分」「不十分」の評価が拮抗しており、内容については「分かりやすい」が54.3%と半数を超えている。

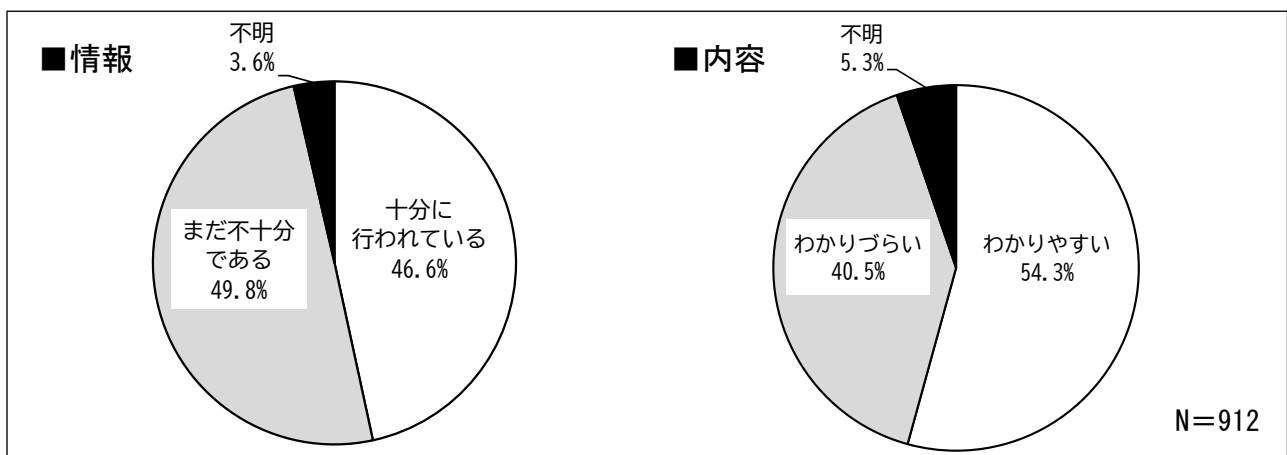


図 4-4-2 区による情報提供・PR 活動について

(3) かつしかエコライフプラザについて

問6 かつしかエコライフプラザをご存知ですか。(○は1つ)
 かつしかエコライフプラザは、3R(ごみの排出抑制、再使用、リサイクル)をはじめとした環境にやさしい暮らし方の情報を提供するとともに、環境関連のイベントや教室などを行っている、立石図書館(葛飾区立石1-9-1)に併設された施設です。

エコライフプラザの認知度は20.5%であった。

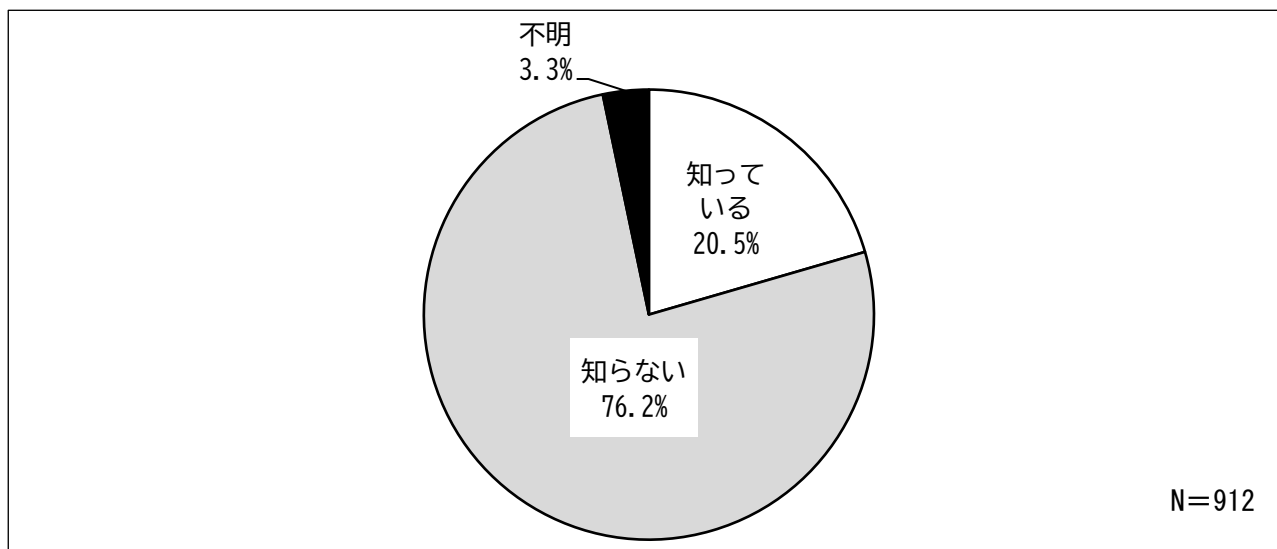


図4-4-3 かつしかエコライフプラザの認知度

問6-1 あなたまたはご家族のどなたかが、かつしかエコライフプラザの下記の施設や取り組みを利用(参加)されたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)
 【限定質問】問6で「1 知っている」と回答した人のみ

前問でエコライフプラザを「知っている」と回答した187人に対し、エコライフプラザの施設の利用や取り組みの認知状況を質問した。

「リユース家具コーナー」はある程度目立つこともあり、利用度(27.8%)、認知度(57.8%)共に最も高くなっている。その他のコーナーや取り組みについても、1~2割前後の一定の利用度があった。

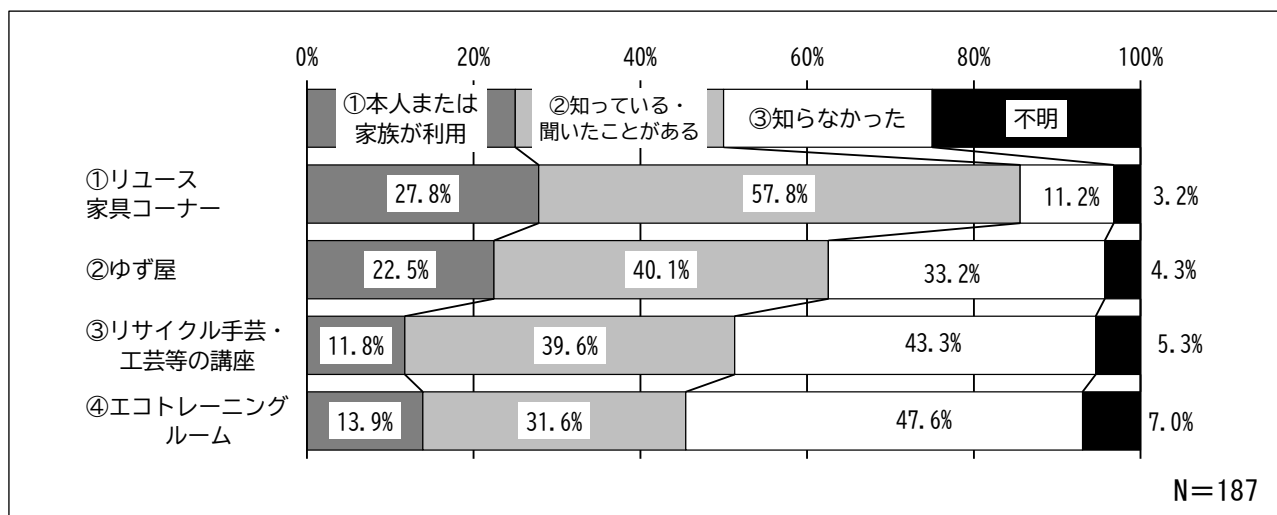


図4-4-4 エコライフプラザ施設等の利用・認知状況

(4) かつしかルールについて

問7 「かつしかルール」をご存知ですか。(○は1つ)

かつしかルールとは、葛飾区のごみ量を減らし、または、資源を良質なリサイクルにつなげるために葛飾区のみんなで行う取り組みのことで、「生ごみの減量」「雑紙（ざつがみ）の分別徹底による資源化」を呼びかけています。

かつしかルールの認知度は32.6%である。

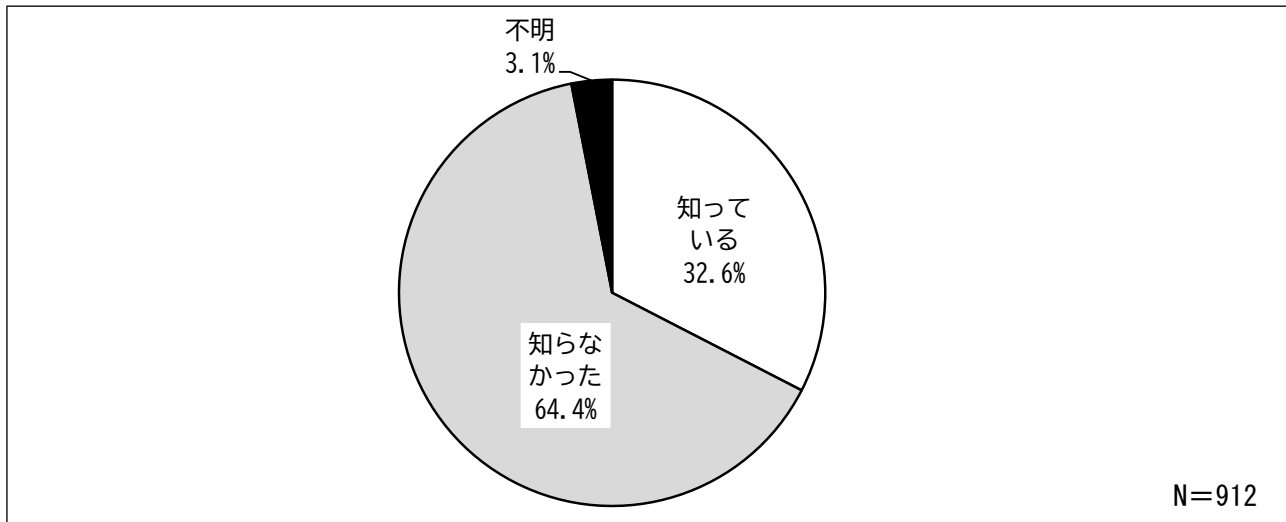


図 4-4-5 かつしかルールの認知度

(5) 区の情報提供・PR 活動に対する要望

問80 今後、区のごみ減量に関する情報提供・PR 活動にどんなことを望みますか。
(○は3つまで)

「②カレンダーの充実」が58.8%と最も多く、次いで「①チラシの充実」が49.0%となっている。なお、「⑫その他」欄には44件の具体的記入があり、「チラシや冊子がそもそもゴミなのでSNSで発信したほうがいい」「区によるフリーマーケット開催」「日本語が解らない方々への広報活動」などの回答があった。

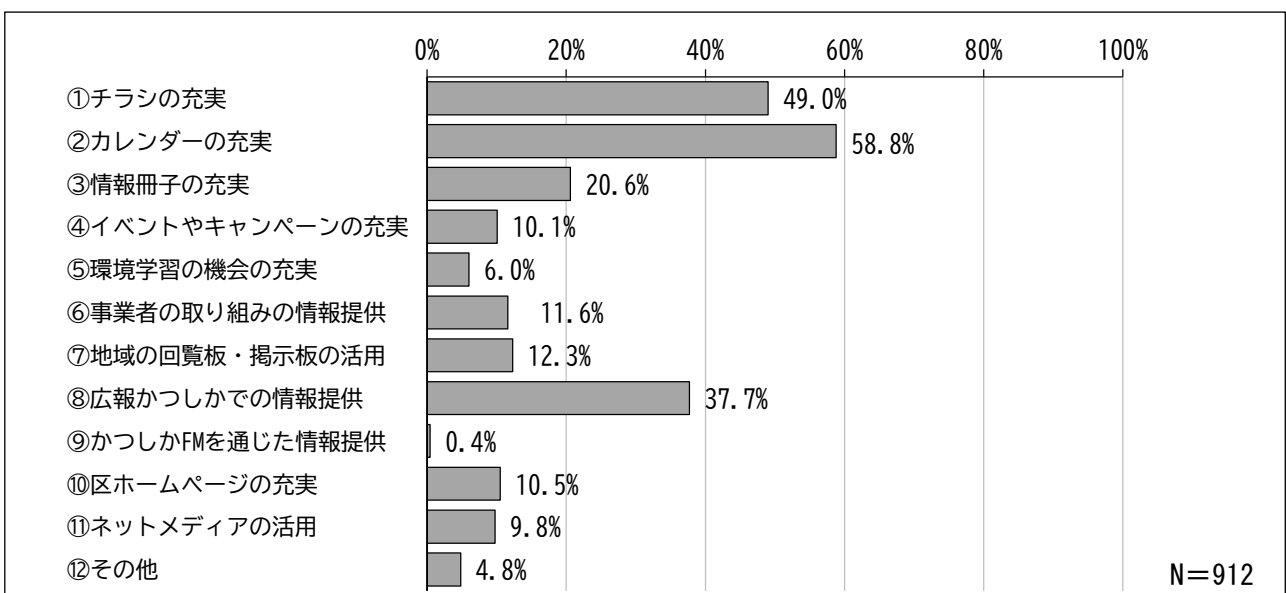


図 4-4-6 区の情報提供・PR 活動に対する要望

4.5 ごみ・資源の分別・リサイクルについて

(1) 品目別の処理方法

問9 あなたのご家庭では、以下の品目についてどのように処理していますか。品目ごとに処理方法をお選びください。(日頃利用しているもの1つに○、たまに利用するものには△をいくつでも)

家庭から排出される資源などの排出先、処理方法を品目別に質問した結果を図4-5-1にまとめた。(主な処理先○と時々利用する処理先△と合算して合計を100%に調整)。

新聞・チラシ、雑誌、段ボール、びん・缶、ペットボトルといった資源品目は「ごみに出す」という回答が10%前後あり、これは問1の「資源物の分別徹底」実施率89.5%とほぼ合致している。

紙パックや雑紙は約25%がごみとして排出されており、分別の徹底が新聞などと比較すると不十分である。

⑨古布については「区の資源回収」が31.3%あるが、これには区施設での古布回収への排出も含まれているものと思われる。

⑦ペットボトルは12.2%、⑧食品トレイは11.1%が「店頭回収」となっている。

⑨古布、⑩蛍光灯、⑪乾電池、⑫充電式電池、⑬食用油の多くはごみとして排出されている。

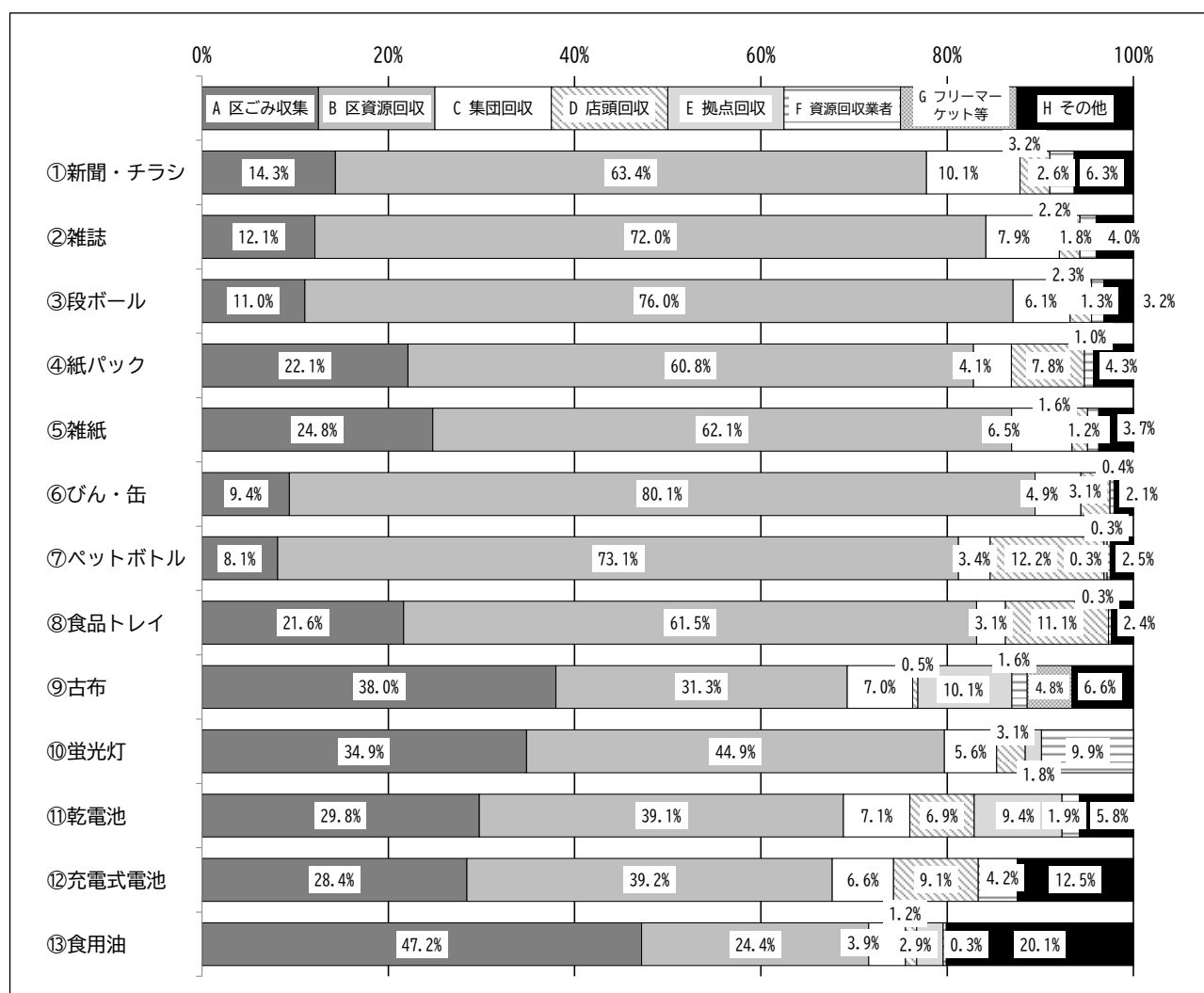


図4-5-1 ごみ・資源の品目別処理方法 (○△合算)

(2) 現在の分別について

問 10 現在の区のごみ・資源の分別についてどう思われますか。(○は1つ)

現在の分別区分については「今のままの回収品目でよい」が89.1%と多数を占める。

「現在より品目を増やしてほしい」の具体的記入は36件あり、その内訳は「古布」「乾電池」「充電式電池」の回答が高い。

「現在より品目を減らしてほしい」の具体的記入は15件あり、「プラスチック」「金属」「紙の分類が多い」などの回答があった。

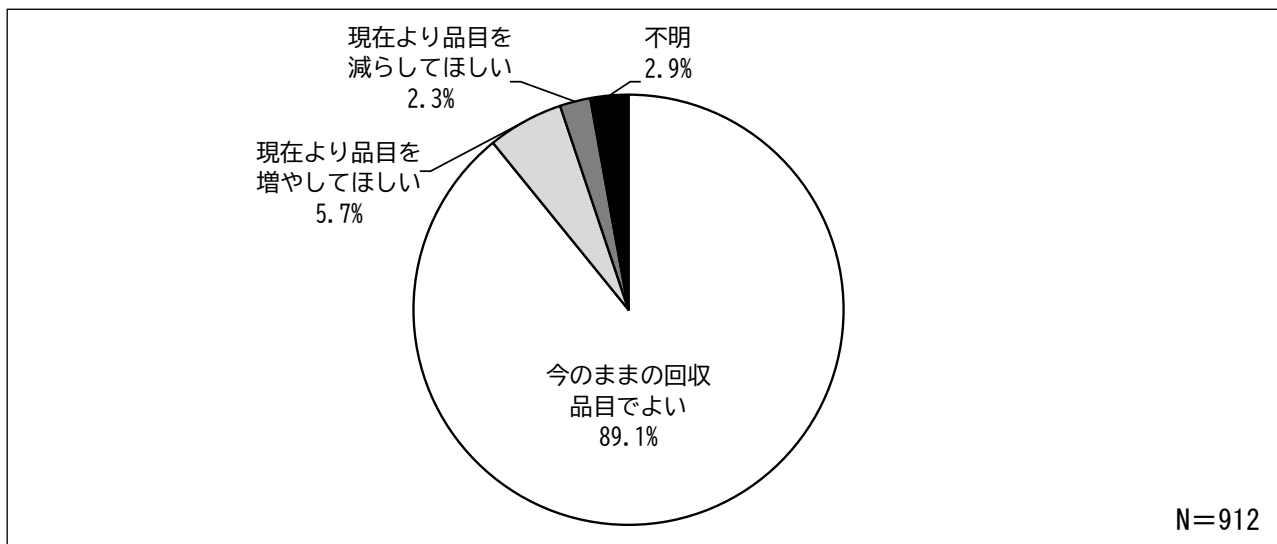


図 4-5-2 現在のごみ・資源の分別品目について

(3) リサイクルマークの付いている充電式電池の回収について

問 11 リサイクルマークの付いている充電式電池は、家電量販店等の回収協力店で回収していますがご存じですか。(○は1つ)

リサイクルマークの付いている充電式電池は、家電量販店などの回収協力店で回収していることについての認知度は38.0%である。

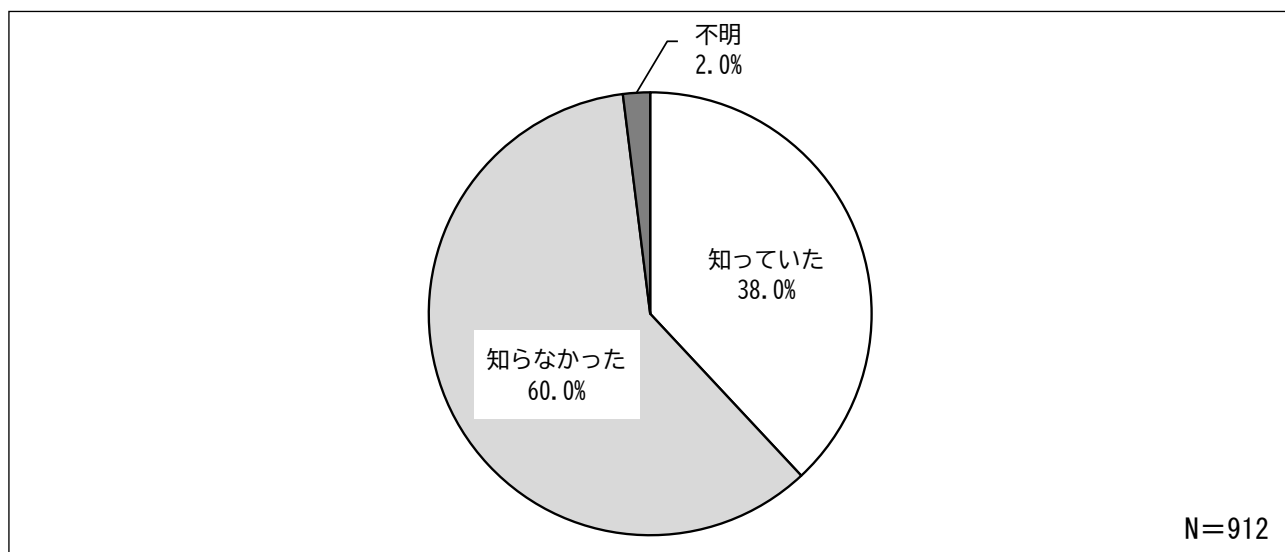


図 4-5-3 リサイクルマークの付いている充電式電池の回収について

(4) 雑紙について

問 12 紙箱・紙袋、包装紙、コピー用紙などの雑紙（ざつがみ）についてお聞きます。
普段、雑紙の分別はどうされていますか。（○は1つ）

雑紙について、具体的品目を挙げた上で分別状況を質問したところ、「分別せず燃やすごみに出す」が 22.6%である。

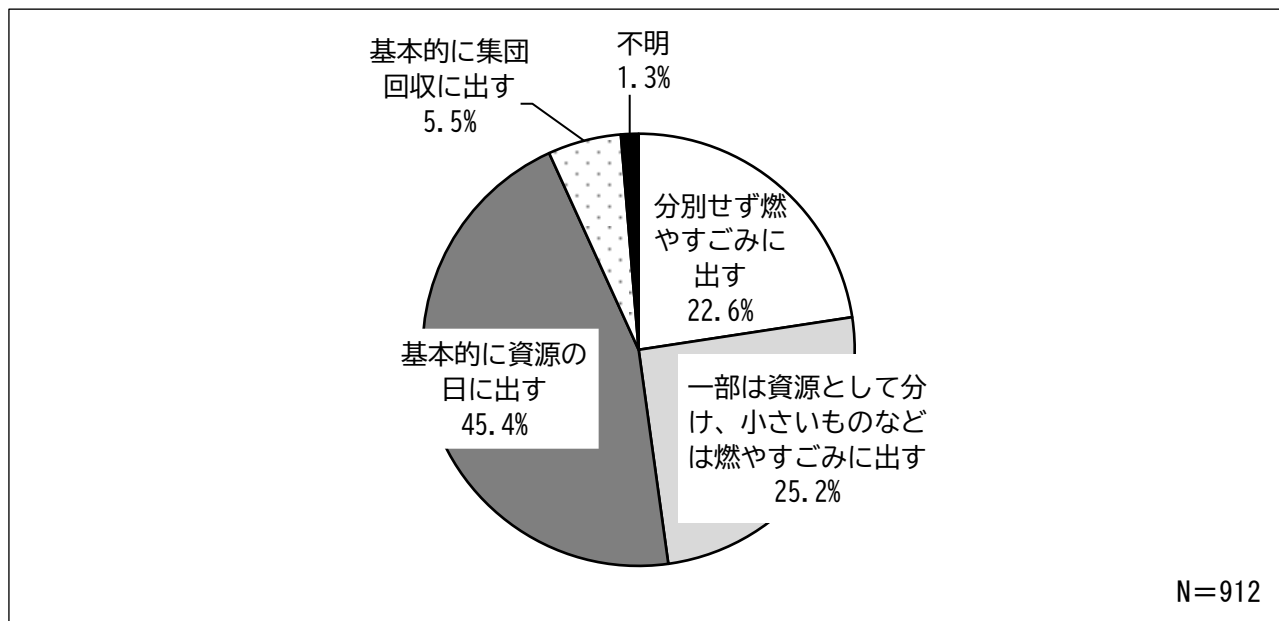


図 4-5-4 雑紙の分別について

問 12-1 「燃やすごみ」に出している理由は何ですか。（○はいくつでも）
【限定質問】問 12 で「燃やすごみ」「小さなものなどは燃やすごみ」と回答した人のみ

雑紙の全部、または一部を燃やすごみに出すと回答した 436 件についてその理由を尋ねたところ、「分け方・品目を知らなかった」が 43.3%にのぼっており、さらなる周知徹底が必要であることが分かる。なお、「④その他」欄には 44 件の具体的記入があり、「量が少ないから」「個人情報を書いてある」「掃除に使うので燃やすごみとして出している」などの回答があった。

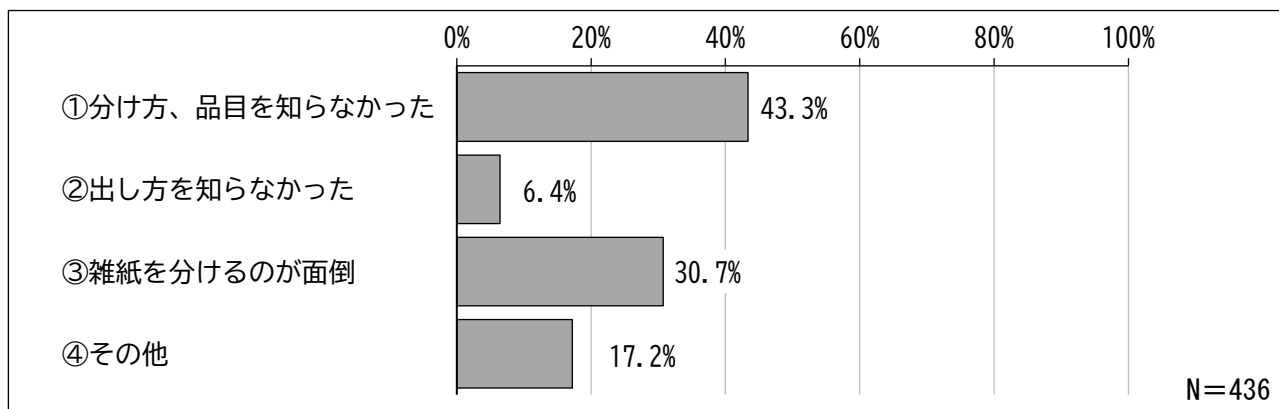


図 4-5-5 雑紙を燃やすごみに出す理由

(5) 古布（古着）について

問 13 古布（古着）についてお聞きします。

普段、古布（古着）はどのように出していますか。（○は1つ）

古布（古着）について、具体的品目を挙げた上で分別状況を質問したところ、「燃やすごみの日に出している」が62.2%である。

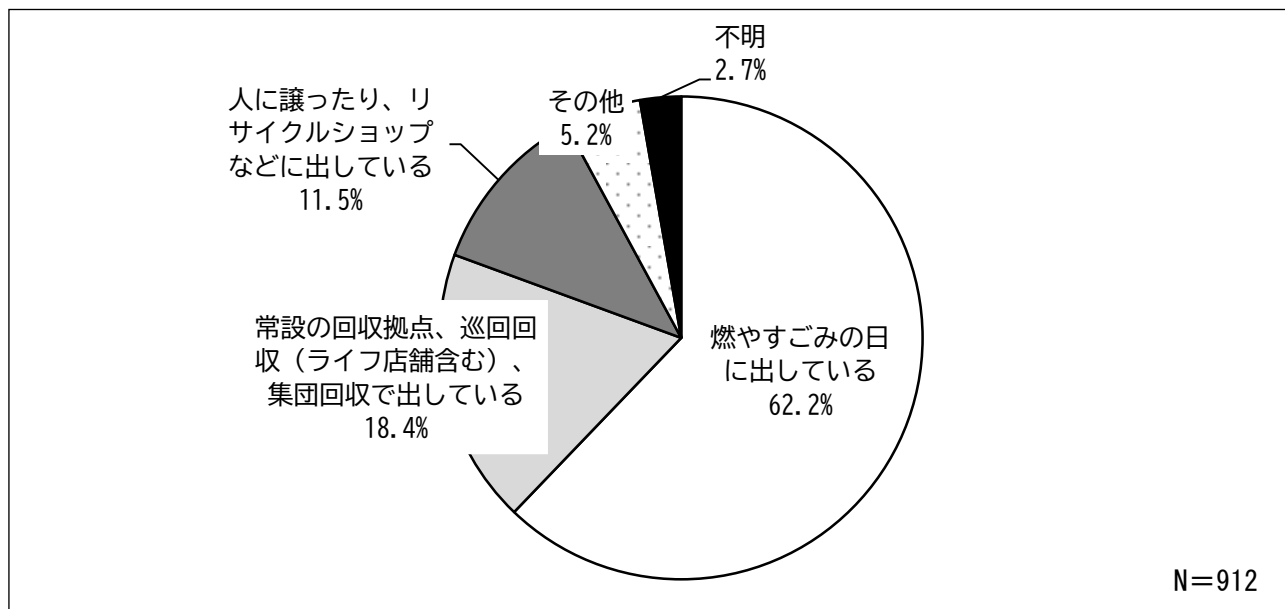


図 4-5-6 古布（古着）について

(6) 危険物等の適正な処理方法について

問 14 次のものは、排出する際には特に注意をお願いしているものですが、正しく排出されていますか。(○はそれぞれひとつ)
※(1)～(10)の()内は正しい排出方法です。(9)、(10)は当てはまる方のみご回答ください

問 14 では、包丁やボタン電池、蛍光灯など、排出時に注意を要する 10 品目について正しく排出されているかどうかを質問した。

図 4-5-7 は①～⑧までの品目について「排出したことがない」「不明」を含めた集計結果であり、例えば「⑥石油類、塗料」や「⑧使用済みの紙おむつ」は、「排出したことがない」が半数を超えている。

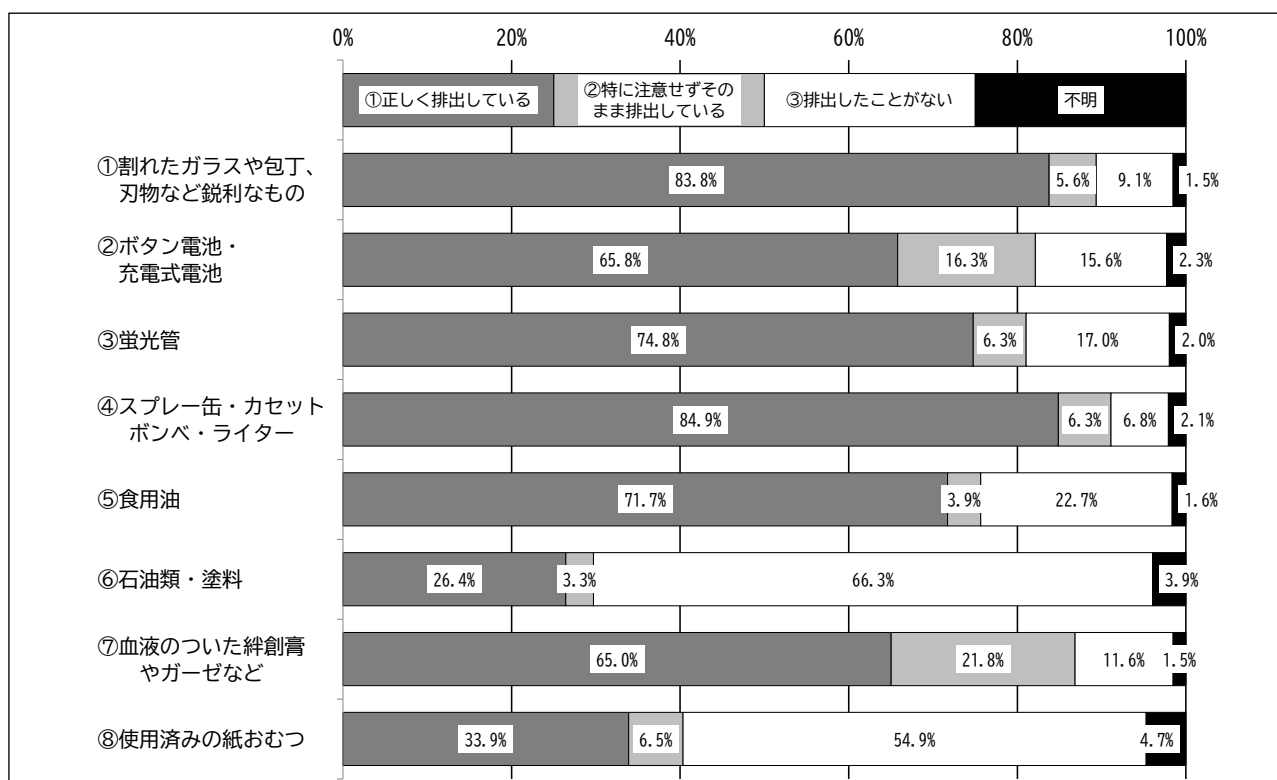


図 4-5-7 危険物等を正しく排出しているか①～⑧

図 4-5-8 は該当する方のみに回答をお願いした、

⑨注射針、⑩点滴バックやチューブ等医療行為で使用したプラスチック製品の 2 品目について、無回答を除いて集計した結果であり、9 割以上が「正しく排出している」と回答している。

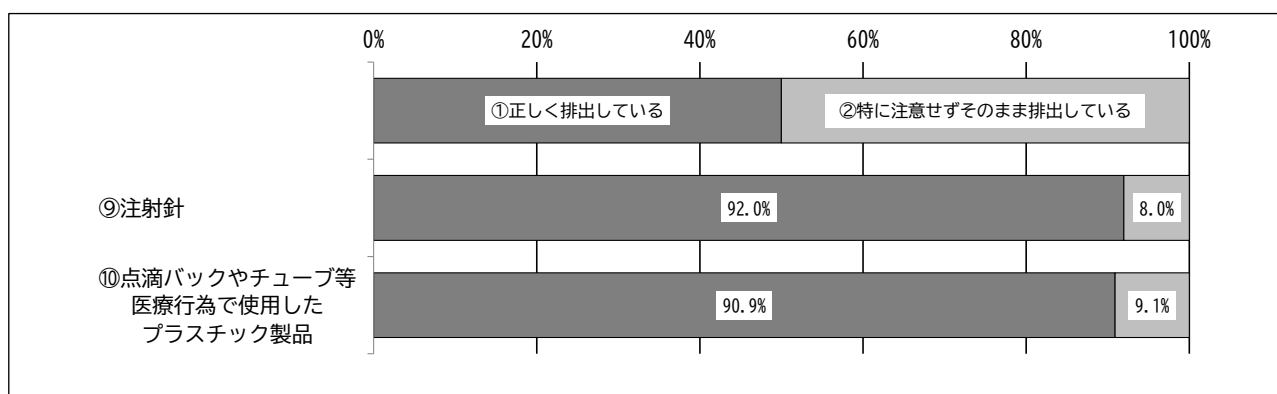


図 4-5-8 排出する際には特に注意をお願いしているもの⑨～⑩
(※「排出していない」「不明」を除く)

(7) 資源とごみの収集カレンダーについて

問 15 「資源とごみの収集カレンダー」についてお聞きします。現在、収集曜日やごみの分別方法をご案内するために、「資源とごみの収集カレンダー」を3月頃に全戸にお配りしています。「資源とごみの収集カレンダー」は使用されていますか。(〇は1つ)

82.5%がカレンダーを使用していると回答している。

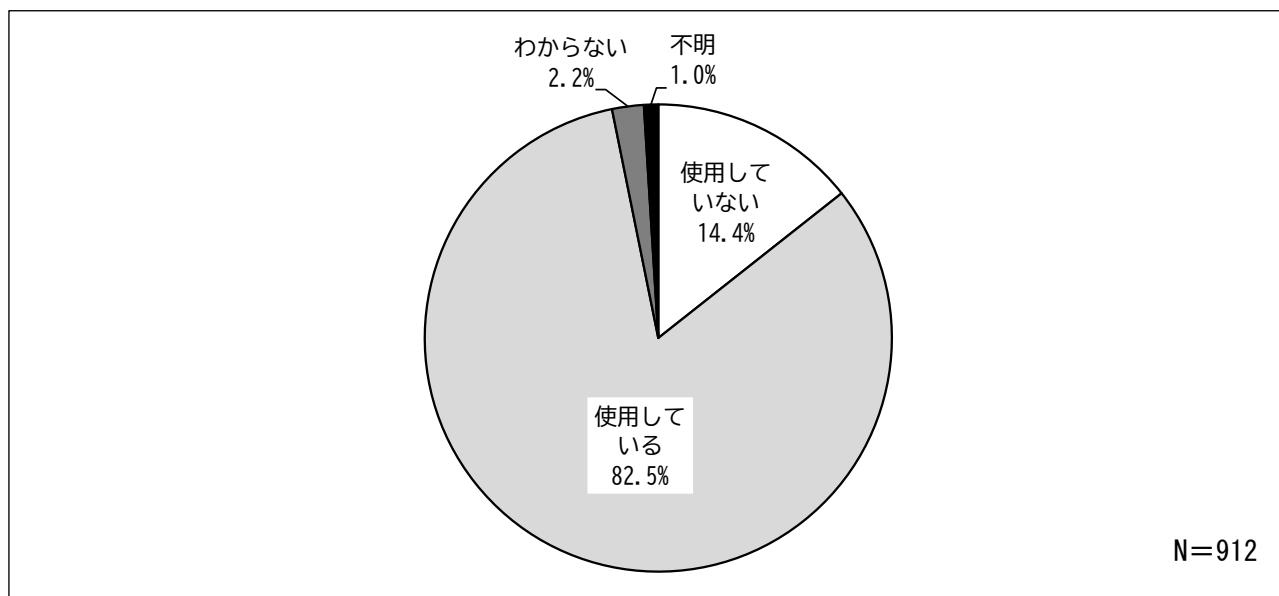


図 4-5-9 「資源とごみの収集カレンダー」の使用状況

(8) 「資源とごみの収集カレンダー」を使用していない理由

問 15-1 「資源とごみの収集カレンダー」を使用していない方にお聞きします。カレンダーを使用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)
【限定質問】問 15 で「1 使用していない」と回答した人のみ

前問でカレンダーを使用していないと回答した 131 人に対し、その理由を尋ねたところ、「③集積所の看板で確認できる」45.0%が最も高く、「②カレンダーをなくした」が最も低く 4.6%であった。

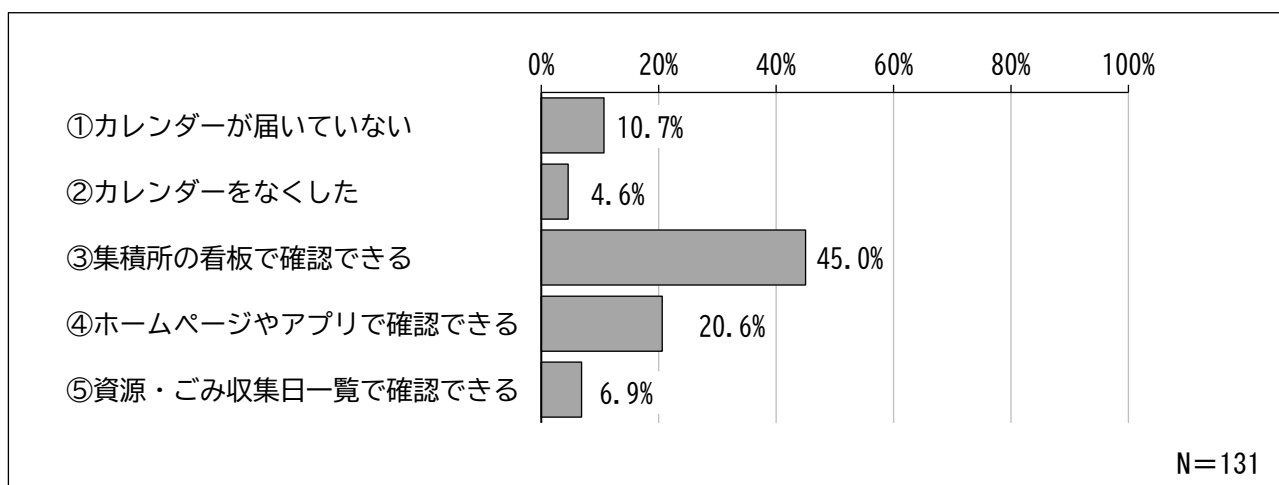


図 4-5-10 カレンダーを使用していない理由

(9) カレンダーに掲載する情報に関する意向

問 15-2 「資源とごみの収集カレンダー」を使用している方にお聞きします。カレンダーに掲載する情報について、あなたのお考えを項目ごとにお答えください。(〇は1つずつ)
【限定質問】問 15 で「2 使用している」と回答した人のみ

カレンダーに掲載する情報について、「①ごみ・資源の収集曜日」「②ごみ・資源の分け方」など8項目ごとに、「ちょうど良い」「より詳しく」「必要ない」を質問した。

基本的な分別方法、収集日情報の中では、「③分かりにくい品目の分け方」「⑤区で収集しないものの申込先」「⑥不法投棄の連絡先、持ち去り防止対策情報」「⑦区内の施設紹介」「⑧ごみ減量に関する豆知識」について、より詳しく、分かりやすく掲載してほしいとの回答が高い。

一方、「①ごみ・資源の収集曜日」「②ごみ・資源の分け方」「④粗大ごみの出し方」については、ちょうど良いが高い。

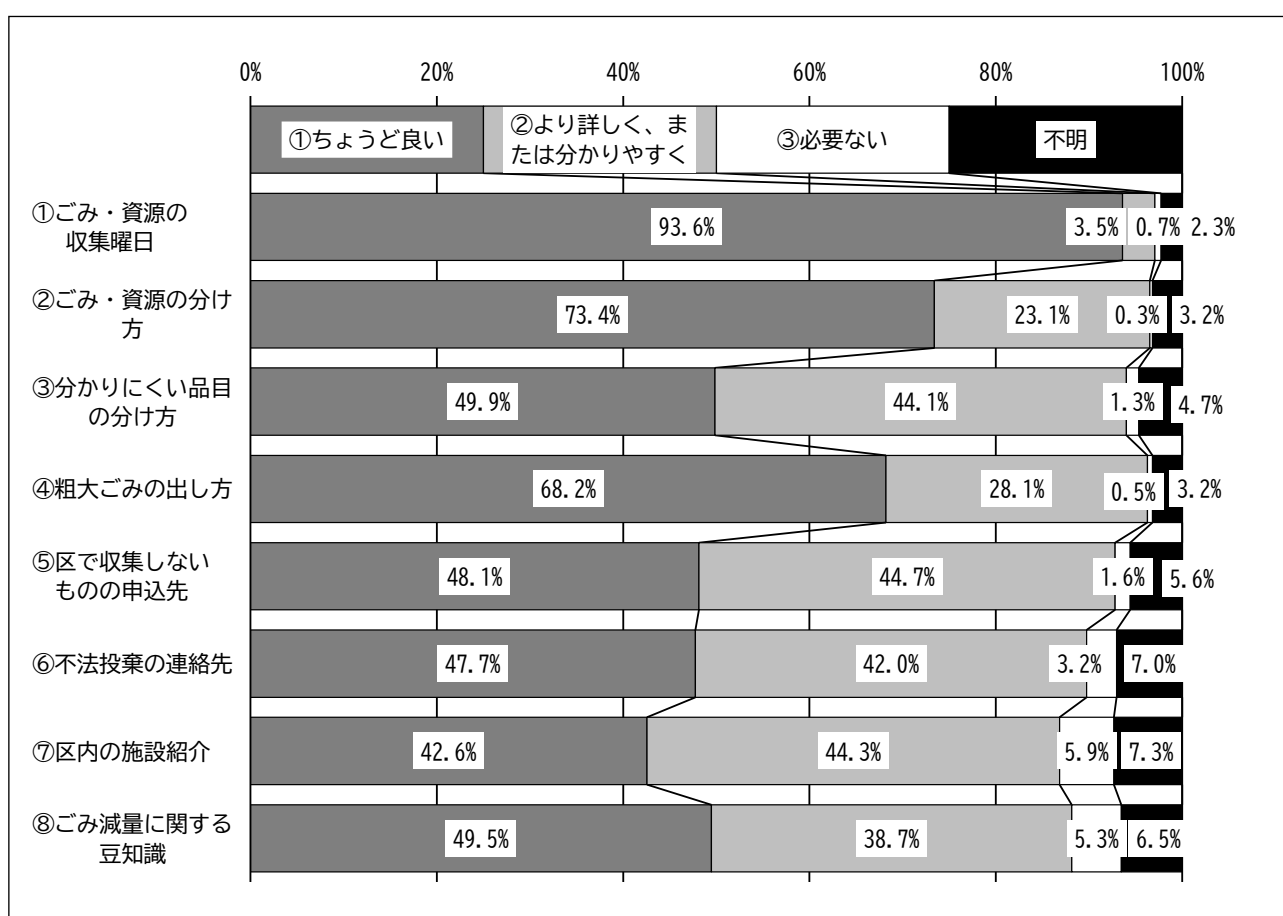


図 4-5-11 カレンダーに掲載する情報に対する考え

(10) 「地域の収集日が分かる一覧」に対するニーズ

問 15-3 カレンダー（形式）でなくても、地域の収集曜日がわかる一覧があれば、資源とごみを正しく排出することができると思いますか。（○は1つ）

【限定質問】問 15 で「2 使用している」と回答した人のみ

「カレンダー形式ではなく一覧形式でも正しく排出できる」という回答は 52.7%にとどまっている。なお、「その他」欄には 43 件の具体的記入があり、「比較しないとわからない」「カレンダーで慣れているのでこのままが良い」「一覧にすると大きなサイズになり貼る場所がない」などの回答があった。

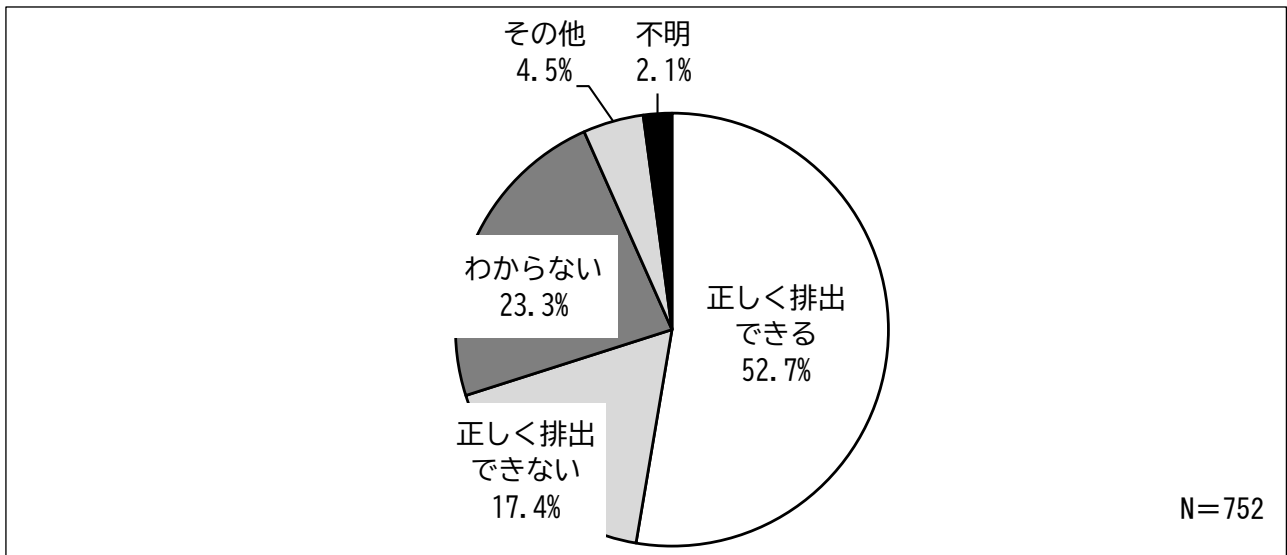


図 4-5-12 カレンダー形式ではなく一覧形式で正しく排出できるか

(11) 集団回収について

問 16 町会や PTA などの地域団体やマンション単位で行っている集団回収についてお聞きます。集団回収に参加されたことがありますか。（○は1つ）

「いつも」「時々」を合わせた集団回収への参加率は 23.5%であり、71.2%が「集団回収に参加したことが無い」である。

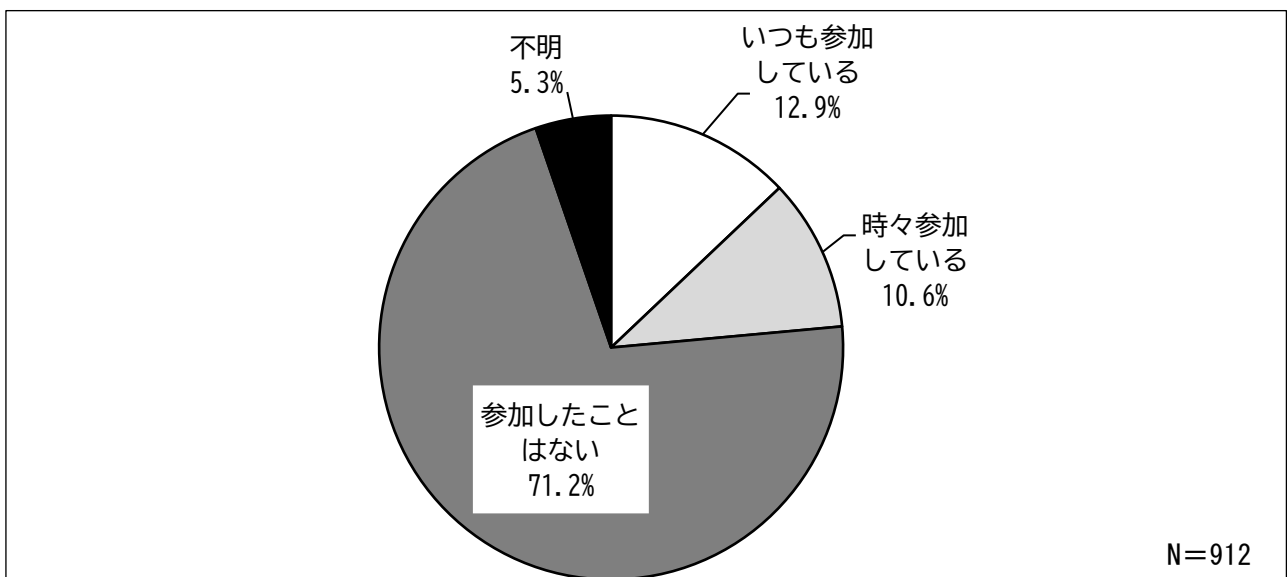


図 4-5-13 集団回収の参加状況

問 16-1 問 16 で 1、2 を選んだ方にお聞きします。

集団回収で、新たに回収してほしい品目はありますか。(〇はいくつでも)

【限定質問】問 16 で「集団回収にいつも(時々)参加している」と回答した人のみ

集団回収で新たに回収してほしい品目については、「③古布類」が 43.7%と最も高い。また、「⑤その他」欄には 19 件の具体的記入があり、「段ボール」「発泡スチロール」「食用油」などの回答があった。

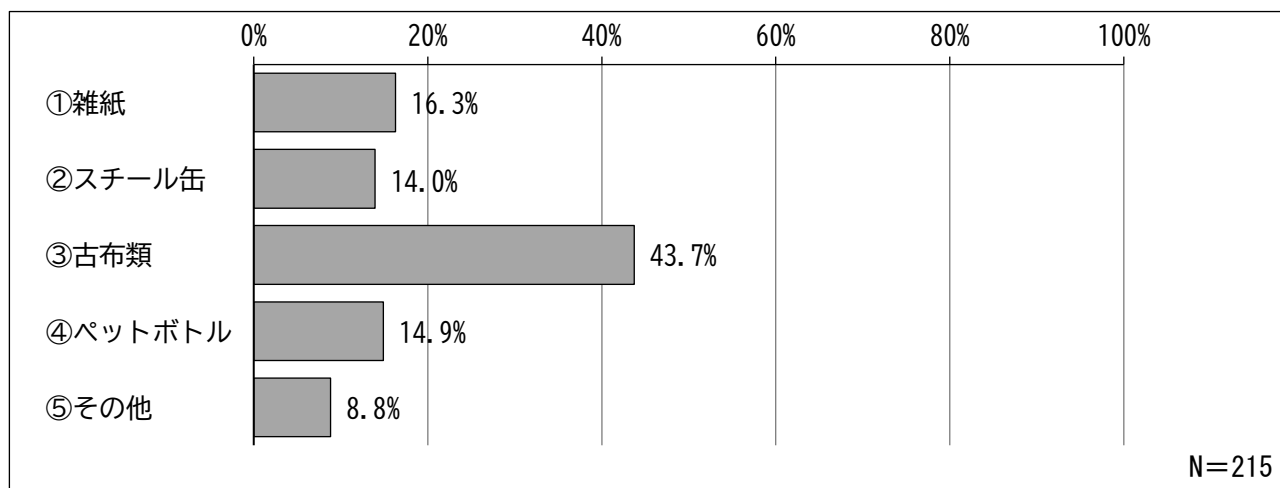


図 4-5-14 集団回収で新たに回収してほしい品目

問 16-2 問 16 で 3 を選んだ方にお聞きします。その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【限定質問】問 16 で「3 参加したことはない」と回答した人のみ

「②地域での実施情報が無い」が 57.8%と最も高い。

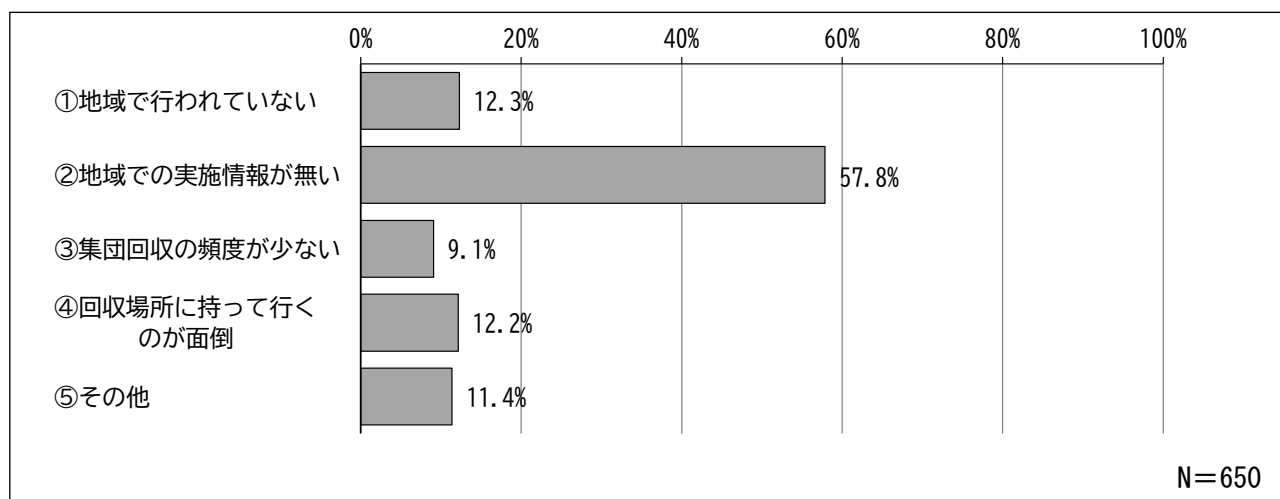


図 4-5-15 集団回収に参加しない理由

4.6 今後の区取り組みについて

問 17 今後、ごみの減量やリサイクル、適正処理を一層進める上で、区はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。以下から最も強く思われるもの1つに◎、強く思われるものに○（いくつでも）を付けてください。

問 17 の単純集計結果を図 4-6-1 に示す。

最も重要と思われるものを1つ選ぶ◎項目では、「①分け方・出し方に関する情報提供・PR の充実」が 22.8%と最も多く、次いで「⑦出し方を守らない人への指導徹底」10.9%、「⑧不法投棄対策の推進」6.8%などとなっている。

◎と○を合算した集計でも上記①⑦⑧の比率は高くなっており、その他「⑨資源持ち去り対策の徹底」27.4%、「⑤販売店に対する働きかけ」26.5%、「③児童・生徒への環境教育の充実」25.1%が比較的高い項目となっている。

「⑫その他」欄には 47 件の具体的記入があり、「排出された各品目のごみがどのようにリサイクルされているのかもっと情報を発信」「カラス対策」「SNS による情報発信」などの回答があった。

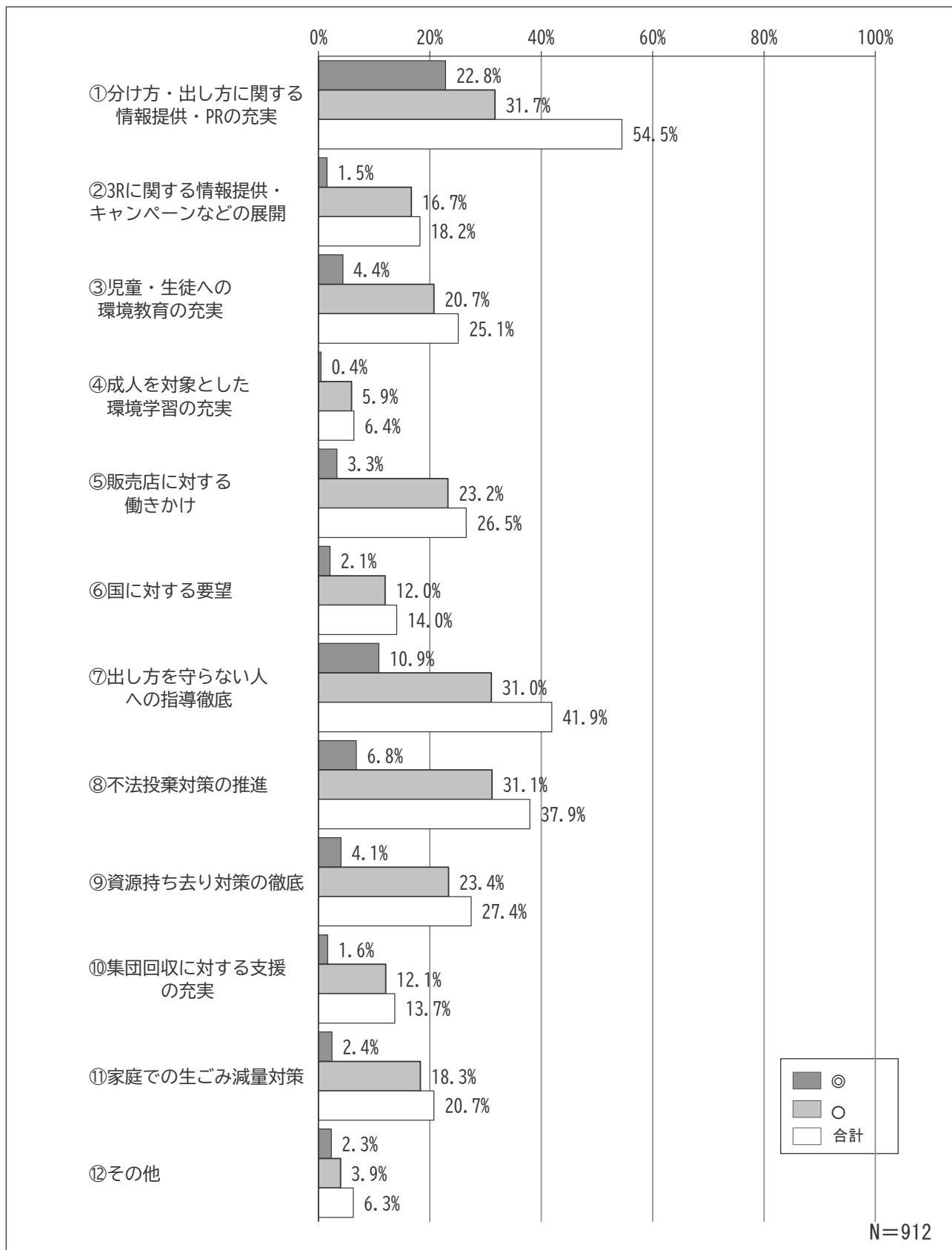


図 4-6-1 今後取り組むべき施策

第5章 事業系ごみ実態調査（アンケート調査）

5.1 調査方法

(1) 調査方法

区内事業所のうち、無作為に抽出した3,000事業所を対象とし、調査票を郵送した。調査票は無記名式で、郵送またはオンラインで回収した。

(2) 調査期間

令和6年11月27日～12月13日

(3) 回収状況

表5-1-1にアンケートの回収状況を示す。本報告書では有効回答913件を集計の対象とした。

表5-1-1 事業系アンケート調査の回収状況

発送数	3,000通
宛先不明による返還数	316通(廃業などの連絡16件を含む。)
有効回答数	850通(郵送:729、Web:121件)
回答率	$850 \div (3,000 - 316) = 31.7\%$

5.2 フェイス項目

グラフ中のNは各質問の有効回答数を表す。

(1) 業種

回答事業所の業種内訳を図5-2-1に示す。

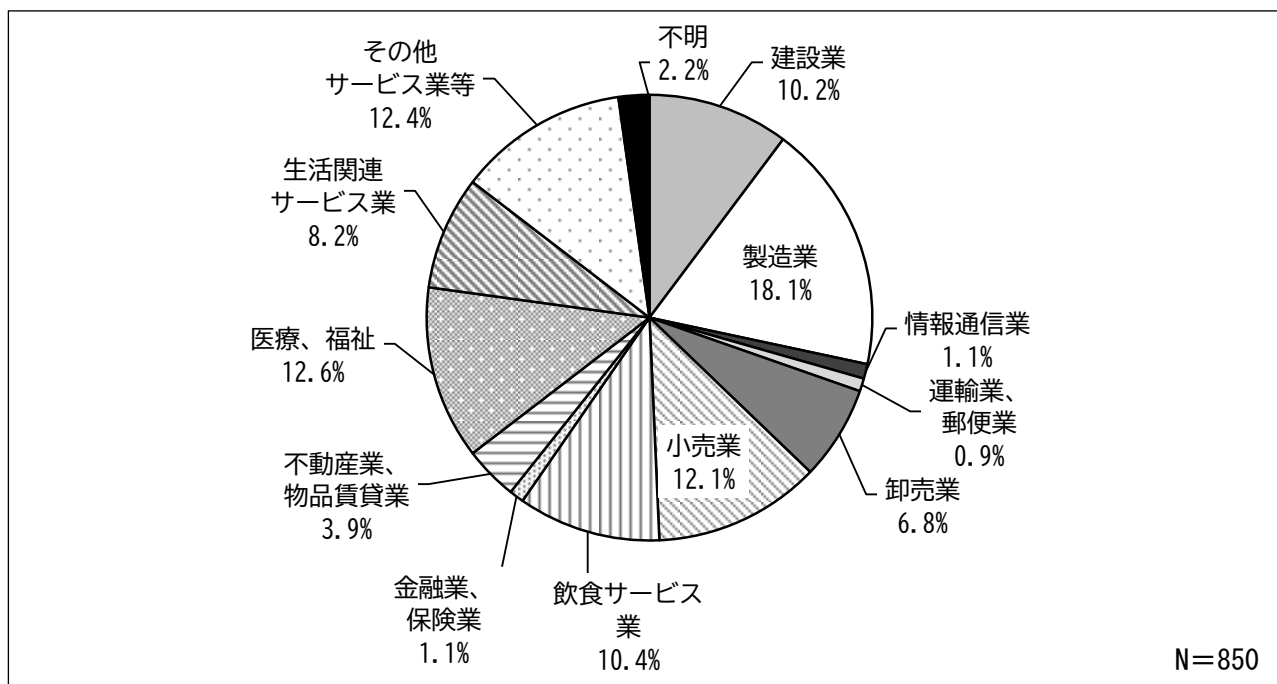


図5-2-1 回答事業所の業種内訳

(2) 建物の形態

図 5-2-2 は、回答事業所の建物の形態である。住居併用事業所が全体の 45.8% を占め最も高い。

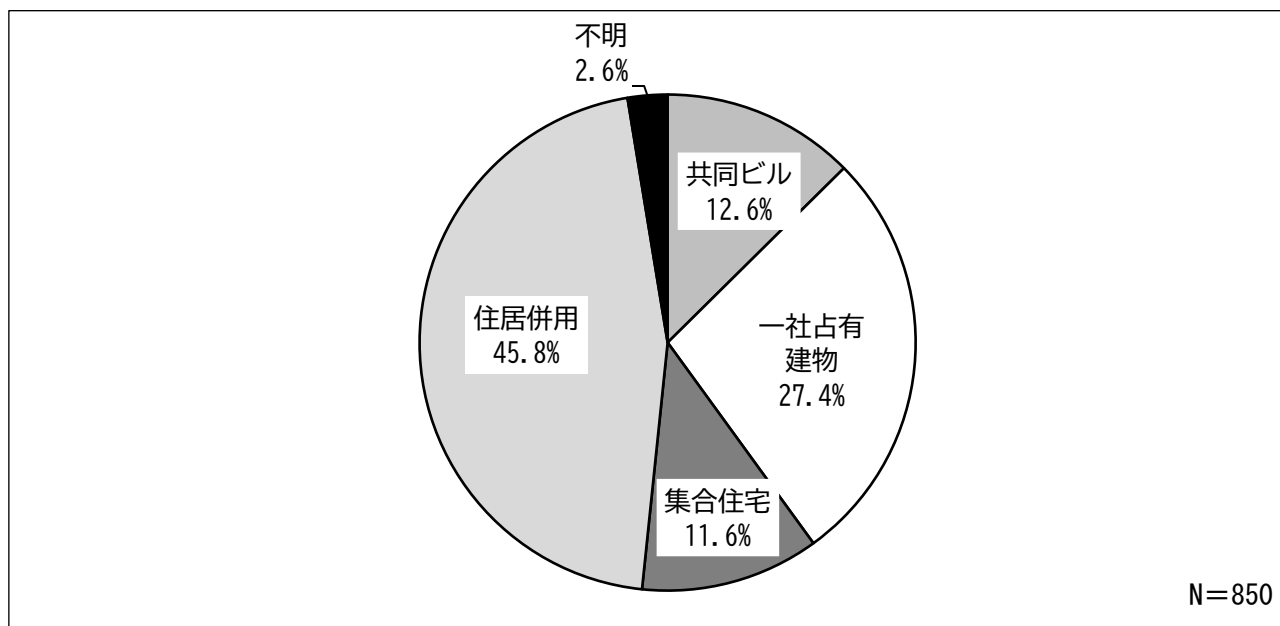


図 5-2-2 建物の形態

(3) 従業者規模

回答事業所の役員やパート・アルバイトも含む従業者規模の割合を図 5-2-3 (左) に示す。5 人未満が 61.4% を占めている。

(4) 保管場所の有無

回答事業所の役員やパート・アルバイトも含む従業者規模の割合は、5 人未満が 61.4% を占めている (図 5-2-3 (左))。資源やごみの保管場所については、78.0% の事業所が「ある」と回答している (図 5-2-3 (右))。

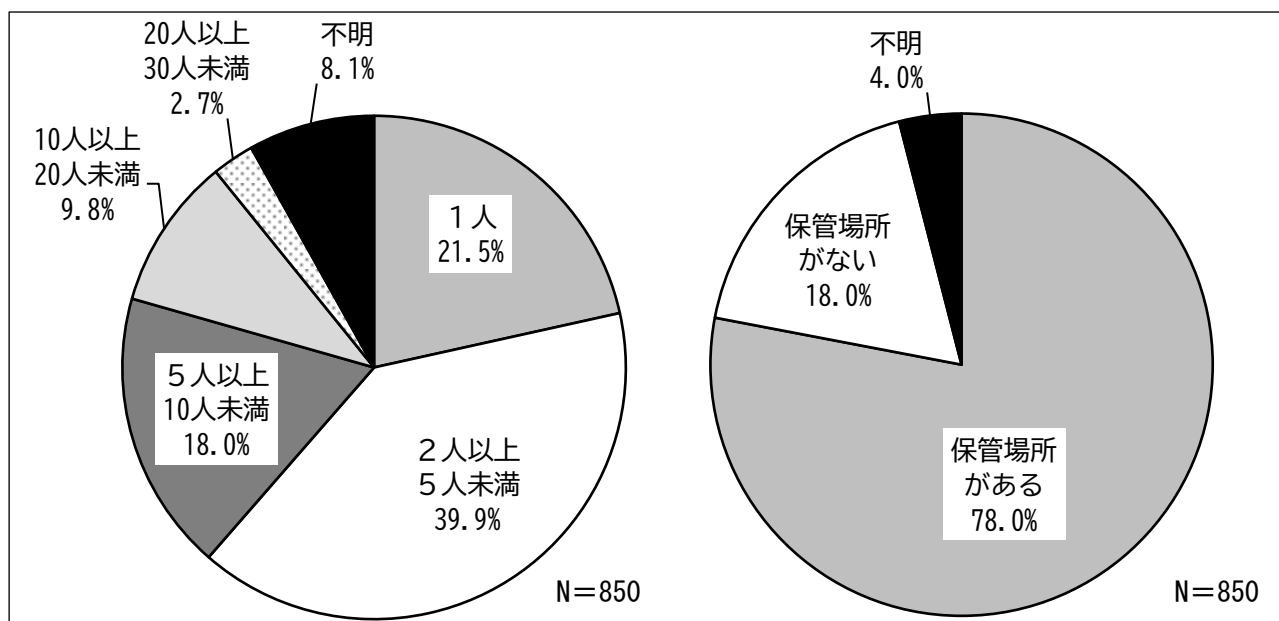


図 5-2-3 従業者規模内訳 (左) 保管場所の有無 (右)

5.3 ごみや資源の処理方法について

(1) 処理方法とごみ量

問1 貴事業所から排出されるごみ（産業廃棄物を除く）や資源の処理方法について、下表の1～6から選択し（複数可）、1週間あたりの排出量をお答えください。

「①区ごみ収集」への排出が74.5%と最も多い。

また、本問の数値回答に基づく事業系ごみ量の全区拡大推計については、本章「5.6 事業系ごみフローの推計」で行っている。

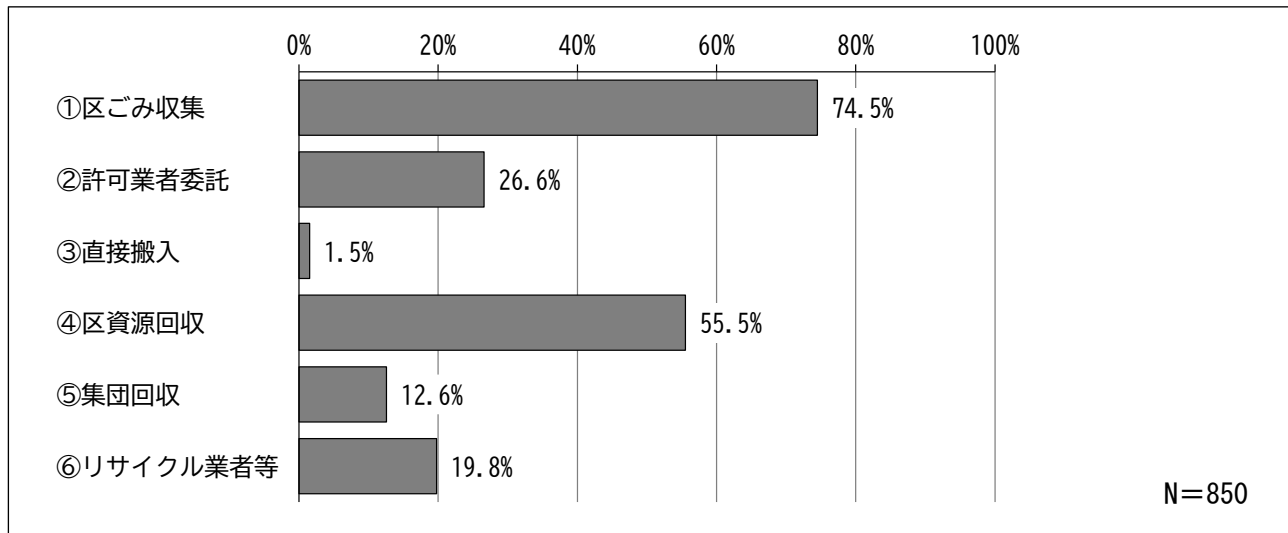


図 5-3-1 ごみや資源の処理方法

(2) 住居併用事業所の排出

問2 事業所がお住まいと併用の方にお聞きします。
家庭ごみと事業系ごみを別々に処理していますか。（○は1つ）

本問は、フェイス項目の「建物形態」で「住居併用事業所」と回答した事業所のみを対象に集計した。「別々に処理」が58.4%、「まとめて処理」が22.4%、「一部を別々に処理」が12.3%である。

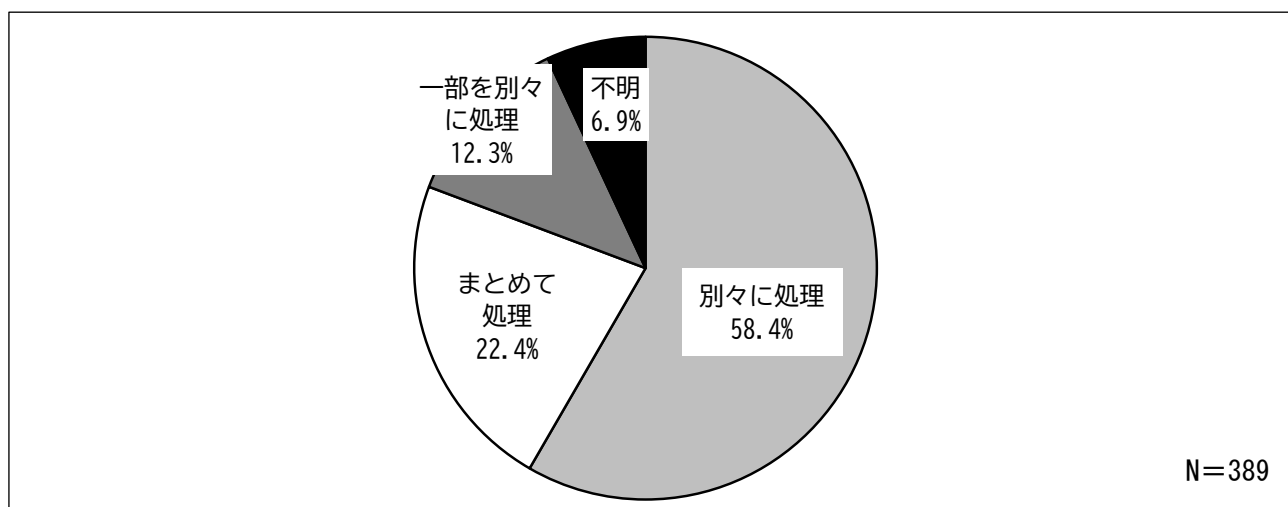


図 5-3-2 家庭ごみと事業系ごみの処理

(3) 家庭ごみと事業系ごみをまとめて処理している理由

問 2-1 前問 2 で 2、3 を選択した方のみお答えください。

家庭ごみと事業系ごみをまとめて処理している理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【限定質問】問 2 で「まとめて処理」または「一部を別々に処理」と回答した事業所のみ

90.4%が「①ほとんどが家庭ごみのため」と回答している。なお、「⑥その他」欄には 9 件の具体的な記入があり、「他の営業所を出している」「45 リットル袋に収まるから」などである。

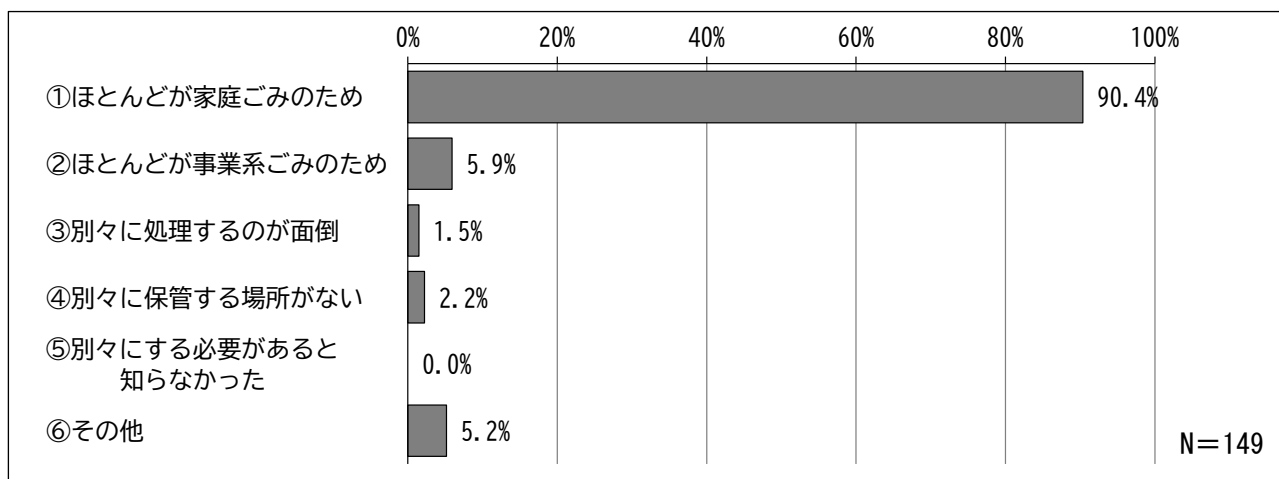


図 5-3-3 家庭・事業系ごみをまとめる理由

(4) 事業系有料ごみ処理券について

問 3 事業系ごみを区ごみ収集に排出されている事業所にお聞きします。

ごみを葛飾区の収集に排出する際、事業系有料ごみ処理券を貼っていますか。(〇は 1 つ)

【限定質問】問 1 で「①区ごみ収集」と回答した事業所のみ

本問は、問 1 で「区のごみ収集」「区の資源回収」に排出していると回答した事業所に限定して集計した。「貼付している」が 61.1%、「時々貼っている」が 7.0%、「貼付していない」が 14.4%である。

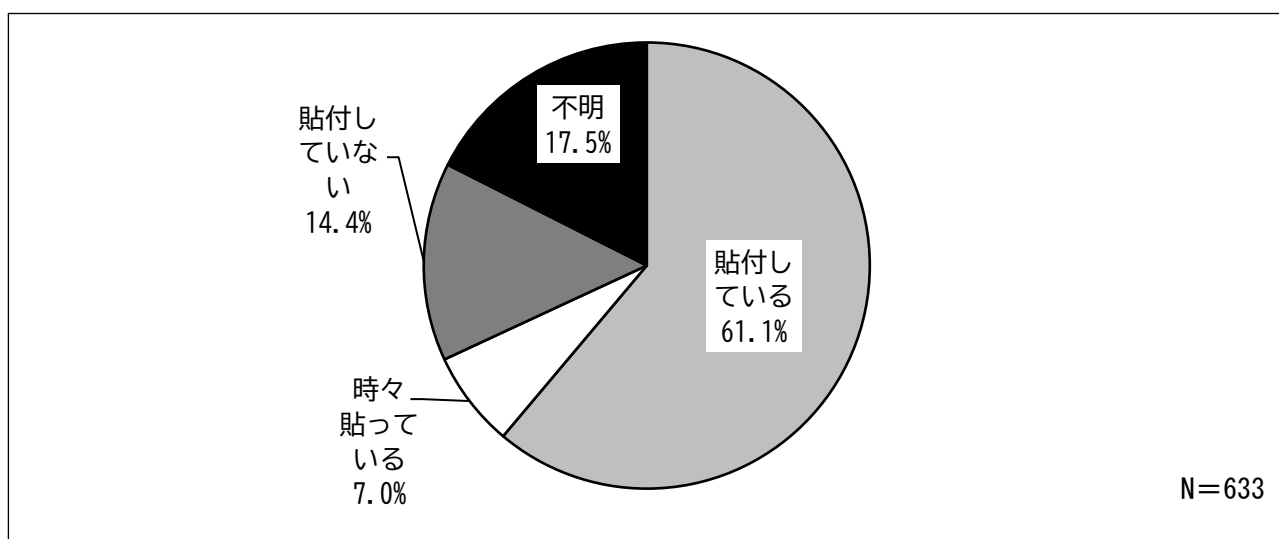


図 5-3-4 事業系有料ごみ処理券の貼付

問 3-1 前問 3 で 2 または 3 を選んだ方にお聞きます。貼付していない理由は何ですか。
 (〇はいくつでも)
 【限定質問】問 3 で「貼付していない」と回答した事業所のみ

ごみ処理券を貼付しない理由としては、「④ほとんどが家庭ごみ」60.7%、「③事業系ごみが少量」40.7%という回答が高くなっている。なお、「⑥その他」欄には 22 件の具体的記入があり、「別の事業所に出している」「多いときだけ 45 リットル袋のシールを貼っている」などである。

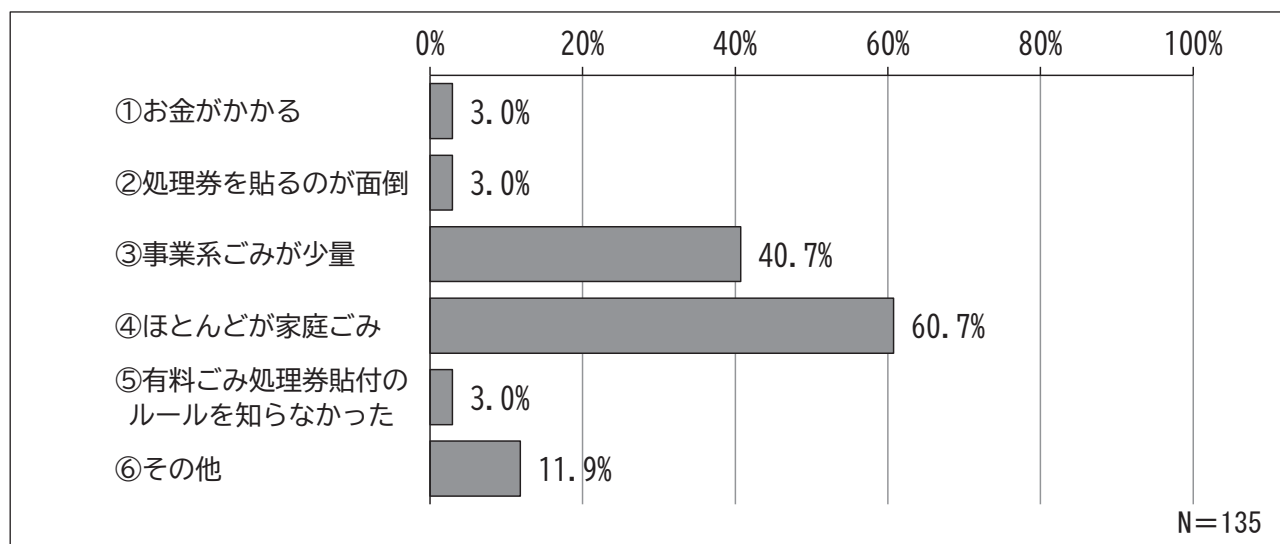


図 5-3-5 事業系有料ごみ処理券を貼付しない理由

5.4 ごみ減量・リサイクルの取り組みについて

(1) 実施している取り組み

問4 貴事業所で実施しているごみ減量の取り組みに○を付けてください。(○はいくつでも)
 その中で、十分にごみ減量の効果が上がっているものには◎をつけてください。

実施している取り組みとしては、「②資源分別の徹底」が80.0%と最も高く、次いで、「①裏面利用など紙の使用方法を工夫」が62.8%、「③生ごみの水きり」が40.2%などの順である。

「⑨その他」欄には31件の具体的記入があり、「納入時に段ボールを返却している」「資源はリサイクル業者に持ち込んでいる」などである。

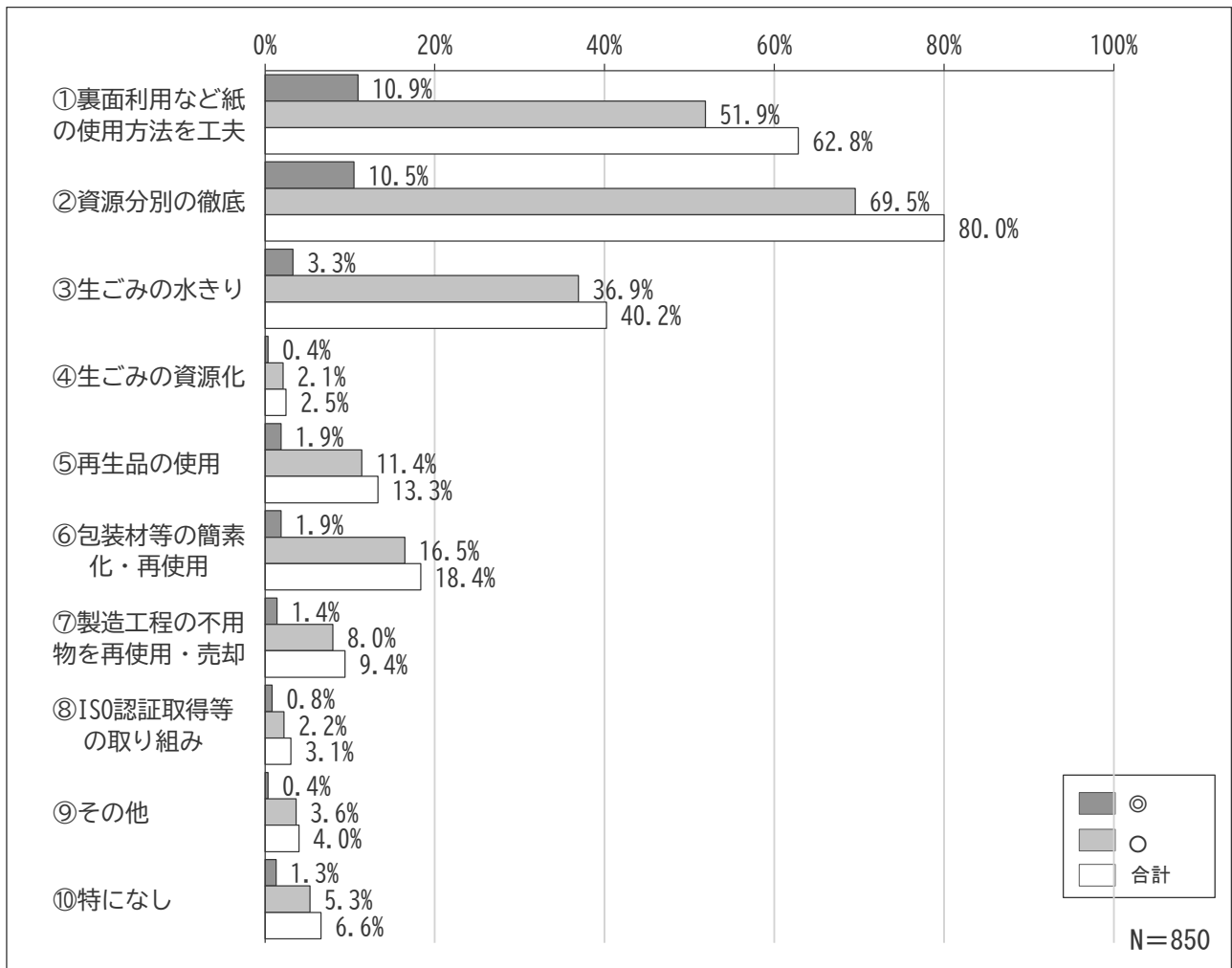


図 5-4-1 事業所で実施している取り組み

(2) ごみ減量・リサイクルの可能性

問5 貴事業所では、今よりもっとごみ減量やリサイクルができますか。(○は1つ)

「余地がない」が約5割を占めている。

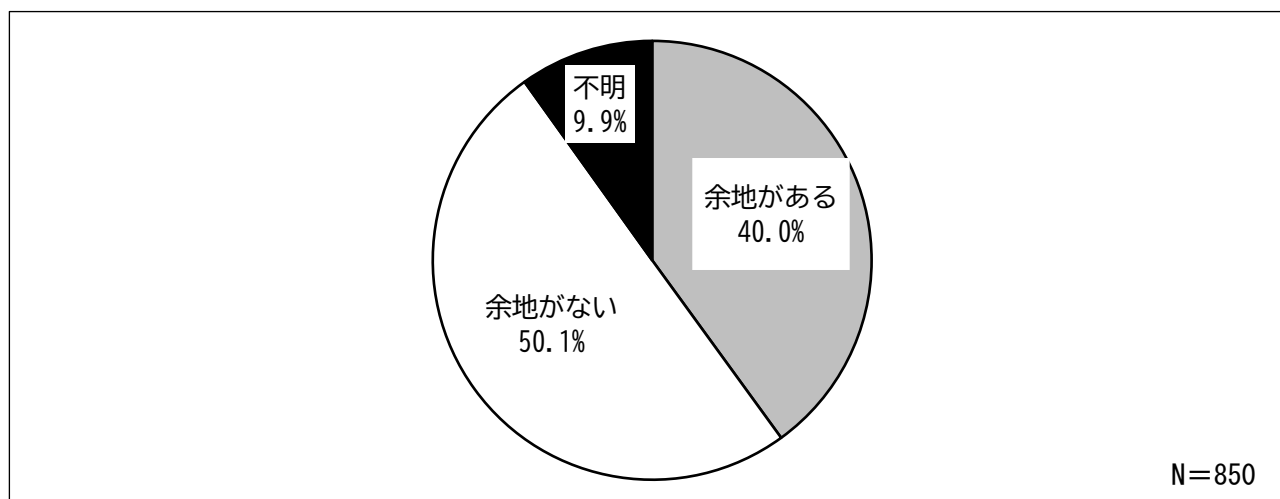


図 5-4-2 ごみ減量・リサイクルの可能性

(3) ごみ減量・リサイクルができると思う内容

問5-1 前問5で1を選んだ方にお聞きします。

余地があると思われる理由は何ですか。(○はいくつでも)

【限定質問】問5で「今よりも減量・リサイクルができる」と回答した事業所のみ

「③電子化など紙類の削減」が50.0%で最も多く、次いで、「②包装材等の無駄の削減」が36.5%、「④古紙類の分別」30.3%、「⑤びん・缶、ペットボトルの分別」が26.5%などの順である。「⑦その他」欄には14件の具体的記入があり、「再生紙を購入する」「事務等の電子化を進める余地がある」などである。

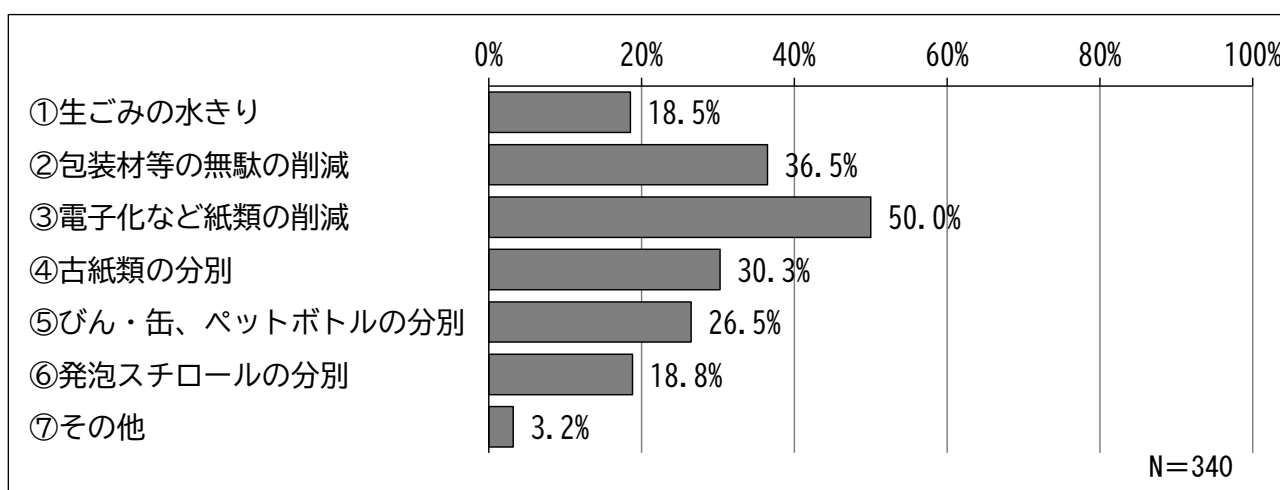


図 5-4-3 減量できると思うこと

(4) ごみ減量・リサイクルがこれ以上できない理由

問 5－2 前問 5 で 2 を選んだ方にお聞きします。

これ以上余地がないと思われる理由は何ですか。(○はいくつでも)

【限定質問】問 5 で「できると思わない」と回答した事業所のみ

「②ごみの量が少ない」が 68.1%で最も多く、それ以外の理由は 10%未満である。

「⑩その他」欄には 55 件の具体的記入があり、「十分に減量しているからこれ以上減量ができない」「会社内で重要性が低い」などである。

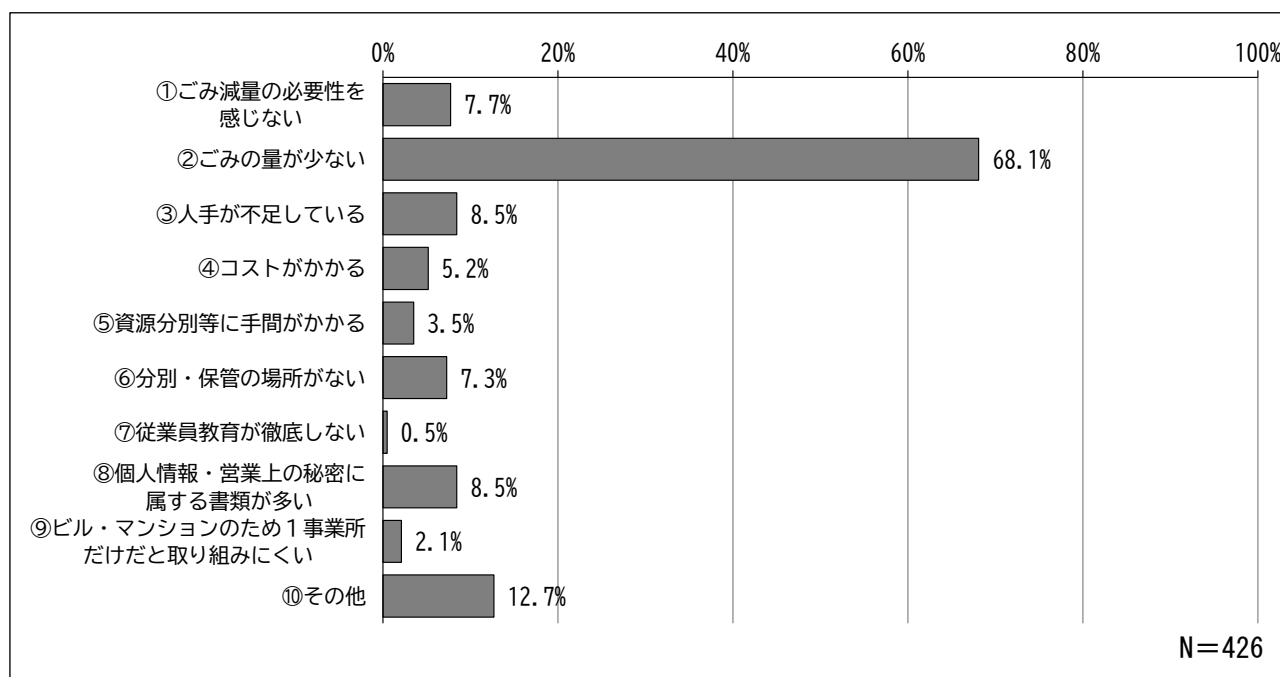


図 5-4-4 ごみ減量・リサイクルができないと思う理由

(5) 紙ごみの分別について

問 6 新聞、雑誌、段ボール、紙箱・紙袋、包装紙、コピー用紙などの紙ごみについてお聞きします。普段、紙ごみの分別はどのようにされていますか。(○は1つ)

「区の資源回収に出す」が 48.1%、「一部はリサイクル、小さいものはごみに出す」が 19.2%、「リサイクル業者に出す」が 13.2%で、8 割以上がリサイクルを行っている。

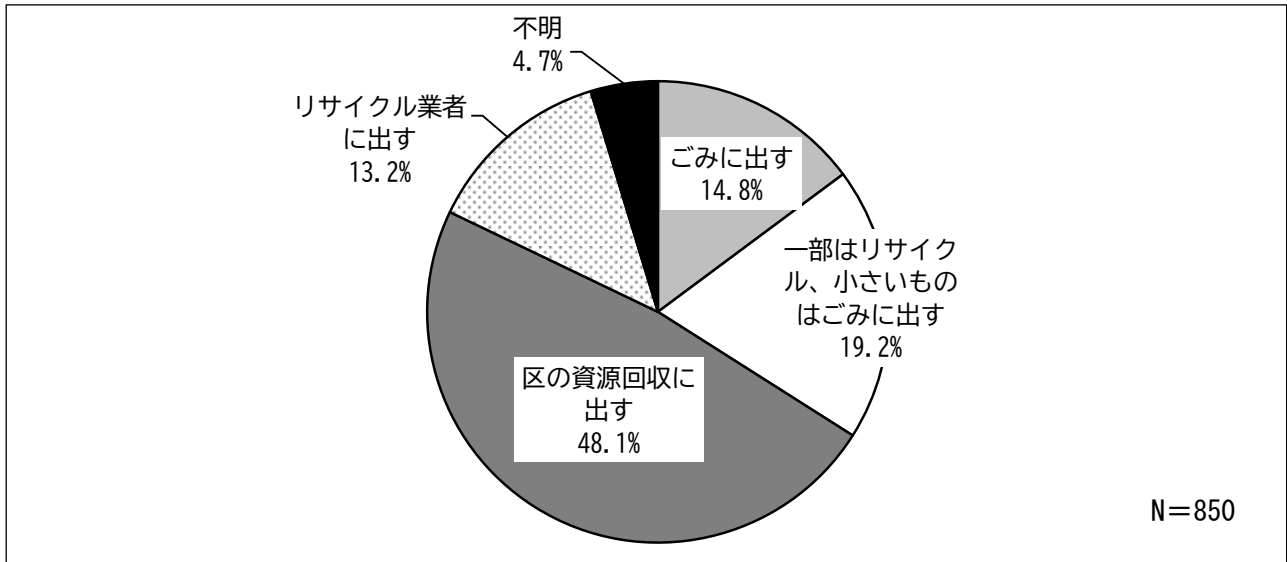


図 5-4-5 紙ごみの分別状況

(6) 紙ごみをリサイクルに出さない理由

問 6-1 前問 6 で 1、2 を選んだ方にお聞きします。リサイクルに出さない理由は何ですか。(○はいくつでも)

【限定質問】問 6 で紙ごみを「ごみに出す」「一部はリサイクル」と回答した事業所のみ

紙ごみを分別・リサイクルしない理由としては、「③秘密に属する書類が多い」が 29.1%で最も多く、次いで「⑥紙ごみの排出がほとんど無い」が 23.2%、「②少量だと業者が引き取らない」が 15.2%などの順である。「⑦その他」欄には 43 件の具体的記入があり、「シュレッダーをしている」「個人名の入っている書類は可燃ごみに出している」などである。

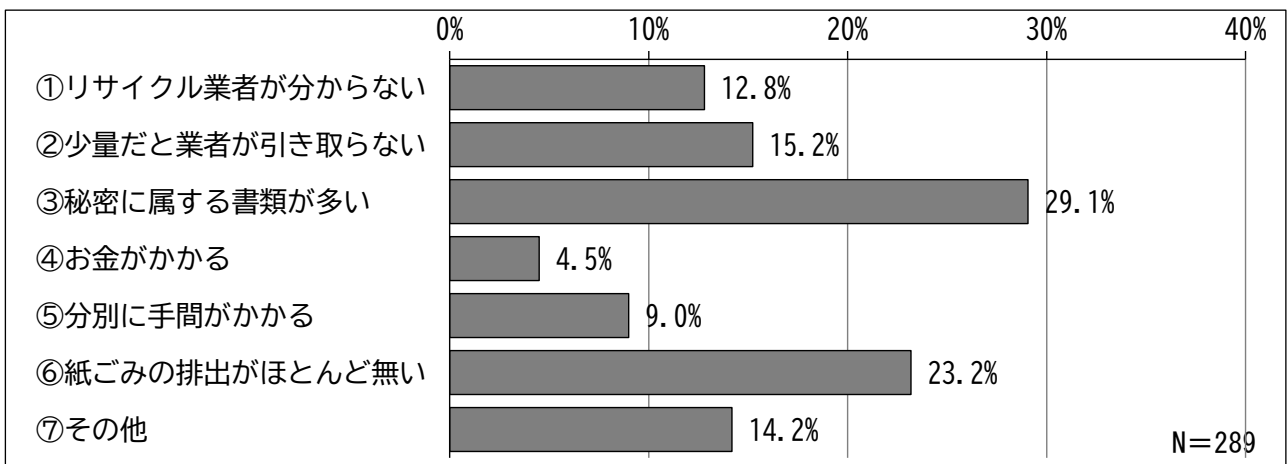


図 5-4-6 紙ごみをリサイクルに出さない理由

5.5 ごみ減量・リサイクルに関する情報について

(1) ごみの分別や出し方に関する情報源

問7 貴事業所ではごみの分別や出し方に関する情報を主にどこから得ていますか。
(〇はいくつでも)

ごみの分別排出等に関する情報源としては、「①区配布の収集カレンダー・チラシ」が77.1%と最も多く、次いで、「③広報かつしか」が21.5%、「⑥ごみ・資源の収集業者」が12.0%などの順である。

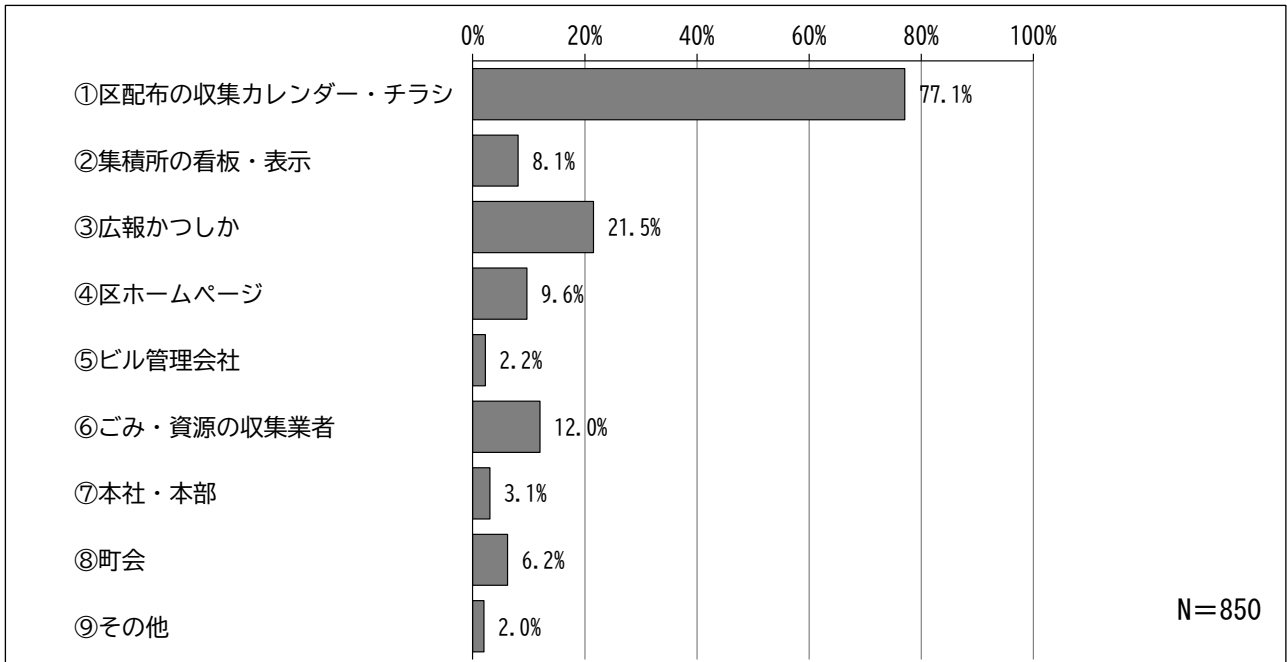


図 5-5-1 ごみの分別や出し方に関する情報源

(2) 区のごみ減量に関する情報提供・PR 活動について

問8 区のごみ減量に関する情報提供・PR 活動についてどう思われますか。
(〇はそれぞれ1つ)

情報量については、「十分」が56.0%である。内容については、「わかりやすい」が59.5%である。

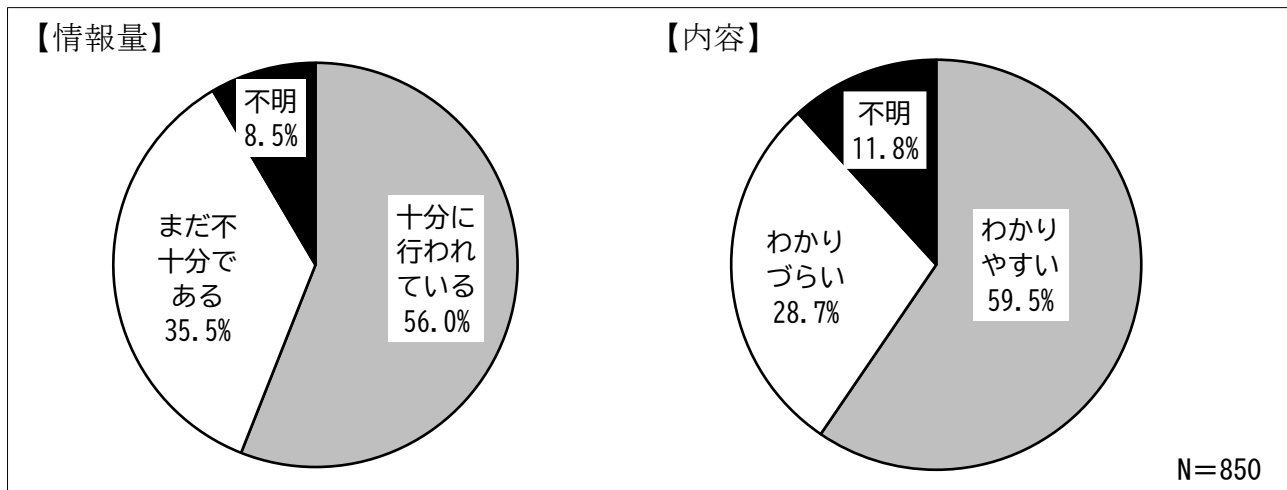


図 5-5-2 区による情報提供・PR 活動について

(3) 区の情報提供・PR 活動に対する要望

問9 今後区に進めてほしい情報提供・PR 活動は何ですか。
(〇はいくつでも)

「①事業系ごみの正しい分け方や適正処理の方法、法制度に関する情報」が 35.2%と最も多く、次いで「②資源回収業者等の情報」23.5%、「④少量でも安価に資源回収できる共同回収など、新たなしくみづくりの情報」17.8%などの順である。

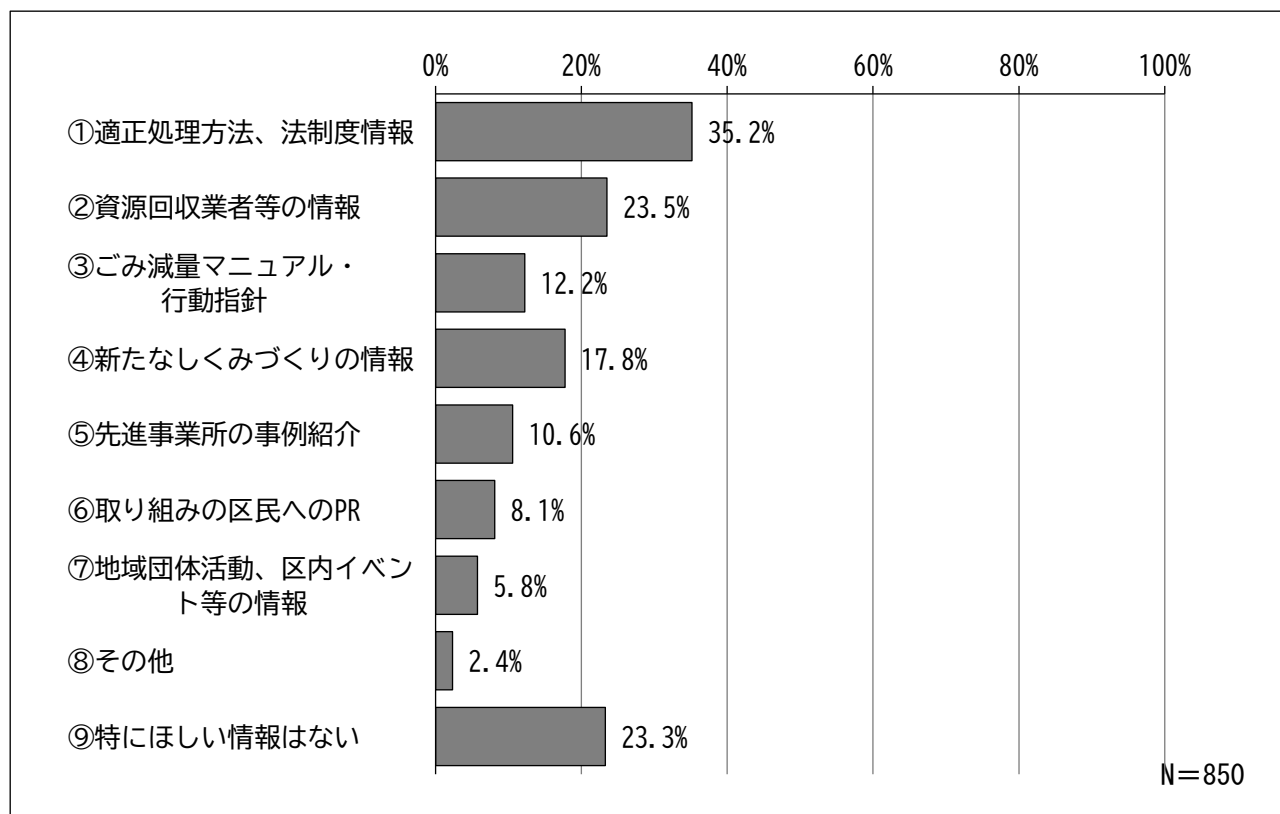


図 5-5-3 区の情報提供・PR 活動に対する要望

5.6 事業系ごみフローの推計

ここでは、事業所アンケート調査から得られた結果を基に、事業系ごみの排出量を業種別・従業者規模別・品目別に分析していく。

(1) 1 事業所あたり平均年間排出量の算出

アンケート調査から集計した、業種別・従業者規模別の 1 事業所あたりごみ・資源年間排出量平均値を表 5-6-1 に示す。本調査では、ごみ量及び資源量に回答のあった 722 事業所を対象に集計したが、従業者規模が 20～29 人の事業所は 20 事業所と少なかったため、10～19 人と統合して、10～29 人として集計した。飲食業の 10～29 人については、1 事業所のみであったため、データの信頼性は低いと考えられる。

概ね従業者規模が大きくなると、区ごみ収集、区資源回収、集団回収と言った公的収集・回収から許可業者収集や民間資源回収業者といった委託サービスに排出先が移行する傾向が見られる。

表 5-6-1 1 事業所あたり平均年間排出量

単位：kg/年/事業所

業種・従業者規模		回答数 (件)	ごみ				資源				合計
			区収集	許可 業者	直接 搬入	小計	区回収	集団 回収	回収 業者	小計	
1 建設業	1～4人	43	184	103	13	301	136	27	33	195	496
	5～9人	18	681	520	0	1,201	211	38	6	255	1,456
	10～29人	14	695	89	111	896	80	75	4	159	1,054
2 製造業	1～4人	92	333	146	2	481	116	27	214	357	839
	5～9人	25	524	108	0	632	483	62	216	761	1,393
	10～29人	25	254	2,311	0	2,565	73	0	1,030	1,102	3,667
3 卸売業	1～4人	27	225	13	0	237	72	31	62	165	402
	5～9人	15	692	69	693	1,455	158	180	14	352	1,806
	10～29人	11	184	2,795	0	2,979	33	236	1,607	1,877	4,856
4 小売業	1～4人	64	362	204	0	566	319	63	88	471	1,037
	5～9人	17	282	933	0	1,215	29	37	236	301	1,516
	10～29人	10	234	2,512	0	2,746	26	0	998	1,024	3,770
5 飲食業	1～4人	61	653	258	0	911	135	36	66	238	1,148
	5～9人	14	613	2,277	0	2,890	85	45	108	238	3,127
	10～29人	1	0	0	0	0	0	1,040	0	1,040	1,040
6 医療・福祉	1～4人	49	345	197	0	542	97	25	35	156	698
	5～9人	27	984	527	0	1,512	147	32	21	200	1,712
	10～29人	11	260	2,430	0	2,690	128	95	213	435	3,125
7 その他 サービス業等	1～4人	150	310	32	74	416	90	20	157	267	684
	5～9人	27	406	644	2	1,052	72	113	205	390	1,442
	10～29人	21	188	1,248	0	1,436	63	50	619	732	2,168

(2) 拡大推計に用いる統計調査

令和 3 年経済センサス活動調査によると、区内 15,523 事業所(出向・派遣従業者のみの事業所を除く。)の 95.6%、14,845 事業所が従業者規模 30 人未満である。

(3) 区内事業系ごみ・資源排出量の推計

(1)の事業所あたり平均排出量、(2)の区内事業所数を乗じて算出した区内事業系ごみ・資源排出量の推計結果を表 5-6-2 に示す。

表 5-6-1 のアンケート調査から得られた平均排出量の信頼性が低いと考えられる飲食業の 10～29 人については、飲食業の 5～9 人の平均排出量を用いて算定している。

表 5-6-2 区内事業系ごみ・資源排出量の推計結果

単位：t/年

業種・従業者規模		事業所数 (令和3 年)	ごみ				資源				合計
			区収集	許可 業者	直接 搬入	小計	区回収	集団 回収	回収 業者	小計	
1 建設業	1～4人	744	137	77	10	224	101	20	24	145	369
	5～9人	328	223	171	0	394	69	12	2	83	477
	10～29人	226	157	20	25	202	18	17	1	36	238
2 製造業	1～4人	1,557	518	228	3	749	180	43	334	557	1,306
	5～9人	407	213	44	0	257	196	25	88	310	567
	10～29人	296	75	684	0	759	22	0	305	326	1,085
3 卸売業	1～4人	591	133	7	0	140	43	18	37	97	238
	5～9人	216	149	15	150	314	34	39	3	76	390
	10～29人	153	28	428	0	456	5	36	246	287	743
4 小売業	1～4人	1,383	501	282	0	783	442	88	122	651	1,434
	5～9人	418	118	390	0	508	12	15	98	126	634
	10～29人	451	106	1,133	0	1,238	12	0	450	462	1,700
5 飲食業	1～4人	1,124	734	290	0	1,024	152	40	75	267	1,291
	5～9人	346	212	788	0	1,000	30	15	37	82	1,082
	10～29人	282	173	642	0	815	24	13	30	67	882
6 医療・福祉	1～4人	491	169	97	0	266	47	12	17	77	343
	5～9人	444	437	234	0	671	65	14	9	89	760
	10～29人	416	108	1,011	0	1,119	53	39	88	181	1,300
7 その他 サービス業等	1～4人	3,733	1,158	118	277	1,554	337	75	587	998	2,552
	5～9人	697	283	449	1	733	50	79	143	272	1,005
	10～29人	542	102	676	0	778	34	27	336	397	1,175
合計		14,845	5,735	7,783	466	13,985	1,926	628	3,032	5,586	19,571

(4) 区収集ごみ・持込ごみの内訳

区収集ごみ、持込ごみ（許可業者・直接搬入）の内訳については、問 1-1、問 1-2 で回答いただいた品目別比率を加重平均し、これにそれぞれのごみ量を乗じて算出した。

区収集ごみの内訳の加重平均結果を表 5-6-3 に、持込ごみの内訳の加重平均結果を表 5-6-4 に示す。表中網掛けした数字の部分は、回答数が少ないため従業者カテゴリーをまとめている。

表 5-6-3 区収集ごみ内訳の加重平均結果

業種・従業者規模		回答数	区集①生 ごみ組成 比率	区集②新 聞等組成 比率	区集③包 装紙組成 比率	区集④OA 紙等組成 比率	区集⑤び ん・缶組 成比率	区集⑥プ ラ等組成 比率	区集⑦そ の他組成 比率
1 建設業	1～4人	28	12.6%	18.7%	9.8%	21.5%	11.6%	15.1%	10.7%
	5～9人	16	9.7%	11.2%	17.8%	28.5%	10.5%	14.0%	8.2%
	10～29人	13	10.5%	10.1%	10.7%	45.0%	5.1%	13.6%	5.1%
2 製造業	1～4人	76	18.4%	16.8%	11.2%	12.8%	13.3%	12.9%	14.6%
	5～9人	22	14.2%	18.1%	20.5%	11.5%	11.1%	11.0%	13.6%
	10～29人	11	9.2%	20.3%	4.6%	28.7%	8.1%	14.5%	14.7%
3 卸売業	1～4人	21	15.4%	13.2%	10.8%	27.3%	5.9%	17.1%	10.3%
	5～29人	15	14.1%	5.8%	12.7%	31.7%	5.4%	19.7%	10.5%
4 小売業	1～29人	60	17.1%	14.8%	14.0%	22.5%	6.4%	14.6%	10.6%
5 飲食業	1～29人	53	51.6%	10.1%	5.9%	5.7%	11.4%	10.5%	4.8%
6 医療・福祉	1～4人	38	8.2%	11.2%	22.5%	19.3%	6.1%	14.8%	17.8%
	5～29人	20	9.5%	11.4%	19.3%	22.1%	8.3%	11.1%	18.4%
7 その他 サービス業等	1～4人	117	17.7%	14.4%	10.3%	24.2%	10.4%	12.5%	10.5%
	5～9人	21	15.6%	13.1%	12.1%	30.0%	8.6%	13.7%	6.9%
	10～29人	10	15.5%	8.9%	13.2%	29.7%	17.0%	8.6%	7.1%

表 5-6-4 持込ごみ内訳の加重平均結果

業種・従業者規模		回答数	持込①生 ごみ組成 比率	持込②新 聞等組成 比率	持込③包 装紙組成 比率	持込④OA 紙等組成 比率	持込⑤そ の他組成 比率
1 建設業	1～29人	16	12.5%	21.3%	13.2%	11.8%	41.2%
2 製造業	1～9人	15	4.5%	20.3%	24.9%	24.9%	25.4%
	10～29人	15	9.8%	19.5%	19.3%	23.0%	28.4%
3 卸売業	1～29人	13	4.4%	24.1%	16.8%	32.4%	22.4%
4 小売業	1～29人	24	14.0%	33.1%	20.7%	17.9%	14.3%
5 飲食業	1～29人	17	69.9%	8.0%	8.3%	6.4%	7.3%
6 医療・福祉	1～4人	12	9.6%	18.6%	15.9%	21.5%	34.5%
	5～29人	20	23.5%	11.4%	15.2%	20.6%	29.3%
7 その他 サービス業等	1～9人	18	14.1%	17.0%	12.6%	12.1%	44.2%
	10～29人	11	22.8%	17.2%	12.6%	21.8%	25.7%

この内訳を用いて区収集ごみ、持込ごみの内訳を算定したものが表 5-6-5 である。

表 5-6-5 品目別事業系ごみの推定結果

業種・従業者規模	事業所数（令和３年）	ごみ（t/年）										資源（t/年）				合計						
		区収集ごみ					持込ごみ					区回収	集団回収	回収業者	資源小計							
		①生ごみ	②新聞・雑誌・段ボール	③包装紙・紙箱	④ＯＡ用紙、印刷物	⑤びん・缶・ペットボトル	⑥プラごみ・容器包装	⑦その他	区収集ごみ小計	①生ごみ	②新聞・雑誌・段ボール						③包装紙・紙箱	④ＯＡ用紙、印刷物	⑤その他	持込ごみ小計		
１建設業	１～４人	744	17	26	13	29	16	21	15	137	11	18	11	10	36	87	224	101	20	24	145	369
	５～９人	328	22	25	40	64	23	31	18	223	21	36	23	20	70	171	394	69	12	2	83	477
	１０～２９人	226	17	16	17	71	8	21	8	157	6	10	6	5	19	45	202	18	17	1	36	238
２製造業	１～４人	1,557	96	87	58	66	69	67	75	518	10	47	57	58	59	231	749	180	43	334	557	1,306
	５～９人	407	30	39	44	24	24	23	29	213	2	9	11	11	11	44	257	196	25	88	310	567
	１０～２９人	296	7	15	3	22	6	11	11	75	67	134	132	157	195	684	759	22	0	305	326	1,085
３卸売業	１～４人	591	20	18	14	36	8	23	14	133	0	2	1	2	2	7	140	43	18	37	97	238
	５～９人	216	21	9	19	47	8	29	16	149	7	40	28	53	37	165	314	34	39	3	76	390
	１０～２９人	153	4	2	4	9	2	6	3	28	19	103	72	138	96	428	456	5	36	246	287	743
４小売業	１～４人	1,383	86	74	70	113	32	73	53	501	40	93	58	50	40	282	783	442	88	122	651	1,434
	５～９人	418	20	17	16	26	7	17	13	118	55	129	81	70	56	390	508	12	15	98	126	634
	１０～２９人	451	18	16	15	24	7	15	11	106	159	375	234	202	162	1,133	1,238	12	0	450	462	1,700
５飲食業	１～４人	1,124	379	74	44	42	84	77	35	734	202	23	24	19	21	290	1,024	152	40	75	267	1,291
	５～９人	346	109	21	13	12	24	22	10	212	551	63	66	51	58	788	1,000	30	15	37	82	1,082
	１０～２９人	282	89	17	10	10	20	18	8	173	449	51	54	41	47	642	815	24	13	30	67	882
６医療・福祉	１～４人	491	14	19	38	33	10	25	30	169	9	18	15	21	33	97	266	47	12	17	77	343
	５～９人	444	41	50	84	97	36	48	80	437	55	27	36	48	69	234	671	65	14	9	89	760
	１０～２９人	416	10	12	21	24	9	12	20	108	238	115	154	208	297	1,011	1,119	53	39	88	181	1,300
７その他 サービス業等	１～４人	3,733	205	167	119	280	120	144	122	1,158	56	67	50	48	175	395	1,554	337	75	587	998	2,552
	５～９人	697	44	37	34	85	24	39	19	283	63	77	57	54	199	450	733	50	79	143	272	1,005
	１０～２９人	542	16	9	13	30	17	9	7	102	154	116	85	147	174	676	778	34	27	336	397	1,175
	合計	14,845	1,265	750	690	1,144	555	733	598	5,735	2,174	1,552	1,255	1,415	1,853	8,250	13,985	1,926	628	3,032	5,586	19,571

第6章 ごみ・資源排出構造分析と将来推計

本章では、これまでの各種実態調査を元に、区内で発生するごみ・資源の排出源別（家庭・事業所）、品目別、排出先別の排出量推計（排出構造分析）を行う。あわせて、現状のまま推移した場合のごみ・資源排出量の将来推計を行い、一般廃棄物処理基本計画（第4次）の見直しに向けた基礎資料とするものである。

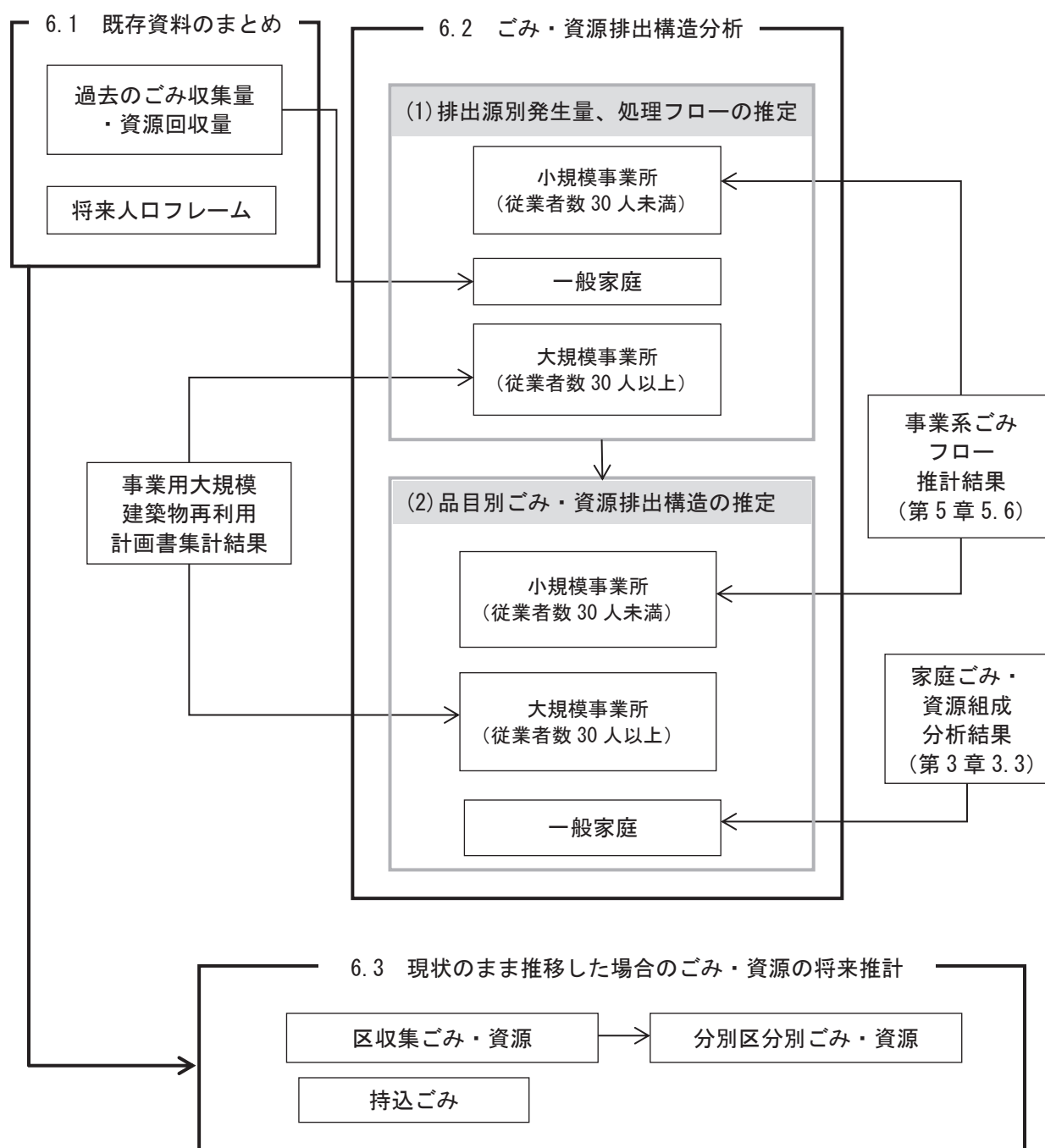


図 6-1-1 ごみ・資源排出構造分析と将来推計の手順

6.1 ごみ・資源排出構造分析

(1) 排出源別発生量、処理フローの推定

①区収集ごみ・資源に混入する小規模事業所ごみ・資源排出量の推定

事業系ごみは区の定める排出基準以下であれば、区収集に排出することが可能である。この区収集に混入する事業系ごみ・資源の排出量推定を、事業系ごみアンケート調査結果をベースとして行った。

本報告書第5章5.6(3)で推計した従業者規模30人未満の事業所の排出量推計結果は表6-1-1のとおりである。ごみ（可燃・不燃）、区資源集積所回収、集団回収の中の事業系混入率は、それぞれ7.7%、11.0%、13.6%と推定される。

表 6-1-1 アンケート調査による小規模事業所のごみ排出量推計結果

単位:t/年

ごみ				資源				合計
区収集	許可業者	直接搬入	小計	区収集	集団回収	回収業者	小計	
5,735	7,783	466	13,985	1,926	628	3,032	5,586	19,571
燃やすごみ・燃やさないごみの事業系ごみ混入比率							7.7%	
区回収（集積所回収）の事業系資源混入比率							11.0%	
集団回収の事業系資源混入比率							13.6%	

②事業用大規模建築物再利用計画書集計結果

大規模事業所（※ここでは従業者数30人以上の事業所）の排出量は、延べ床面積3,000㎡以上の事業用大規模建築物再利用計画書集計結果（令和5年度）が相当するものと見なした。

③排出源別、分別区分別 年間排出量（令和5年度）の推定

以上より、区収集ごみ・資源に混入する事業所ごみ量を推定し、持込ごみ量と合わせ、区内の排出源別、分別区分別 年間排出量を推計した。結果を表6-1-2に示す。また、表6-1-2をフロー図としたものが図6-1-2である。

表 6-1-2 排出源別、分別区分別 年間排出量（令和5年度）推定結果

単位:t/年

区分	ごみ				資源				合計
	燃やすごみ	燃やさないごみ	粗大ごみ	小計	集積所回収	集団回収	拠点・ピックアップ回収	小計	
一般家庭	67,272 ①	1,113 ②	2,531 ③	70,916	15,593 ④	3,990 ⑤	1,507 ⑥	21,091	92,006
小規模事業所	5,642 ⑦	93 ⑧	0	5,735	1,926 ⑨	628 ⑩	0	2,554	8,289
合計	72,914	1,206	2,531	76,651	17,519	4,618	1,507	23,645	100,296

区分	持込ごみ	再生利用	合計
小規模事業所	8,250 ⑪	3,032 ⑫	11,282
大規模事業所	14,531 ⑬	17,044 ⑭	31,575
合計	22,781	20,076	42,857

実績値（持込ごみは実績報告按分）

- ①：実績値－②
- ②：実績値×推計事業系ごみ混入率（7.7%）
- ③：粗大ごみには事業系ごみは混入しないものとする。
- ④：実績値－⑤
- ⑤：事業所アンケート調査による推定
- ⑥：実績値－⑦
- ⑦：事業所アンケート調査による推定
- ⑧：店頭・拠点回収には事業系ごみは混入しないものとする。
- ⑨：事業所アンケート調査による推定
- ⑩：実績値（実績報告按分）－⑨
- ⑪：事業所アンケート調査による推定
- ⑫：事業用大規模建築物再利用計画書集計結果より

※下線を引いた数値は既存統計データ

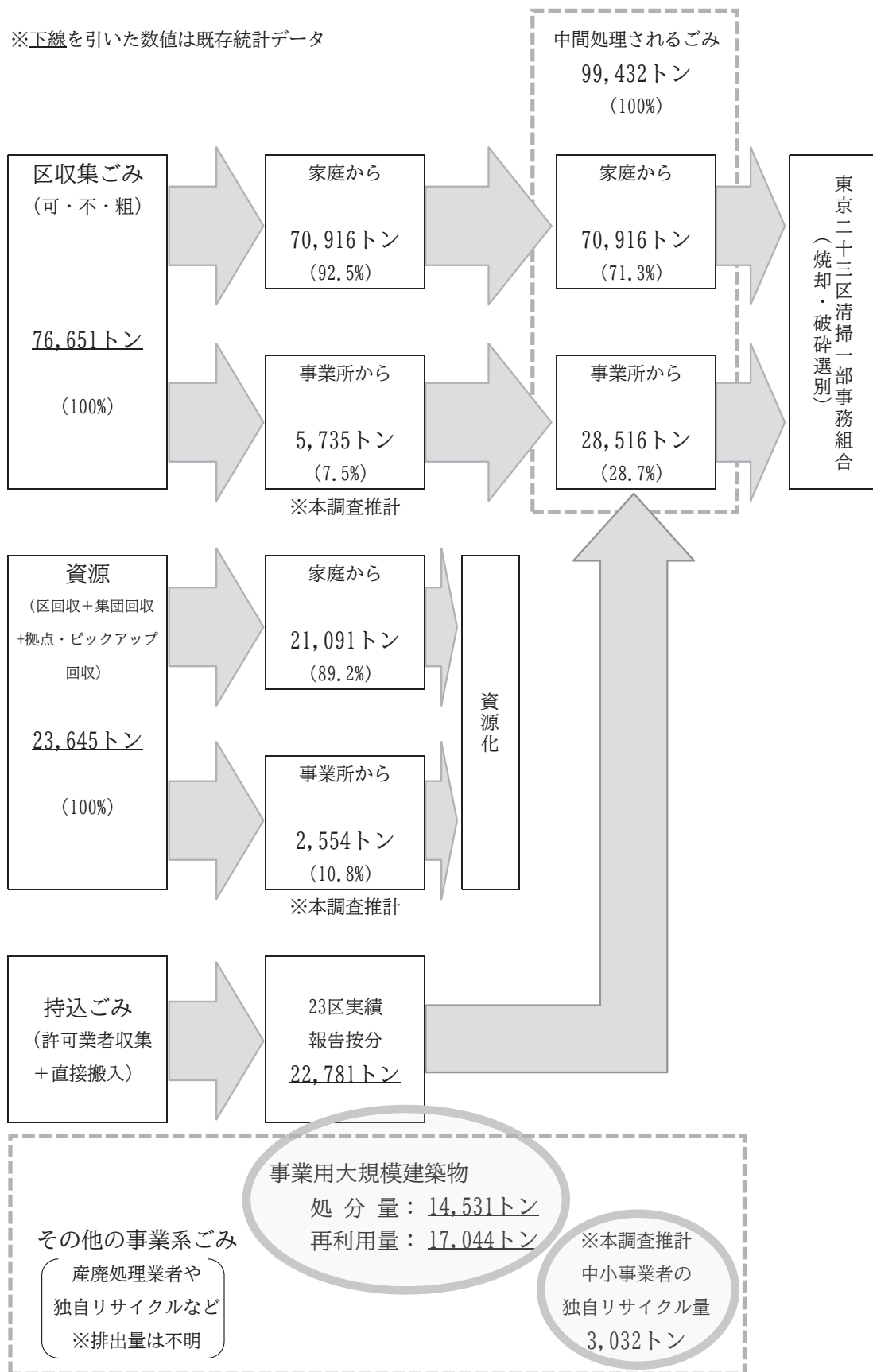


図 6-1-2 排出源別年間排出量（令和 5 年度）推定結果

(2) 品目別ごみ・資源排出構造の推定

①家庭ごみの品目別発生量

表 6-1-2 で得られた家庭系のごみ排出量に、集積所ごみ排出実態調査（第 3 章）で得られた品目別組成比率を乗じて、家庭ごみの品目別排出構造を推定した結果を表 6-1-4 に示す。

また、この結果を品目別に横％表にしたものが表 6-1-3 である。缶の 95.6%、びんの 95.4%、段ボールの 91.4%、ペットボトルの 88.9%、新聞の 85.5%が資源に排出されている一方で、紙パックや他紙類（雑紙）の 8 割以上はごみに排出されている。プラスチック製容器包装も 67.8%がごみに排出されている。

表 6-1-3 家庭系ごみ・資源の排出先別比率（横％）

		ごみ				資源					合計
		燃やすごみ	燃やさないごみ	粗大ごみ	小計	プラスチック製容器包装	集積所回収	集団回収	拠点・ピックアップ回収	小計	
資源	新聞	14.5%	0.0%	0.0%	14.5%	0.0%	40.2%	45.3%	0.0%	85.5%	100.0%
	雑誌	20.2%	0.1%	0.0%	20.4%	0.0%	50.3%	29.4%	0.0%	79.6%	100.0%
	段ボール	8.6%	0.1%	0.0%	8.6%	0.0%	68.5%	22.8%	0.0%	91.4%	100.0%
	紙パック	87.2%	0.0%	0.0%	87.2%	0.2%	11.8%	0.6%	0.2%	12.8%	100.0%
	他紙類	81.2%	0.0%	0.0%	81.2%	0.1%	18.7%	0.0%	0.0%	18.8%	100.0%
	古布類	94.5%	0.0%	0.0%	94.5%	0.0%	3.9%	1.7%	0.0%	5.5%	100.0%
	缶	2.7%	1.6%	0.0%	4.4%	0.3%	75.1%	20.3%	0.0%	95.6%	100.0%
	びん	1.8%	2.8%	0.0%	4.6%	0.1%	95.2%	0.0%	0.0%	95.4%	100.0%
	ペットボトル	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	2.8%	85.8%	0.0%	0.4%	88.9%	100.0%
	食品トレイ	53.8%	0.0%	0.0%	53.8%	46.2%	0.0%	0.0%	0.0%	46.2%	100.0%
	レジ袋	95.2%	0.3%	0.0%	95.4%	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%	4.6%	100.0%
	その他プラ製容器包装	67.8%	0.1%	0.0%	67.8%	32.2%	0.0%	0.0%	0.0%	32.2%	100.0%
	蛍光灯	0.0%	76.3%	0.0%	76.3%	0.0%	23.7%	0.0%	0.0%	23.7%	100.0%
	乾電池	20.2%	63.2%	0.0%	83.4%	7.9%	8.7%	0.0%	0.0%	16.6%	100.0%
	小型家電類	10.0%	11.9%	0.0%	21.9%	0.0%	0.0%	0.0%	78.1%	78.1%	100.0%
	その他資源	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	98.6%	100.0%	100.0%
ごみ	厨芥類（生ごみ）	99.9%	0.0%	0.0%	99.9%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	100.0%
	その他紙類	99.8%	0.1%	0.0%	99.8%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	100.0%
	容器包装以外プラ	86.3%	2.6%	0.0%	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	100.0%
	その他可燃	99.1%	0.2%	0.0%	99.3%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	100.0%
	その他不燃	43.8%	54.0%	0.0%	97.8%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	100.0%
	粗大ごみ	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	合計	71.2%	1.2%	2.7%	75.0%	3.2%	15.4%	4.9%	1.4%	25.0%	100.0%

表 6-1-4 家庭系ごみ、資源の品目別排出量推定結果排出量

単位:t/年

	ごみ			資源					合計
	燃やすごみ (※1)	燃やさないごみ (※1)	粗大ごみ	小計	プラスチック製容器包装 (※1)	集積所回収 (※3)	集団回収	拠点・ピックアップ回収	
資源	新聞	559	0	0.0%			559		
	雑誌	774	5	0.4%			779		
	段ボール	527	3	0.3%			531		
	紙パック	420	0	0.0%			420		
	他紙類	4,711	2	0.2%			4,713		
	古布類	4,293	0	0.0%			4,293		
	缶	35	21	1.8%			55		
	びん	53	81	7.2%			133		
	ペットボトル	242	1	0.1%			243		
	食品トレイ	73	0	0.0%			73		
	レジ袋	575	2	0.2%			577		
	その他プラ製容器包装	5,113	5	0.4%			5,118		
	蛍光管	0	14	1.3%			14		
	乾電池	15	47	4.2%			62		
	小型家電類	151	179	16.1%			330		
	その他資源	0	0	0.0%			0		
	資源小計	17,541	359	32.3%			17,901		
ごみ	厨芥類 (生ごみ)	21,516	0	0.0%			21,516		
	その他紙類	12,733	8	0.7%			12,742		
	容器包装以外プラ	2,414	72	6.5%			2,486		
	その他可燃	12,547	31	2.8%			12,578		
	その他不燃	521	642	57.7%			1,163		
	粗大ごみ	0	0	0.0%			2,531		
	ごみ小計	49,731	753	67.7%			53,015		
	合計 (※2)	67,272	1,113	100.0%			70,916		
	※1 斜体%表示は、組成分析調査結果								
	※2 ごみ・資源の合計値は小規模事業者分を除いた純家庭系								
	※3 集積所回収の雑誌・雑紙量は、区統計の雑誌回収量中の36.1%が雑誌である、組成分析調査結果から設定し推計。								
	※4 令和元年度の資源 (雑誌・雑紙) の組成分析結果より、雑誌・雑紙の内訳は、雑誌・書籍が63.9%、雑紙が36.1%であった。								

②小規模事業所の品目別ごみ・資源排出量

従業者数 30 人未満の小規模事業所からの品目別排出量は、事業所アンケート調査から推定したものを用いる。これを表 6-1-5～表 6-1-7 に示す。

表 6-1-5 小規模事業所からの品目別排出量推定結果（ごみ）

単位:t/年

品目	収集区分	ごみ		
		区収集	持込	合計
生ごみ		1,265	2,174	3,439
新聞・雑誌・段ボール		750	1,552	2,303
包装紙・紙箱		690	1,255	1,945
OA用紙、印刷物		1,144	1,415	2,559
びん・缶・ペットボトル		555	1,853	3,739
プラスチックごみ・容器包装		733		
その他		598		
資源小計（※1）		3,139	4,222	7,361
合計		5,735	8,250	13,985

※1 持込ごみのびん・缶・ペットボトルは除く。

表 6-1-6 小規模事業所からの品目別排出量推定結果（資源）

単位:t/年

品目	収集区分	資源		
		区収集	集団回収	業者回収
資源量		1,926	628	3,032
				合計
				5,586

資源物全体では、56.9%がごみとして廃棄されていると推計される。

表 6-1-7 小規模事業所からの古紙類排出量推定結果

品目	収集区分	ごみ			資源				合計
		区収集	持込	ごみ合計	区収集	集団回収	業者回収	資源合計	
資源量（t/年）		3,139	4,222	7,361	1,926	628	3,032	5,586	12,948
割合		24.2%	32.6%	56.9%	14.9%	4.8%	23.4%	43.1%	100.0%

③大規模事業所

従業者数 30 人以上の大規模事業所の排出量を、事業用大規模建築物再利用計画書集計結果のとおりと見なした場合、表 6-1-8 のとおりとなる。

表 6-1-8 事業用大規模建築物再利用計画書集計結果（令和 5 年度）

	発生量 (t/年)	再利用量 (t/年)	処分量 (t/年)	再利用率 (%)
①コピー・OA用紙	305	263	72	86
②機密文書	374	324	50	87
③雑誌・パンフ等	243	242	1	99
④新聞紙・チラシ	141	127	14	90
⑤段ボール	4,131	4,080	51	99
⑥その他紙類	1,560	356	1,205	23
⑦紙類計	6,754	5,392	1,392	80
⑧厨芥	4,447	480	3,967	11
⑨木・草・繊維等	1,829	268	1,561	15
⑩小計（⑦+⑧+⑨）	13,030	6,140	6,921	47
⑪びん類	95	93	1	99
⑫缶類	242	239	3	99
⑬ペットボトル	186	183	3	99
⑭食用油	224	200	24	89
⑮その他	2,225	938	1,287	42
⑯小計（⑪～⑮）	2,971	1,654	1,317	56
⑰特定の事業活動に伴う可燃物	9,331	9,251	81	99
合計	25,332	17,044	8,319	67

6.2 現状のまま推移した場合のごみ・資源の将来推計

(1) 全体排出量の将来推計

区収集ごみ・資源については、分別区分ごとに区民1人1日あたりの排出原単位を過去の実績として使用し、4通りの数式で最小二乗法による式の当てはめを行った。燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ、集団回収、区回収は、線形式と指数式は減少幅が大きすぎ、対数式は令和6年度の値が大きすぎることから、分数式を採用した。持込ごみは、令和2年度以降の4年間の日量実績を元に、最小二乗法による式の当てはめを行い、決定係数の最も高い対数式を採用した

表 6-2-1 年間排出量の推計結果

年度	1人1日あたり総排出量 (g/人日)					持込ごみ 量(t/日)
	燃やす ごみ	燃やさない ごみ	粗大 ごみ	集団 回収	区回収	
R6	434.5	6.0	16.9	28.3	114.2	61.7
R7	432.8	5.6	16.7	28.1	114.1	61.9
R8	431.6	5.2	16.6	28.0	114.0	62.0
R9	430.7	5.0	16.5	27.9	113.9	62.1
R10	430.0	4.8	16.4	27.8	113.9	62.2
R11	429.4	4.6	16.4	27.8	113.9	62.2
R12	429.0	4.5	16.3	27.7	113.8	62.3
R13	428.6	4.4	16.3	27.7	113.8	62.4
R14	428.3	4.3	16.3	27.7	113.8	62.4
R15	428.0	4.2	16.2	27.6	113.8	62.5
R16	427.8	4.1	16.2	27.6	113.7	62.5
R17	427.5	4.1	16.2	27.6	113.7	62.6
R18	427.4	4.0	16.2	27.6	113.7	62.6
R19	427.2	4.0	16.1	27.6	113.7	62.7
R20	427.0	3.9	16.1	27.6	113.7	62.7
R21	426.9	3.9	16.1	27.5	113.7	62.8
R22	426.8	3.8	16.1	27.5	113.7	62.8

年度	ごみ・資源排出量 (t/年)									
	燃やす ごみ	燃やさない ごみ	粗大 ごみ	区収集量 合計	持込 ごみ	ごみ量合 計	集団 回収	区回収	資源 合計	合計
R6	74,831	1,039	2,913	78,782	22,531	101,313	4,866	19,669	24,535	125,849
R7	74,809	960	2,892	78,661	22,580	101,241	4,856	19,720	24,577	125,818
R8	74,456	899	2,865	78,219	22,622	100,841	4,828	19,668	24,495	125,336
R9	74,359	855	2,850	78,064	22,720	100,783	4,817	19,673	24,489	125,273
R10	73,890	817	2,824	77,531	22,689	100,220	4,783	19,572	24,355	124,575
R11	73,649	788	2,808	77,245	22,718	99,962	4,765	19,527	24,292	124,254
R12	73,425	764	2,794	76,983	22,743	99,727	4,748	19,483	24,231	123,958
R13	73,353	745	2,787	76,885	22,829	99,714	4,741	19,477	24,219	123,933
R14	72,891	725	2,766	76,382	22,788	99,170	4,710	19,365	24,075	123,245
R15	72,637	710	2,753	76,099	22,808	98,907	4,692	19,307	23,999	122,907
R16	72,389	696	2,741	75,826	22,827	98,653	4,675	19,249	23,924	122,577
R17	72,345	686	2,737	75,767	22,907	98,674	4,671	19,245	23,916	122,589
R18	71,888	673	2,717	75,278	22,860	98,139	4,641	19,129	23,770	121,909
R19	71,633	663	2,706	75,001	22,876	97,877	4,623	19,067	23,690	121,567
R20	71,381	654	2,694	74,729	22,890	97,619	4,606	19,005	23,611	121,230
R21	71,326	647	2,691	74,664	22,967	97,631	4,602	18,994	23,597	121,227
R22	70,884	638	2,673	74,194	22,917	97,111	4,573	18,881	23,454	120,565

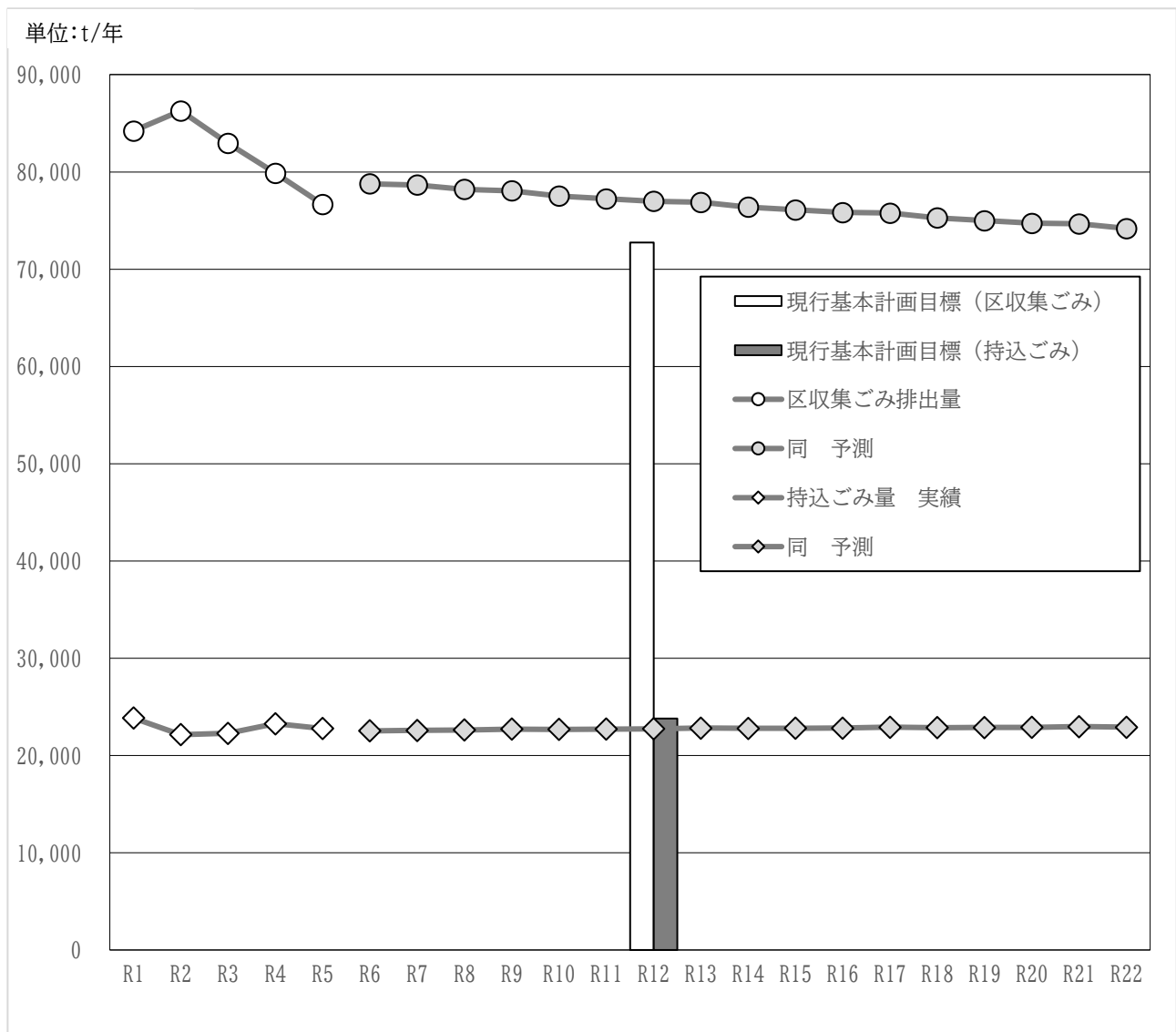


図 6-2-1 年間排出量の推計結果（グラフ）

令和 6 年度葛飾区一般廃棄物処理基本計画
見直しに係る基礎調査報告書
(概要版)

発 行：令和 7 年 3 月

委 託：葛飾区 環境部 リサイクル清掃課

〒124-8555 東京都葛飾区立石 5-13-1

受 託：株式会社 杉山・栗原環境事務所

〒107-0062 東京都港区南青山 2-2-15-942

